

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411034

研究進捗状況報告書の概要

1 研究プロジェクト

学校法人名	学校法人 関西大学	大学名	関西大学
研究プロジェクト名	ビジネスにおけるデータサイエンスの深化を目指す総合的研究拠点の形成		
研究観点	研究拠点を形成する研究		

2 研究プロジェクトの目的・意義及び計画の概要

本研究プロジェクトの目的は、多様なビジネス分野においてデータサイエンスの様々な技術を応用し、基礎技術・アプリケーションの開発、消費者行動のモデル開発、実践による検証というデータサイエンスプロセスを実現する総合研究拠点を形成することである。ビジネス分野におけるビッグデータ解析の実用化のためには、応用領域の専門知識と分析・モデリングの技術が必要不可欠である。本プロジェクトは、流通/経営、サステイナブル/マネジメント、アカウントティング/ファイナンス分野のそれぞれの専門家と情報技術/モデリングの研究者との共同研究を真に実現する体制を構築する。また、産学連携および国内外の優れた研究機関との連携のもとで NOE (Network of Excellence)の中核組織を指向する。国際連携および研究分野を大きく拡張し、当該分野における世界トップレベルの研究拠点を形成することが本研究プロジェクトの最終目的である。

本プロジェクトの初年度と平成 27 年度は、研究環境の準備と基礎研究を中心に進め、モデル構築のために国際ワークショップを開催して幅広く実験仮説のアイデアを集め、検討する。平成 28 年度は、理論モデルの構築ならびにデータ解析に取り組む。これと並行して平成 30 年度までに、国際会議の主催、各分野の実証結果をまとめた英文研究叢書の刊行を行い、研究成果の社会還元、情報発信とともに研究の総括を行う。

3 研究プロジェクトの進捗及び成果の概要

申請時の計画を概ね良好に達成しており、一部、前倒しで計画を進めることができた。当初の計画では各応用領域において 3 年目はモデル構築と理論的検討であったが、流通/経済、アカウントティング/ファイナンス分野において、データでの実証も実施し、研究発表を行うことができた。サステイナブル/マネジメント分野ではモデル構築と理論的考察を行い、主催国際会議で十分な検討を行うことができた。本研究プロジェクトによる共同研究論文は 3 年目の時点で 10 本を超えるものとなった。このように当初の構想より共同研究が活発に進んでいるため、3 年目に予定されていた英文研究叢書の出版のかわりに国際学術雑誌で 2 つの特集号を組むことができた。各応用分野の顕著な研究成果に焦点を絞り成果概要を説明すると、流通/経済分野では顧客動線、アイトラッキングなどの先端研究を先導する多くの論文を公刊でき、複数の受賞歴にあるように、当該領域における高い学術的評価を得ることができた。会計/ファイナンス分野では機械学習を用いた財務諸表データ分析の有効性を検証し、会計分野に初めてデータマイニング手法を導入した先駆的研究として大きな関心を集めている。これらは各応用領域班と情報技術/モデリング班との共同研究の成果であり、当該領域における研究フロンティアを開拓したものとして、高い評価を得ることができた。

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411034

**平成26年度選定「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」
研究進捗状況報告書**

1 学校法人名 学校法人 関西大学 2 大学名 関西大学

3 研究組織名 データサイエンス研究センター

4 プロジェクト所在地 大阪府吹田市山手町3-3-35

5 研究プロジェクト名 ビジネスにおけるデータサイエンスの深化を目指す総合的研究拠点の形成

6 研究観点 「研究拠点を形成する研究」

7 研究代表者

研究代表者名	所属部局名	職名
矢田 勝俊	ソシオネットワーク 戦略研究機構・商学部	教授

8 プロジェクト参加研究者数 25 名

9 該当審査区分 理工・情報 生物・医歯 人文・社会

10 研究プロジェクトに参加する主な研究者

研究者名	所属・職名	プロジェクトでの研究課題	プロジェクトでの役割
矢田 勝俊	ソシオネットワーク戦略研究機構・商学部・教授	プラットフォーム開発および研究総括	学際研究のためのプラットフォーム開発および研究総括
乙政 正太	商学部・教授	コーポレートガバナンスにおける会計情報の有用性に関する実証研究	財務・金融関連情報のデータベースの活用
藤岡 里圭	商学部・教授	流通・経営チームの統括および百貨店の顧客分析に関する研究	顧客分析のラグジュアリーマーケットへの応用
中畠 道靖	商学部・教授	サステナブル・マネジメントの体系化および事例研究の総括	学際研究のためのサステナブル・マネジメント・システムの開発
岡 照二	商学部・准教授	サステナブル・マネジメントにおける企業マネジメントに関する研究	学際研究のためのサステナブル・マネジメント・システムにおける企業マネジメント手法の開発
岸谷 和広	商学部・教授（前准教授）	消費者行動分析に基づく店頭管理の研究	消費者の行動から顧客分析を考察

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411034

研究者名	所属・職名	プロジェクトでの研究課題	プロジェクトでの役割
木村 麻子	商学部・教授（前准教授）	サステナブル・マネジメントにおけるサプライチェーンに関する研究	学際研究のためのサステナブル・マネジメント・システムにおけるサプライチェーン・マネジメント手法の開発
高井 啓二	ソシオネットワーク戦略研究機構・商学部・准教授	ビジネスデータの分析手法開発及びモデリングチーム統括	各チームが扱うデータ分析技術の基盤確立
宮崎 慧	ソシオネットワーク戦略研究機構・商学部・准教授	店舗実験計画の遂行および統計モデリング	統計モデリングを通じた消費者行動の理解促進
岩崎 拓也	商学部・准教授（前助教）	コーポレートガバナンスにおける会計情報の有用性に関する実証研究	財務・金融関連情報に関するプログラミング
千葉 貴宏	商学部・助教	マーケティングサイエンスに基づく顧客行動モデリング	マーケティングサイエンスに基づく消費者行動モデルの高度化
村上 啓介	商学部・助教	計算処理の高速化のためのアルゴリズム開発	計算処理の高速化、アルゴリズム開発
(共同研究機関等) 里村 卓也	慶應義塾大学・商学部・教授	経済学理論を応用した顧客行動モデリング	経済学理論による購買行動の理解促進
岡田 謙介	専修大学・人間科学部・准教授	心理学理論を背景とした顧客行動の統計モデリング	心理統計手法を通じた消費者行動の理解促進
佐野 夏樹	尾道市立大学・経済情報学部・准教授（前東京理科大学・理工学部・助教）	統計モデルの応用	時系列解析による行動分析
塩地 洋	京都大学・経済学部・教授	新興国自動車市場におけるラグジュアリーブランドの流通に関する研究	顧客分析を通じたラグジュアリーブランドの普及についての考察

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411034

研究者名	所属・職名	プロジェクトでの研究課題	プロジェクトでの役割
ピエール=イブ、 ドンゼ	大阪大学・ 大学院経済 学研究科・ 教授（前准 教授）（平成 27年3月 31日ま で：京都大 学・白眉セ ンター・准 教授）	ラグジュアリーブランド戦略 とラグジュアリー時計の流通 に関する研究	顧客分析を通じたラグジュ アリーブランド戦略と 流通システムに関する考 察
鷺尾 隆	大阪大学・ 産業科学研 究所・教授	機械学習を用いた顧客行動の 時系列モデリング	データマイニングアプリ ケーションの開発
清水 昌平	滋賀大学・ データサイ エンス教育 研究センタ ー・准教授 （前大阪大 学・産業科 学研究所・ 准教授）	因果モデリングによるビジネ スデータでの因果発見	ビジネスデータにおける 因果構造の発見の支援
椎葉 淳	大阪大学・ 大学院経済 学研究科・ 教授（前准 教授）	コーポレートガバナンスにお ける会計情報の有用性に関 する実証研究	財務・金融関連情報を利用 した理論モデルの構築
廣瀬 慧	九州大学・ マス・フォ ア・インダ ストリ研究 所・准教授 （前大阪大 学・大学院 基礎工学研 究科・助教）	機械学習による現象理解とア ルゴリズム開発	大規模計算における計算 時間短縮のためのアルゴ リズム開発
市川 昊平	奈良先端科 学技術大学 院大学・情 報科学研究 科・准教授	分散処理技術を応用した計算 処理の高速化	クラウドコンピューティ ングにおける高速 ASP シ ステムの開発

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411034

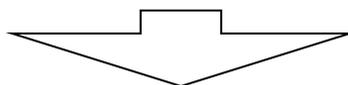
研究者名	所属・職名	プロジェクトでの研究課題	プロジェクトでの役割
首藤 昭信	東京大学・大学院経済学研究科・准教授（前神戸大学・経済経営研究所・准教授）	コーポレートガバナンスにおける会計情報の有用性に関する実証研究	財務・金融関連情報を利用した実証分析
左 毅	名古屋大学・未来社会創造機構・特任助教	マーケティング理論を応用した顧客購買行動の統計モデリング	ベイジアンネットワークを用いた顧客購買行動の理解促進
李 振	東洋大学・経営学部・専任講師	マーケティングサイエンスに基づく消費者行動モデルおよび理論の開発	消費者行動モデルに基づく理論開発

<研究者の変更状況(研究代表者を含む)>

旧

プロジェクトでの研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
マーケティング理論を応用した顧客購買行動の統計モデリング	株式会社ビデオリサーチソリューション推進局メディア・コミュニケーション事業推進部	猪狩 良介	マーケティングサイエンス手法を用いた顧客購買行動の理解促進

(変更の時期:平成27年 4月 1日)



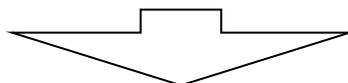
新

変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
	名古屋大学・未来社会創造機構・特任助教	左 毅	ベイジアンネットワークを用いた顧客購買行動の理解促進

旧

プロジェクトでの研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割

(変更の時期:平成28年 7月 1日)



新

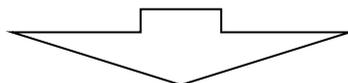
変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
	関西大学・商学部・助教	千葉 貴宏	マーケティングサイエンスに基づく消費者行動モデルの高度化

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411034

旧

プロジェクトでの研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割

(変更の時期:平成28年 7月 1日)



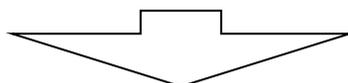
新

変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
	関西大学・商学部・助教	村上 啓介	計算処理の高速化、アルゴリズム開発

旧

プロジェクトでの研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割

(変更の時期:平成28年 7月 1日)



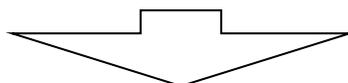
新

変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
	奈良先端科学技術大学院大学・情報科学研究科・准教授	市川 昊平	クラウドコンピューティングにおける高速ASPシステムの開発

旧

プロジェクトでの研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割

(変更の時期:平成28年 7月 1日)



新

変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
関西大学ポスト・ドクトラル・フェロー	東洋大学・経営学部・専任講師 (平成28年4月1日より)	李 振	消費者行動モデルに基づく理論開発

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411034

11 研究進捗状況(※ 5枚以内で作成)

(1) 研究プロジェクトの目的・意義及び計画の概要

本研究プロジェクトの目的は、多様なビジネス分野においてデータサイエンスの様々な技術を応用し、基礎技術・アプリケーションの開発、消費者行動のモデル開発、実践による検証というデータサイエンスプロセスを実現する総合研究拠点を形成することである。ビジネス分野におけるビッグデータ解析の実用化のためには、応用領域の専門知識と分析・モデリングの技術が必要不可欠である。本プロジェクトは、流通/経営、サステナブル/マネジメント、アカウンティング/ファイナンス分野のそれぞれの専門家と情報技術/モデリングの研究者との共同研究を真に実現する体制を構築する。また、産学連携および国内外の優れた研究機関との連携のもとで NOE (Network of Excellence)の中核組織を指向する。国際連携および研究分野を大きく拡張し、当該分野における世界トップレベルの研究拠点を形成することが本研究プロジェクトの最終目的である。

本プロジェクトの初年度と平成 27 年度は、研究環境の準備と基礎研究を中心に進め、モデル構築のために国際ワークショップを開催して幅広く実験仮説のアイデアを集め、検討する。平成 28 年度は、理論モデルの構築ならびにデータ解析に取り組む。これと並行して平成 30 年度までに、国際会議の主催、各分野の実証結果をまとめた英文研究叢書の刊行を行い、研究成果の社会還元、情報発信とともに研究の総括を行う。

(2) 研究組織

1. 研究代表者の役割

研究代表者は本プロジェクトの研究目的を遂行するため、研究分野が異なるチームおよび研究者間で活発なコミュニケーションが行われるように研究メンバーの統括・管理を行う。具体的には、研究会やワークショップ、国際会議の開催など【別紙資料 P26～31】様々な機会を設け、共同研究の基盤構築と研究方向の確認、意思統一を図っている。また、プロジェクトの進捗状況に応じた予算配分の検討を行い、センターの推進委員会での合議を経て決定している。さらに、国際連携や産学連携において、各研究員と外部（海外研究機関、企業群）との橋渡し役も担っている。

2. 各研究者の役割分担・責任体制

本研究プロジェクトでは、多様なビジネス分野においてデータサイエンスプロセスを実現するために、図 1 に示すような 3 つの応用領域ならびにモデリング、解析を担当する技術領域の専門家で構成される計 4 チームで研究（タスク）を統合していかなければならない。各研究者は、所属するチームの領域において少なくとも 1 つの専門領域を持ちながら、共同研究を行っている。流通/経営チーム（以下「流通 T」という）では、藤岡をチームリーダーとし、岸谷、塩地、ドンゼと共に消費財流通分野における消費者行動モデルの深化とビジネスモデルの有効性の検証を行っている。サステナブル/マネジメントチーム（以下「環境 T」という）では、中寫がチームリーダーを担当し、木村、岡と共に環境負荷低減と企業価値向上の両立を達成するサステナブルな企業活動を支える新たな理論、モデルの開発を行う。アカウンティング/ファイナンスチーム（以下「会計 T」という）では、乙政をチームリーダーとし、岩崎、椎葉、首藤と共に国内外に蓄積される長期間・多次元の会計・金融情報を基礎に経営者と株主間の利害関係を明らかにし、新しい理論構築と実証分析を行う。情報技術/モデリングチーム（以下「情報 T」という）では、宮崎をチームリーダーとし、上述のビジネス 3 分野における多様なビッグデータに対して、先端の多次元・時系列モデルを適用し、さらなるモデル改善、実証を行い、実用化を念頭にした実装までを実現する。情報 T には、統計数理や機械学習、計算機科学など多様な専門技術に基づくアプローチが求められる。よって、それぞれの技術において優れた実績を持つ研究者、および PD による新しいモデリング手法、アルゴリズムの開発、それらの実装・公開やクラウド上での利用環境の構築が行われている。研究内容の性質上、大規模、かつ多次元のデータのハンドリングやモデリングが必要であり、情報 T は応用領域の 3 チームとの連携が必要不可欠である。そのため、センター長矢田、および副センター長高井は、情報 T と他のチーム間の連携や統括、管理を行っている。矢田や情報 T が中心となり、実験仮説に関する議論や研究者間の意思の統一、進捗状況の報告が関西大学（大阪府吹田市）で平均月 2 回以上行われている【別紙資料 P26～30】。

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411034

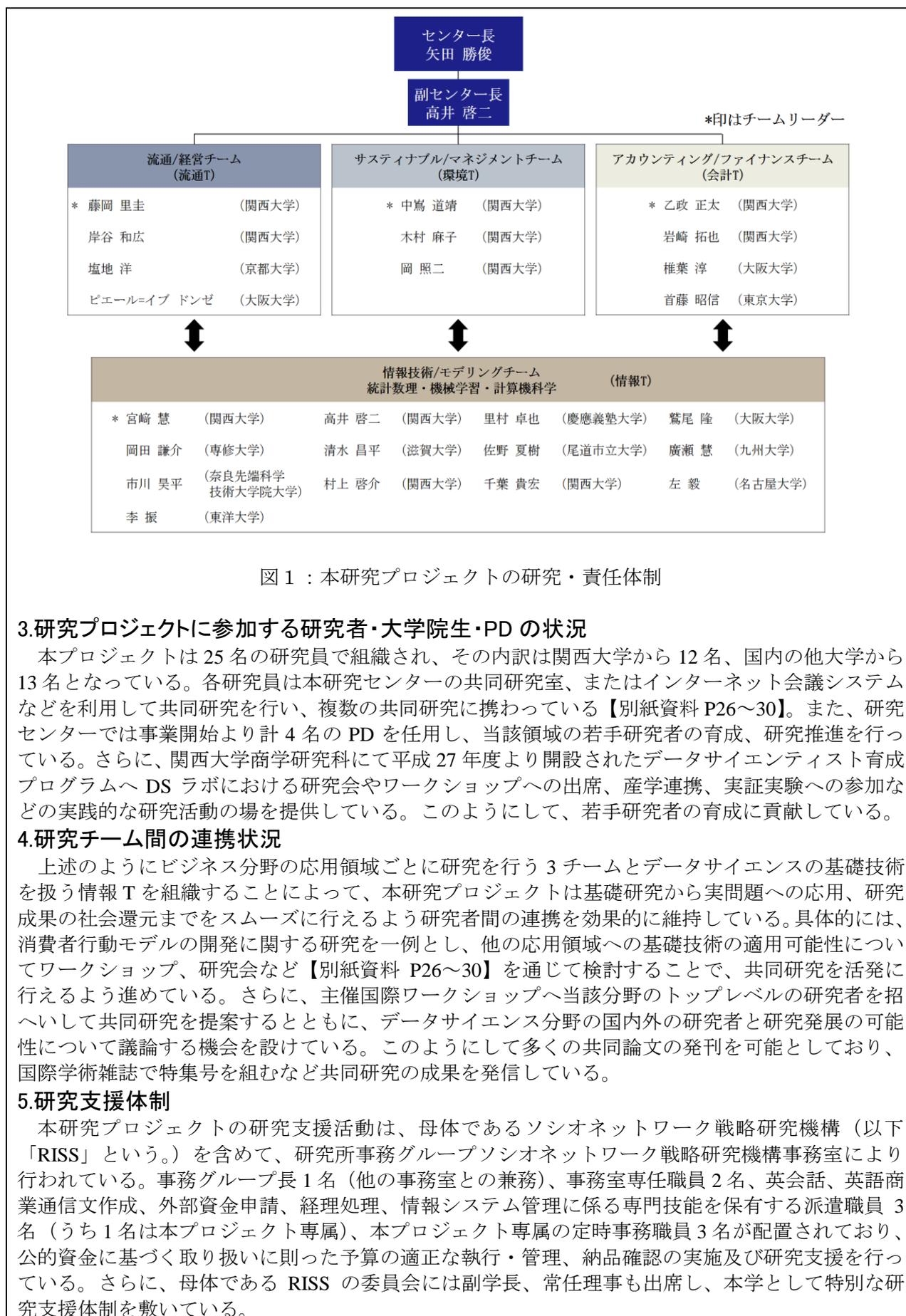


図1：本研究プロジェクトの研究・責任体制

3. 研究プロジェクトに参加する研究者・大学院生・PD の状況

本プロジェクトは25名の研究員で組織され、その内訳は関西大学から12名、国内の他大学から13名となっている。各研究員は本研究センターの共同研究室、またはインターネット会議システムなどを利用して共同研究を行い、複数の共同研究に携わっている【別紙資料 P26～30】。また、研究センターでは事業開始より計4名のPDを任用し、当該領域の若手研究者の育成、研究推進を行っている。さらに、関西大学商学研究科にて平成27年度より開設されたデータサイエンティスト育成プログラムへDSラボにおける研究会やワークショップへの出席、産学連携、実証実験への参加などの実践的な研究活動の場を提供している。このようにして、若手研究者の育成に貢献している。

4. 研究チーム間の連携状況

上述のようにビジネス分野の応用領域ごとに研究を行う3チームとデータサイエンスの基礎技術を扱う情報Tを組織することによって、本研究プロジェクトは基礎研究から実問題への応用、研究成果の社会還元までをスムーズに行えるよう研究者間の連携を効果的に維持している。具体的には、消費者行動モデルの開発に関する研究を一例とし、他の応用領域への基礎技術の適用可能性についてワークショップ、研究会など【別紙資料 P26～30】を通じて検討することで、共同研究を活発に行えるよう進めている。さらに、主催国際ワークショップへ当該分野のトップレベルの研究者を招へいして共同研究を提案するとともに、データサイエンス分野の国内外の研究者と研究発展の可能性について議論する機会を設けている。このようにして多くの共同論文の発刊を可能としており、国際学術雑誌で特集号を組むなど共同研究の成果を発信している。

5. 研究支援体制

本研究プロジェクトの研究支援活動は、母体であるソシオネットワーク戦略研究機構（以下「RISS」という。）を含めて、研究所事務グループソシオネットワーク戦略研究機構事務室により行われている。事務グループ長1名（他の事務室との兼務）、事務室専任職員2名、英会話、英語商業通信文作成、外部資金申請、経理処理、情報システム管理に係る専門技能を保有する派遣職員3名（うち1名は本プロジェクト専属）、本プロジェクト専属の定時事務職員3名が配置されており、公的資金に基づく取り扱いに則った予算の適正な執行・管理、納品確認の実施及び研究支援を行っている。さらに、母体であるRISSの委員会には副学長、常任理事も出席し、本学として特別な研究支援体制を敷いている。

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411034

6.共同研究機関等の連携状況

本プロジェクトの目的である「世界トップレベルの研究拠点」を構築するために、国外の研究機関との連携を行っている。英国オックスフォード大学との流通消費財に関するビッグデータ解析研究、独国フオルツハイム大学とのサステイナブルマネジメント研究、米国 NYU とのアカウンディングモデリング研究などと、国際ワークショップの開催【別紙資料 P31】を通じて共同研究を推進している。このように欧米を中心に研究者と連携することにより、世界トップレベルの研究活動を行っている。

(3)研究施設・設備等

1.研究施設の面積

本研究プロジェクトの母体である RISS の建物に、以下の研究スペースが確保されている。なお、当建物はセキュリティカードの利用により 24 時間 365 日の利用が可能な研究環境を整備している。

DS ラボセンター長室	39.60m ²	DS ラボ研究室 1～2	各 19.80m ²
DS ラボ共同研究室 1～2	各 39.60m ²	DS ラボ実験室	39.60m ²
DS ラボサーバ管理室	19.80m ²		(合計 217.80m ²)

また、以下の研究スペースは DS ラボの母体である RISS と共用で利用している。

マルチメディア・ラボ	120.00m ²	多次元・時系列データサイエンスクラウドシステム・サーバ・ネットワーク機器を設置
サーバ室	19.80 m ²	
		(合計 139.80m ²)

2.主な研究装置、設備の名称及びその利用時間数

多次元・時系列データサイエンスクラウドシステム（情報処理関係設備）

19,920 時間（平成 26 年 12 月 20 日設置～平成 29 年 3 月末まで常時稼働。設置日及び法定停電日計 3 日間を除く）研究者の自由なデータベースの利用を図るため、24 時間の常時稼働を行っている。

(4)進捗状況・研究成果等 ※下記、13及び14に対応する成果には下線及び*を付すこと。

<現在までの進捗状況及び達成度>

本プロジェクトの進捗状況は、応用分野によって異なるが目標数以上の研究論文を発表するなど、全体的に順調に推移している。以下では各年度の計画内容にそって、進捗状況と達成度を説明する。

1 年目

初年度は理論的な検討や技術的な調査に取り組み、申請時の計画内容をすべて実施することができた。

1)データサイエンスクラウドシステムの構築：構造の異なる大規模データを蓄積・管理し、データサイエンス分野の技術を多様なビジネス分野へ応用するため、我々が開発した MUSASHI-ASP を導入し、データ構造の設計、システム構築を行い、運用を開始した。各応用領域のデータを格納し、各研究員の分析ニーズに応えることができる解析支援システムが運用されている。

2)応用領域における理論及び枠組みの検討：研究会などを実施して各応用領域での共同研究の可能性について検討した。流通・経営分野では、これまでに取り組んできた顧客動線分析に加えて、**アイトラッキングデータを用いた消費者行動モデルの構築**などの先端手法を用いた研究に取り組み、データサイエンスを軸とした研究の応用例となることを目指す。また、ラグジュアリー市場や自動車需要などの消費財流通について世界各国の年報からデータベースを構築し、経済モデルの開発にも取り組む。サステイナブル/マネジメント分野（以下、環境分野と記す）では、生産現場における作業時の環境や作業による調整などから、生産過程で生じる**資材の無駄（マテリアルロス）の削減**のための知見を得ることを目指す。アカウンティング/ファイナンス分野（以下、会計分野と記す）では、データマイニング技法を用いて**財務諸表データを分析**することで、企業収益予測の精度を高めることを目指す。

3)先端手法主導型の研究推進：平成 27 年 2 月にアイトラッキングを用いた初期店舗実験を実施した。収集したデータより、アイトラッキング技術を用いた研究の実現可能性を検討するための環境を構築した。

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411034

4)キックオフミーティング：平成27年3月に関西大学東京センター、および千里山キャンパスにて国際ワークショップ【別紙資料P14】を開催し、国内研究者、各応用領域の著名な研究者が参加し、データサイエンス技術の応用可能性について議論した。

2年目

初年度の検討に基づいて、2年目は各領域において産学連携をしながら企業データの収集、実験環境の整備に取り組み、応用領域によって進捗が異なるが、プロトタイプとなるモデルの開発など、共同研究を全体として順調に進めることができた。

1)消費者行動モデル用データベースの構築：初年度に実施したアイトラッキングを用いた初期店舗実験の結果に基づき、分析用データベースを構築した。また、世界各国の自動車保有台数について1950年代から現在までの年報を収集して経済モデル開発のためのデータベースを構築した。

アイトラッキングに関しては、平成27年6月～7月には主催国際ワークショップ【別紙資料P15】へ当該分野のトップクラスの研究者を招へいして、仮説検証に基づく店舗実験とモデル構築の可能性について議論した。さらに、データ入力に要する時間を考慮して平成28年3月には約30人の被験者を対象とした店舗実験を実施し、分析に用いるデータを収集して、3年目に先端主導型の研究を実施するための準備を開始した。

2)サステナブルマネジメント用データベースの構築とモデル開発：当初の計画では2年目に分析用データベースの構築を予定していたが、より有意義な分析結果を導くために分析の対象とする企業の調査・選定やデータ提供の交渉に、当初より多くの期間を割いた。

3)会計・金融情報用データベースの構築：平成26年から過去10数年の財務諸表より企業収益予測モデルを構築するための変数を抽出して分析用データベースを構築した。スパースモデリングなどの近年注目を集めている手法を用いた変数選択およびモデル比較を行い、平成28年3月に開催した主催国際ワークショップ【別紙資料P16】にてその結果について発表し、招へいした会計分野の研究者およびデータサイエンス分野の研究者と今後の展開について議論した。

4)研究成果の発信：消費者行動モデルに関する成果発表を中心にアメリカ、シンガポールなどで開催されたICDM、KESなどの著名な国際会議において併設ワークショップや特別セッションを主催し成果発表を行い[*7、10、11、12、34、356]、本研究プロジェクトの情報発信を行った【別紙資料P31】。

3年目

流通・経営分野と会計分野における研究成果により計10本以上の論文を発表することができた。また、当該分野の研究論文を集め、国際学術雑誌で特集号を出版することで情報発信を行った【別紙資料P11】。平成29年度中にも特集号の出版が決定している【別紙資料P12～13】。アイトラッキングなどの先端技術を用いた研究についても成果発表に向けた準備を進めており、概ね順調にプロジェクトを進めることができた。

1)各応用領域における研究成果のとりまとめ：流通・経営分野では、消費者行動モデルに関する成果発表[*1、3、4、5、8、44、78]に加えて、自動車保有台数に関する経済モデル[*6]など異なる分野に対する基礎技術の適用可能性を示すことができた。会計分野では、企業収益予測モデルの構築における変数選択の応用について成果発表した[*2]。環境分野では、データベースを構築し、プロトタイプとなるモデルの開発まで進めている。

2)先端主導型の研究実施：2年目の店舗実験で収集したアイトラッキングデータから消費者行動モデルの構築について検討し、平成28年10月に実施した主催国際ワークショップ【別紙資料P17】にて各分野への応用について国内外の研究者と議論した。

3)研究成果の中間とりまとめ：上述の主催国際ワークショップ【別紙資料P17】において国内外の研究者へ本プロジェクトの紹介と進捗状況の報告を行い、各応用領域における共同研究の可能性について議論した。また、3年目に予定されていた英文研究叢書出版のかわりに国際学術雑誌で特集号を組むことができた【別紙資料P11～13】。

<特に優れた研究成果>

学術的貢献、産学連携という観点から、本研究プロジェクトの特に優れた研究成果として、以下の2点を紹介する。①センサーネットワークは多くの関心を集めているが、現実のマーケティングに活用できる方法論、指標の開発には至っていない。従来、店内の顧客行動を表現する指標としては滞在時間や移動距離などが使われてきたが、デバイスの精度が安定せず、それらの指標は実務に利用できるレベルにない。金子の研究[*8、351]は事象の複雑さを表す指標であるフラクタル理論を

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411034

顧客動線の評価に適用し、フラクタル次元が店内購入行動を理解する重要な指標であることを明らかにした。当該論文[*351]は、国際会議 APWC on CSE2015 にてベストペーパー賞【別紙資料 P21】を授与され、学術的に高い評価を得た。②会計分野では高度な専門知識をもとに仮説をたて、必要なデータで検証するアプローチが取られている。しかしながら、データサイエンスでは高度な専門知識を前提とせず、データから因果関係を推論していくアプローチ（データ主導型アプローチ）が主流であり、各分野で顕著な成果を遂げている。我々は、変数選択や高度なモデリング技術を用いることで、会計分野の高度な専門知識をもたなくても同様の収益予測モデルが構築できることを明らかにした[*2]。

＜問題点とその克服方法＞

本研究プロジェクトにおけるリスクは分析用データベース構築に要する時間である。アイトラッキングや紙媒体のテキストは機械的にデータ化することが難しく、収集も容易ではない。そのため、データベースの構築が容易なものから順次取り組み、店舗実験などを前倒しで取り組むことで研究成果の発表を可能としている。

＜研究成果の副次的効果(実用化や特許の申請など研究成果の活用の見直しを含む。)＞

本研究プロジェクトの活動と成果はメディア【別紙資料 P23～25】を通じて多くの企業に周知されており、4年目からは開発したモデルを実装したシステムの企業利用について産学連携ワークショップを開催する予定である。また、平成27年度より関西大学大学院商学研究科に開設されたデータサイエンティスト育成プログラムでは、本研究成果が教育基盤として産学連携を通じた人材育成に貢献している。

＜今後の研究方針＞

4年目は、各応用領域の基礎研究を進めながら、それぞれの研究成果について産学連携を通して社会へ広く還元する。最終年度は、研究成果を体系化し、国内外へさらに情報発信するとともに、開発されたモデルや技術について応用可能性を検討する。

先端手法を用いたモデル開発は、平成29年度に店舗実験等の被験者実験を行い、産学連携や本研究センター主催の国際ワークショップを通して成果発信と技術の応用可能性を検討する。また、最終年度には本研究成果を体系化し、とりまとめた英文研究叢書の発刊や産学連携、国際ワークショップの開催によって情報発信する予定である。

＜今後期待される研究成果＞

アイトラッキングや多次元時系列データを用いたモデル開発技術は、同じ枠組みを様々な研究領域へ応用できるものと予想される。例えば、流通/経営分野におけるアイトラッキングデータを用いた消費者行動モデルでは、購買経験や年齢、性別などの顧客属性と商品購買との間に購買時の視線が与える効果を調査することで、従来では不明瞭であった顧客属性と購買との関係性を明確にすることができる。これと同じ枠組みで、会計分野では経営者の意思決定へ財務諸表の見方が与える効果を説明するモデルを構築できると考えられる。また、多次元時系列データを用いた予測モデルは、売上や経済の推移、企業収益、マテリアルロスの発生量など様々な問題へ適用できる。このような先端手法と各応用領域でのデータサイエンスを軸とした基礎的な研究は、産学連携の共同研究体制によって社会のニーズに正確かつ迅速に応えるイノベーションを創出できると期待される。

＜自己評価の実施結果及び対応状況＞

副学長が部会長を務める本学研究推進委員会「外部資金審査・評価部会」による事業2年目の研究進捗状況チェックにおいて、本プロジェクトの研究活動は着実に進捗しており、情報チームと各応用領域の3チームの計4チームでの共同研究が順調に進んでいると評価されている。

また、本プロジェクトの属する組織(RISS)内にセンターの推進委員会を設置し、予算配分、研究方針、人事関連の決定を合議の上で行っている。

＜外部(第三者)評価の実施結果及び対応状況＞

客観性を担保するために、センターの推進委員会において承認された学識経験者と企業実務家の計3名の外部評価委員が、本プロジェクトの研究進捗状況等の評価を行っている。事業3年目に行った外部評価では、3つの応用領域における共同研究等プロジェクトのマネジメントについて高い評価を受けた。また、プロジェクトの達成度と成果についても高い評価を受けており、今後は新しい研究領域における成果の体系化と産学連携の発展が期待されている【別紙資料 P4～10】。

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411034

12 キーワード(当該研究内容をよく表していると思われるものを8項目以内で記載してください。)

- (1) データサイエンス (2) ビジネス応用 (3) 産学連携
 (4) ビッグデータ (5) 消費者行動モデル (6) サステナブルマネジメント
 (7) アカウンティングファイナンス (8) 文理融合

13 研究発表の状況(研究論文等公表状況。印刷中も含む。)

上記、11(4)に記載した研究成果に対応するものには*を付すこと。

1.研究員の研究発表状況

<雑誌論文>

矢田 勝俊

	著者名	論文表題	雑誌名(巻)	ページ	発行年	査読
* 1	<u>Natsuki Sano,</u> Reo Tsutsui, <u>Katsutoshi</u> <u>Yada,</u> Tomomichi Suzuki	Clustering of Customer Shopping Paths in Japanese Grocery Stores	Procedia Computer Science, 2016, Vol. 96	1314-1332	平成 28 年	有
* 2	Ken Ishibashi <u>Takuya Iwasaki</u> <u>Shota Otomasa,</u> <u>Katsutoshi</u> <u>Yada</u>	Model selection for financial statement analysis: Variable selection with data mining technique	Procedia Computer Science, 2016, Vol. 96	1681-1690	平成 28 年	有
* 3	<u>Zhen Li,</u> <u>Katsutoshi</u> <u>Yada</u>	Complementary Relationship between Private Brands and National Brands: Empirical Evidence Based on POS Data	Proc. of 2016, 38th ISMS Marketing Science Conference	31-47	平成 28 年	有

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411034

	著者名	論文表題	雑誌名(巻)	ページ	発行年	査読
* 4	<u>Zhen Li,</u> <u>Katsutoshi</u> <u>Yada</u>	Does the Existence of Private-Label Brands Really Impede National Brands Sales? Empirical Evidence Based on POS Data	Proc. Of 2016, 3rd International Conference of Asian Marketing Associations	1-17	平成 28 年	有
* 5	Yuta Kaneko, <u>Katsutoshi</u> <u>Yada</u>	A Deep Learning Approach for the Prediction of Retail Store Sales	Proc. of the 2016 IEEE 16th International Conference on Data Mining Workshops	531-537	平成 28 年	有
* 6	<u>Zhen Li,</u> Ken Ishibashi, Yuta Kaneko, <u>Kei Miyazaki,</u> <u>Hiromi Shioji,</u> <u>Katsutoshi</u> <u>Yada</u>	Vehicle Ownership and Economic Development	Proc. of 3rd Asia-Pacific World Congress on Computer Science and Engineering	171-180	平成 28 年	有
* 7	<u>Zhen Li,</u> Ken Ishibashi, <u>Keiji Takai,</u> <u>Katsutoshi</u> <u>Yada</u>	Shop area visit ratio, stay time and sales outcomes in depth analysis based on RFID data	Proceedings of 2015 2nd Asia-Pacific World Congress on Computer Science and Engineering (APWC on CSE 2015),	1-7	平成 28 年	有
* 8	Yuta Kaneko, <u>Katsutoshi</u> <u>Yada</u>	Fractal Dimension of Shopping Path: Influence on Purchase Behavior in a Supermarket	Procedia Computer Science, 2016, vol.96	1764-1771	平成 28 年	有

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411034

	著者名	論文表題	雑誌名(巻)	ページ	発行年	査読
9	<u>Yi Zuo</u> <u>Katsutoshi</u> <u>Yada</u>	Using Statistical Learning Theory for Purchase Behavior Prediction via Direct Observation of In-store Behavior	2015 2nd Asia-Pacific World Congress on Computer Science and Engineering (APWC on CSE 2015)	1-6	平成 27 年	有
* 10	Ken Ishibashi, <u>Kei Miyazaki,</u> <u>Katsutoshi</u> <u>Yada</u>	Verification of effect on next purchase when many vice category products are brought	Procedia Computer Science	1780-1787	平成 27 年	有
* 11	Yuta Kaneko, <u>Katsutoshi</u> <u>Yada</u>	Visualization System for Shopping Path	Proc. of the 19th International Conference on Knowledge-Based and Intelligent Information & Engineering Systems	1772-1779	平成 27 年	有
* 12	<u>Natsuki Sano,</u> Natsumi Machino, <u>Katsutoshi</u> <u>Yada,</u> Tomomichi Suzuki	Recommendation system for grocery store considering data sparsity	Proc. of the 19th International Conference on Knowledge-Based and Intelligent Information & Engineering Systems	1406-1413	平成 27 年	有
13	<u>Natsuki Sano,</u> <u>Katsutoshi</u> <u>Yada</u>	The Influence of Sales Areas and Bargain Sales on Customer Behavior in a Grocery Store	Neural Computing and Applications Vol. 26 (2)	355-361	平成 27 年	有
14	<u>Natsuki Sano,</u> <u>Katsutoshi</u> <u>Yada,</u> Tomomichi Suzuki	Category Evaluation Method for Business Intelligence Using a Hierarchical Bayes Model	Proc. of 13th IEEE International Conference on Cognitive Informatics & Cognitive Computing	400-407	平成 26 年	有

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411034

	著者名	論文表題	雑誌名(巻)	ページ	発行年	査読
15	<u>Natsuki Sano</u> , Syusuke Tamura, <u>Katsutoshi</u> <u>Yada</u> , Tomomichi Suzuki	Evaluation of Price Elasticity and Brand Loyalty in Milk Products	Proc. of 18th International Conference on Knowledge-Based and Intelligent Information & Engineering Systems	1482-1487	平成 26 年	有
16	<u>Yi Zuo</u> , A.B.M. Shawkat Ali, <u>Katsutoshi</u> <u>Yada</u>	Consumer Purchasing Behavior Extraction Using Statistical Learning Theory	Procedia Computer Science	1464-1473	平成 26 年	有

乙政 正太

	著者名	論文表題	雑誌名(巻)	ページ	発行年	査読
17	<u>乙政正太</u>	最近の不正会計 事件から学ぶべ きことー指名委 員会等設置会社 のコーポレート・ ガバナンスー	会計, 第 189 巻第 5 号	28-40	平成 28 年	無
18	<u>乙政正太</u>	経営者報酬とコ ーポレート・ガバ ナンスの関係ー 機関設計の選択 の相違から見た 場合ー	会計, 第 190 巻第 6 号	30-42	平成 28 年	無
19	Ken Ishibashi, <u>Takuya</u> <u>Iwasaki</u> , <u>Shota</u> <u>Otomasa</u> , <u>Katsutoshi</u> <u>Yada</u>	Model selection for financial statement analysis: Variable selection with data mining technique	Procedia Computer Science, Vol. 96	1681-1690	平成 28 年	有

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411034

	著者名	論文表題	雑誌名(巻)	ページ	発行年	査読
20	<u>乙政正太</u>	役員報酬システム改革と実証会計研究について	会計, 第 188 巻第 6 号 (12 月)	44-56	平成 27 年	無
21	<u>Takuya Iwasaki, Shota Otomasa, Atsushi Shiiba, Akinobu Shuto</u>	The Role of Accounting Conservatism in Executive Compensation Contracts	Social Science Research Network	1-53	平成 27 年	有
22	<u>Shota Otomasa, Atsushi Shiiba, Akinobu Shuto</u>	Management Earnings Forecasts as a Performance Target in Executive Compensation Contracts	Social Science Research Network	1-69	平成 27 年	有
23	<u>乙政正太</u>	経済ニュースを読み解く会計 : 適時開示情報と株式市場の反応	会計人コース Vol. 51 (2)	61-63	平成 27 年	無
24	<u>乙政正太</u>	経済ニュースを読み解く会計 : 実質無借金企業と財務戦略	会計人コース Vol. 50 (1)	120-122	平成 27 年	無
25	<u>乙政正太, 首藤昭信, 椎葉淳, 岩崎拓也</u>	経営者報酬と利益ベンチマークの未達の関係	国民経済雑誌 第 209 巻第 4 号	61-74	平成 26 年	有

藤岡 里圭

	著者名	論文表題	雑誌名(巻)	ページ	発行年	査読
26	<u>藤岡里圭</u>	The Development of Department Stores in Japan: 1900s-1930s	Japanese Research in Business History, Vol. 31	11-27	平成 26 年	有

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411034

中畷 道靖

	著者名	論文表題	雑誌名(巻)	ページ	発行年	査読
27	<u>中畷道靖</u> , Bernd Wagner	サステナビリティ マネジメント手法 としてのマテリア ルフローコスト会 計(MFCA)の新た な可能性に向け て:ISO14051と ISO14052の国際 規格を参考に	日本 LCA 学会誌 Vol.12(2)	54-59	平成 28 年	無
28	<u>中畷道靖</u>	東芝の環境経営 に関する環境管 理会計研究 -新たな管理会計 研究の可能性-	原価計算研究 第 40 巻第 2 号	23-30	平成 28 年	無
29	<u>Michiyasu</u> <u>Nakajima</u> , <u>Asako Kimura</u>	How will MFCA make Usefulness on Sustainable Engineering? : Based on practical experiences in Japanese and Southwestern Asian companies	Proceedings of The 2016 International Conference on Industrial Engineering and Operations Management	—	平成 28 年	有
30	<u>中畷道靖</u> , <u>木村麻子</u> , 國部克彦, 伊坪徳宏, 山田哲男	低炭素型サプラ イチェーン経営へ の MFCA 導入の 課題	低炭素型サプライチェ ーン経営:MFCAと LCAの統合,中央経済 社	95-112	平成 27 年	無
31	<u>中畷道靖</u> , <u>木村麻子</u> , 國部克彦, 伊坪徳宏, 山田哲男	MFCA のマネジメ ントシステム化の 方向性	低炭素型サプライチェ ーン経営:MFCAと LCAの統合,中央経済 社	113-122	平成 27 年	無

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411034

岡 照二

著者名	論文表題	雑誌名(巻)	ページ	発行年	査読
32 岡照二, 西谷公孝	カーボン SBSC フレームワークの構築とその有効性の検証	社会関連会計研究第27号	1-15	平成27年	有

岸谷 和広

著者名	論文表題	雑誌名(巻)	ページ	発行年	査読
33 <u>Kazuhiro Kishiya,</u> Gordon E. Miracle	A Two-Nation Experiment to Investigate the Relationships among National Culture, Individual-Level Cultural Variables and Consumer Attitudes toward Advertising Websites and the Brand	International Journal Knowledge Engineering and Soft Data Paradigms, Vol.5(2)	33-52	平成28年	有
* 34 <u>Kazuhiro Kishiya,</u> Gordon E. Miracle	Examining the Relationships Among National Culture, Individual-Level Cultural Variable and Consumer Attitudes	Procedia Computer Science(60)	1715-1719	平成27年	有

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411034

木村 麻子

	著者名	論文表題	雑誌名(巻)	ページ	発行年	査読
35	<u>木村麻子</u>	環境配慮型製品の開発プロセスと業績評価システム	青山学院大学経営学会 『青山経営論集』 第51巻第3号	47-58	平成28年	無
36	<u>木村麻子</u> 、 <u>堺昌彦</u>	戦略経営におけるブランド・マネジメントと管理会計	日本会計研究学会特別委員会(小菅正伸主査)『戦略経営と管理会計に関する総合的研究 中間報告書』	269-326	平成28年	無
37	<u>木村麻子</u> 、 <u>挽文子</u> 、 <u>田中優希</u> 、 <u>西村三保子</u> 、 <u>宮本京子</u>	実証的研究(2)	日本会計研究学会スタディグループ(北村敬子主査)『わが国における女性会計学者の現状と課題』	65-73	平成28年	無
38	<u>木村麻子</u> 、 <u>小林由典</u>	東芝グループにおける環境経営の構築と涵養	日本原価計算研究学会 『原価計算研究』 第40巻第2号	10-22	平成28年	無
39	<u>Michiyasu Nakajima</u> 、 <u>Asako Kimura</u> 、 <u>Bernd Wagner</u>	Introduction of material flow cost accounting to the supply chain: a questionnaire study on the challenges of constructing a low-carbon supply chain to promote resource efficiency	Journal of Cleaner Production, vol.108	1302-1309	平成27年	有
40	<u>中嶋道靖</u> 、 <u>木村麻子</u> 、 <u>國部克彦</u> 、 <u>伊坪徳宏</u> 、 <u>山田哲男</u>	低炭素型サプライチェーン経営へのMFCA導入の課題	低炭素型サプライチェーン経営:MFCAとLCAの統合,中央経済社	95-112	平成27年	無

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411034

著者名	論文表題	雑誌名(巻)	ページ	発行年	査読
41 中寫道靖, 木村麻子, 國部克彦, 伊坪徳宏, 山田哲男	MFCA のマネジメ ントシステム化の 方向性	低炭素型サプライチェ ーン経営:MFCA と LCA の統合,中央経済 社	113-122	平成 27 年	無

高井 啓二

著者名	論文表題	雑誌名(巻)	ページ	発行年	査読
42 Kenichi Hayashi, <u>Keiji</u> <u>Takai</u>	Finite-sample analysis of impacts of unlabeled data and their labeling mechanisms in linear discriminant analysis	Communications in Statistics - Simulation and Computation	184-203	平成 29 年	有
43 <u>Keiji Takai</u> , Kenichi Hayashi	Effects of unlabeled data on classifi- cation error in normal discriminant analysis	Journal of Statistical Planning and Inference	66-83	平成 26 年	有

宮崎 慧

著者名	論文表題	雑誌名(巻)	ページ	発行年	査読
* 44 宮崎慧, 星野崇宏	商品カテゴリー購 買と複数ブランド 購買の段階型同 時分析モデル	行動計量学	167-180	平成 28 年	有
45 Ken Ishibashi, <u>Kei Miyazaki</u> , <u>Katsutoshi</u> <u>Yada</u>	Verification of effect on next purchase when many vice category products are brought	Procedia Computer Science, 60	1780-1787	平成 27 年	有

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411034

著者名	論文表題	雑誌名(巻)	ページ	発行年	査読
46 <u>Kei Miyazaki</u>	Examining brand-switching behavior using latent class dynamic multinomial probit models with random effects	Behaviormetrika, 42(1)	1-18	平成 27 年	有

岩崎 拓也

著者名	論文表題	雑誌名(巻)	ページ	発行年	査読
47 <u>Ken Ishibashi,</u> <u>Takuya Iwasaki,</u> <u>Shota Otomasa,</u> <u>Katsutoshi Yada</u>	Model selection for financial statement analysis: Variable selection with data mining technique	Procedia Computer Science	1681-1690	平成 28 年	有
48 <u>Takuya Iwasaki,</u> <u>Shota Otomasa,</u> <u>Atsushi Shiiba,</u> <u>Akinobu Shuto</u>	The Role of Accounting Conservatism in Executive Compensation Contracts	Social Science Research Network	1-53	平成 27 年	有
49 <u>Akinobu Shuto,</u> <u>Takuya Iwasaki</u>	The Effect of Institutional Factors on Discontinuities in Earnings Distribution Public Versus Private Firms in Japan	Journal of Accounting, Auditing and Finance, Vol. 30 (3)	283-317	平成 27 年	有

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411034

	著者名	論文表題	雑誌名(巻)	ページ	発行年	査読
50	<u>乙政正太</u> , <u>首藤昭信</u> , <u>椎葉淳</u> , <u>岩崎拓也</u>	経営者報酬と利益ベンチマークの未達の関係	国民経済雑誌 第209巻第4号	61-74	平成26年	有
51	<u>Akinobu Shuto</u> , <u>Takuya Iwasaki</u>	Stable Shareholdings, the Decision Horizon Problem and Earnings Smoothing	Journal of Business Finance and Accounting, Vol. 41 (9-10)	1212-1242	平成26年	有

千葉 貴宏

	著者名	論文表題	雑誌名(巻)	ページ	発行年	査読
52	<u>Takahiro Chiba</u>	Are Superior Services Always Good for Satisfaction Formation?	Serviceology for Smart Service System: Selected Papers of the 3rd International Conference on Serviceology	207-212	平成28年	有
53	<u>千葉貴宏</u>	従業員行動への複雑な情報処理を考慮したサービスの失敗に対する顧客反応モデル	『商学論集』第61巻第3号	13-24	平成28年	無

村上 啓介

	著者名	論文表題	雑誌名(巻)	ページ	発行年	査読
54	<u>Keisuke Murakami</u>	Formulation and algorithms for route planning problem of plug-in hybrid electric vehicles	Operational Research	1-23	平成28年	有

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411034

里村 卓也

	著者名	論文表題	雑誌名(巻)	ページ	発行年	査読
55	佐藤栄作, <u>里村卓也</u> , 野際大介, 中村博, 守口 剛	実務における品 揃え操作影響評 価のための購買 行動モデルの拡 張と実証分析	流通情報(523)	52-73	平成 28 年	有

岡田 謙介

	著者名	論文表題	雑誌名(巻)	ページ	発行年	査読
56	北條大樹, <u>岡田謙介</u>	評定尺度におけ る反応傾向を考 慮した係留寸描 データのベイズ 的項目反応モデ ル	データ分析の理論と応 用	—	平成 29 年	有
57	北條大樹, <u>岡田謙介</u>	ロジスティック型 項目反応理論モ デルにおける JAGS と Stan を用 いた推定の比較 評価	専修人間科学論集心 理学篇 第 7 巻	25-33	平成 29 年	無
58	<u>Kensuke</u> <u>Okada</u> , Takahiro Hoshino	Researchers' choice of the number and range of levels in experiments affects the resultant variance-accounte d-for effect size	Psychonomic Bulletin & Review	1-30	平成 28 年	有

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411034

	著者名	論文表題	雑誌名(巻)	ページ	発行年	査読
59	<u>Kensuke Okada</u>	Negative estimate of variance-accounted-for effect size: How often it is obtained, and what happens if it is treated as zero	Behavior Research Methods.	1-9	平成 28 年	有
60	<u>Kensuke Okada,</u> Michael D. Lee	A Bayesian approach to modeling group and individual differences in multidimensional scaling	Journal of Mathematical Psychology vol.70	35-44	平成 28 年	有
61	Takashi Kusumi, Hiroshi Yama, <u>Kensuke Okada,</u> Satoru Kikuchi, Takahiro Hoshino	A national survey of psychology education programs and their content in Japan	Japanese Psychological Research vol.58	4-18	平成 28 年	有
62	小林哲朗・ <u>岡田謙介</u>	特集「計量政治学と行動計量学の接点」にあたって	行動計量学 43 巻	111-112	平成 28 年	無
63	<u>岡田謙介</u>	ベイズ推定による情報仮説の評価:その理論と各種モデルへの応用について	専修人間科学論集心理学篇 第 6 巻	9-17	平成 28 年	無
64	岡田謙介	心理学と心理測定における信頼性について: Cronbach の α 係数とは何なのか, 何でないのか	教育心理学年報	71-83	平成 27 年	無

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411034

	著者名	論文表題	雑誌名(巻)	ページ	発行年	査読
65	<u>Kensuke Okada</u>	Bayesian meta-analysis of Cronbach's alpha to evaluate informative hypotheses	Research Synthesis Methods	1-14	平成 27 年	有
66	Yusuke Takahashi, <u>Kensuke Okada</u> , Takahiro Hoshino, Tokie Anme	Developmental trajectories of social skills during early childhood and links to parenting practices in a Japanese sample	PLoS One, 10(8): e0135357	1-14	平成 27 年	有
67	波田野結花, 吉田弘道, <u>岡田謙介</u>	教育心理学研究における p 値と効果量による解釈の違い	教育心理学研究, 63	151-161	平成 27 年	有

佐野 夏樹

	著者名	論文表題	雑誌名(巻)	ページ	発行年	査読
68	Mirai Tanaka, Takashi Yamashita, <u>Natsuki Sano</u> , Aya Ishigaki, Tomomichi Suzuki	Mathematical optimization approach for estimating the quantum yield distribution of a photochromic reaction in a polymer	American Institute of Physics Advances, Vol.7(1)	1-11	平成 29 年	有
69	Yue Li, <u>Natsuki Sano</u> , Mirai Tanaka, Tomomichi Suzuki	A Study on the Measurement Precision of the Binary Data	Proc. of Asian Network for Quality Congress 2016	—	平成 28 年	有

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411034

	著者名	論文表題	雑誌名(巻)	ページ	発行年	査読
70	Kenta Yoshida, <u>Natsuki Sano</u> , Mirai Tanaka, Tomomichi Suzuki	Defect Detection for Image Data Using Machine Learning and Image Processing	Proc. of Asian Network for Quality Congress 2016	—	平成 28 年	有
71	Yuki Bando, <u>Natsuki Sano</u> , Mirai Tanaka, Tomomichi Suzuki	Evaluation of Relationship between Pairing and Number of Rounds in Swiss System Tournament	Proc. of Asian Network for Quality Congress 2016	—	平成 28 年	有
72	Tatsuya Iwasawa, <u>Natsuki Sano</u> , Mirai Tanaka, Tomomichi Suzuki	Defect Detection from Image Data with Feature Extraction using Orthogonal Array	Proc. of Asian Network for Quality Congress 2016	—	平成 28 年	有
73	Junya Ono, <u>Natsuki Sano</u> , Mirai Tanaka, Tomomichi Suzuki	Analysis of Winning Percentage in Sports Based on a Statistical Model	Proc. of Asian Network for Quality Congress 2016	—	平成 28 年	有
74	Ryo Suzuki, Yuzuru Hayashi, <u>Natsuki Sano</u> , Mirai Tanaka, Tomomichi Suzuki	Statistical Analysis of Influenza Spreading Pattern Using Pharmaceutical Data in Tochigi Prefecture, Japan	Proc. of Asian Network for Quality Congress 2016	—	平成 28 年	有
75	<u>Natsuki Sano</u> , Reo Tsutsui, <u>Katsutoshi Yada</u> , Tomomichi Suzuki	Clustering of Customer Shopping Paths in Japanese Grocery Stores	Proc. of 20th International Conference on Knowledge Based and Intelligent Information and Engineering Systems	1314-1322	平成 28 年	有

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411034

著者名	論文表題	雑誌名(巻)	ページ	発行年	査読
76 <u>Natsuki Sano</u> , Yuki Mori, Tomomichi Suzuki	Defect Detection Using Two-dimensional Moving Range Filter and Unanimous Vote among Color Component Classifiers	Proc. of the The 3rd Multidisciplinary International Social Networks Conference on Social Informatics 2016	1-4	平成 28 年	有
77 Tomomichi Suzuki, <u>Tatsuya</u> <u>Iwasawa</u> , Kenta Yoshida, <u>Natsuki Sano</u> , Mirai Tanaka	Integrating Statistical and Machine Learning Approaches in Improving Inspection Process	Proc. of XIIth International Workshop on Intelligent Statistical Quality Control 2016	251-259	平成 28 年	有
* 78 <u>Natsuki Sano</u>	Estimation of Customer Behavior in Sales Areas in a Supermarket Using a Hidden Markov Model	International Journal of Knowledge Engineering and Soft Data Paradigms, Vol. 5(2)	135-145	平成 28 年	有
79 Wataru Hasegawa, <u>Natsuki Sano</u> , Tomomichi Suzuki	Clarification of the Relationship between the State of Elderly and Provided Care to Assist Designing Care Plans	Proc. of Asian Network for Quality Congress 2015	—	平成 27 年	有
80 <u>Natsuki Sano</u> , Natsumi Machino, <u>Katsutoshi</u> <u>Yada</u> , Tomomichi Suzuki	Recommendation system for grocery store considering data sparsity	Proc. of the 19th International Conference on Knowledge-Based and Intelligent Information & Engineering Systems	1406-1413	平成 27 年	有

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411034

	著者名	論文表題	雑誌名(巻)	ページ	発行年	査読
81	<u>Natsuki Sano,</u> <u>Katsutoshi</u> <u>Yada</u>	The Influence of Sales Areas and Bargain Sales on Customer Behavior in a Grocery Store	Neural Computing and Applications Vol. 26 (2)	355-361	平成 27 年	有
82	Ryosuke Ikeda, <u>Natsuki Sano,</u> Akira Kotani, Yuzuru Hayashi, Tomomichi Suzuki	The Relationship between Academic Achievement in the Chemistry and Experimental Ability	Proc. of Asian Network for Quality Congress 2014	—	平成 26 年	有
83	<u>Natsuki Sano,</u> <u>Katsutoshi</u> <u>Yada,</u> Tomomichi Suzuki	Category Evaluation Method for Business Intelligence Using a Hierarchical Bayes Model	Proc. of 13th IEEE International Conference on Cognitive Informatics & Cognitive Computing	400-407	平成 26 年	有
84	Tomomichi Suzuki, Yusuke Tsutsumi, <u>Natsuki Sano</u>	International Standardization in Capability of Detection	Proc. of Advanced Mathematical and Computational Tools in Metrology and Testing 2014	—	平成 26 年	有
85	<u>Natsuki Sano,</u> Syusuke Tamura, <u>Katsutoshi</u> <u>Yada,</u> Tomomichi Suzuki	Evaluation of Price Elasticity and Brand Loyalty in Milk Products	Proc. of 18th International Conference on Knowledge-Based and Intelligent Information & Engineering Systems	1482-1487	平成 26 年	有
86	<u>Natsuki Sano,</u> Kaori Higashinaka, Tomomichi Suzuki	Efficient Parameter Selection for Support Vector Regression Using Orthogonal Array	Proc. of 2014 IEEE International Conference on Systems, Man, and Cybernetics	2285-2290	平成 26 年	有

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411034

塩地 洋

	著者名	論文表題	雑誌名(巻)	ページ	発行年	査読
87	<u>塩地洋</u> , 富山栄子	ブラジル自動車産業の概括的検討ー市場・生産規模は大きい、国際競争力が脆弱	赤門マネジメント・レビュー15巻8号	389-410	平成28年	有
88	<u>塩地洋</u>	アセアン統合に伴う自動車生産拠点再編を考える	日本自動車工業会 JAMAGAZINE 第50号	9-14	平成28年	無
89	<u>塩地洋</u>	新興国におけるモータリゼーションの析出方法ー標準保有台数とSカーブを指標として	アジア経営研究第22号	45-58	平成28年	有
90	<u>Hiroshi Shioji</u> , Eiko Toyama	Hyundai Motor Company's "Selective Focused Local Adaptation Strategy" from the Perspective of Global Marketing	The Northeast Asian Economic Review Vol. 3(2)	69-80	平成27年	有
91	<u>塩地洋</u>	アセアン統合に伴う自動車生産拠点再編を考えるー日系自動車メーカーを中心にー	『産業学会研究年報』第30号	31-46	平成27年	有
92	<u>塩地洋</u>	自動車産業における部品国産化ライフサイクル	『アジア経営研究』第21号	11-25	平成27年	有

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411034

ピエール=イブ、ドンゼ

	著者名	論文表題	雑誌名(巻)	ページ	発行年	査読
93	<u>Pierre-Yves Donzé</u> , Thierry Theurillat	Selling luxury watches in Asia: the changing position of independent distributors	Marketing Review St. Gallen, vol. 33(5)	50-57	平成 28 年	有

鷲尾 隆

	著者名	論文表題	雑誌名(巻)	ページ	発行年	査読
94	Marina Demeshko, <u>Takashi Washio</u> , Yoshinobu Kawahara, Yuriy Popyolyshev	A Novel Continuous and Structural VAR Modeling Approach and Its Application to Reactor Noise Analysis	ACM Trans. on Intelligent Systems and Technology (TIST), Vol. 7 (2)	1-22	平成 28 年	有
95	Kai Ming Ting, <u>Takashi Washio</u> , Jonathan R. Wells Sunil Aryal	Defying the gravity of learning curve: a characteristic of nearest neighbour anomaly detectors	Machine Learning, Vol.106 (1)	55-91	平成 28 年	有
96	Keisuke Nagata, Yoshinobu Kawahara, <u>Takashi Washio</u> , Akira Unami	Toxicogenomic prediction with graph-based structured regularization on transcription	Fundam. Toxicol. Sci. Vol.3 (2)	39-46	平成 28 年	有

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411034

	著者名	論文表題	雑誌名(巻)	ページ	発行年	査読
97	Satoshi Hara, Takafumi Ono, Ryo Okamoto, <u>Takashi Washio</u> , Shigeki Takeuchi	Quantum-state anomaly detection for arbitrary errors using a machine-learning technique	Phys. Rev. A vol.94(4):042341	042341	平成 28 年	有
98	Makusu Tsutsui, Yuhui He, Kazumichi Yokota, Akihide Arima, Sadato Hongo, Masateru Taniguchi, <u>Takashi Washio</u> , Tomoji Kawai	Particle Trajectory-Dependent Ionic Current Blockade in Low-Aspect-Ratio Pores	ACS Nano, American Chemical Society, 10 (1),	803-809	平成 28 年	有
99	安並一浩, <u>鷺尾隆</u>	太陽光発電出力変動分析のための時空間減衰モデルを用いた相互関係関数推定手法	電気学会誌論文誌 B (電力・エネルギー部門誌), IEEJ Transactions on Power and Energy, Vol.135(10)	613-623	平成 28 年	有
100	<u>鷺尾隆</u>	機械学習による情報論的量子状態の異常検知	人工知能 30 巻 2 号 (2015)	217-223	平成 27 年	有
101	Marina Demeshko, Abdelhamid Dokhane, <u>Takashi Washio</u> , Hakim Ferroukhi, Yoshinobu Kawahara, Carlos Aguirre	Application of Continuous and Structural ARMA Modeling for Noise Analyses of a BWR Coupled Core and Plant Instability Event	Annals of Nuclear Energy, Elsevier, Vol.75, pp.645-657, DOI information: 10.1016/j.anucene.2014.08.045 (2015)	645-657	平成 27 年	有

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411034

	著者名	論文表題	雑誌名(巻)	ページ	発行年	査読
102	Keisuke Nagata, <u>Takashi Washio</u> , Yoshinobu Kawahara, Akira Unami	Toxicity prediction from toxicogenomic data based on class association rule mining	Toxicology Reports, Vol.1, pp.1133-1142, DOI:10.1016/j.toxrep.2014.10.014 (2014)	1133-1142	平成 26 年	有
103	安並一浩, <u>鷲尾隆</u>	堺太陽光発電所の実測データに基づく PV 分布の平滑化効果への影響分析	電気学会論文誌 B (電力・エネルギー部門誌), IRRJ Transactions on Power and Energy, Vol. 134 (10), pp.856-865, DOI:10.1541/ieejpes.134.856 (2014)	856-865	平成 26 年	有
104	Jonathan R. Wells, Kai Ming Ting, <u>Takashi Washio</u>	A new approach to nearest neighbour density estimator	Pattern Recognition, Elsevier(47), DOI: 10.1016	2702-2720	平成 26 年	有

清水 昌平

	著者名	論文表題	雑誌名(巻)	ページ	発行年	査読
105	<u>Shohei Shimizu</u>	Non-Gaussian structural equation models for causal discovery	Statistics and Causality: Methods for Applied Empirical Research (Proc. Conference on Statistics and Causality 2014)	153-184	平成 28 年	有
106	Patrick Blöbaum, <u>Shohei Shimizu</u> , <u>Takashi Washio</u> .	Discriminative and generative models in causal and anticausal settings	Proc. Second Workshop on Advanced Methodologies for Bayesian Networks (AMBN2015)	209-221	平成 27 年	有

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411034

	著者名	論文表題	雑誌名(巻)	ページ	発行年	査読
107	<u>Shohei Shimizu</u>	A non-Gaussian approach for causal discovery in the presence of hidden common causes	Proc. Second Workshop on Advanced Methodologies for Bayesian Networks (AMBN2015)	222-233	平成 27 年	有
108	<u>Shohei Shimizu</u> , Kenneth Bollen	Bayesian estimation of causal direction in acyclic structural equation models with individual-specific confounder variables and non-Gaussian distributions	Journal of Machine Learning Research	2629-2652	平成 26 年	有

椎葉 淳

	著者名	論文表題	雑誌名(巻)	ページ	発行年	査読
109	三輪一統, <u>椎葉淳</u>	新規参入企業に対するプレアナウンスメントの戦略的効果	現代ディスクロージャー研究	1-36	平成 28 年	有
110	<u>椎葉淳</u>	業績目標としての経営者予想利益－契約理論に基づく理論研究の展開－	立命館経営学第 54 巻第 5 号	37-52	平成 28 年	無
111	<u>椎葉淳</u>	コスト構造と企業リスク:近年の理論・実証研究からの示唆	管理会計学第 24 巻第 2 号	19-32	平成 28 年	無
112	<u>椎葉淳</u> , 奥田真也	営業部門における業績評価と ICT の関係について	メルコ管理会計第 9 号-I	15-28	平成 28 年	無

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411034

	著者名	論文表題	雑誌名(巻)	ページ	発行年	査読
113	高橋邦丸, 椎葉淳, 佐々木郁子	需要の不確実性とコスト構造－日本企業データを用いた分析－	青山経営論集 第 51 巻第 3 号	152-167	平成 28 年	有
114	<u>Takuya Iwasaki,</u> <u>Shota Otomasa,</u> <u>Atsushi Shiiba,</u> <u>Akinobu Shuto</u>	The Role of Accounting Conservatism in Executive Compensation Contracts	Social Science Research Network	1-53	平成 27 年	有
115	<u>Shota Otomasa,</u> <u>Atsushi Shiiba,</u> <u>Akinobu Shuto</u>	Management Earnings Forecasts as a Performance Target in Executive Compensation Contracts	Social Science Research Network	1-69	平成 27 年	有
116	<u>乙政正太,</u> <u>首藤昭信,</u> <u>椎葉 淳,</u> <u>岩崎拓也</u>	経営者報酬と利益ベンチマークの未達の関係	国民経済雑誌 第 209 巻第 4 号	61-74	平成 26 年	有

廣瀬 慧

	著者名	論文表題	雑誌名(巻)	ページ	発行年	査読
117	<u>Kei Hirose,</u> Yukihiro Ogura, Hidetoshi Shimodaira	Estimating Scale-Free Networks via the Exponentiation of Minimax Concave Penalty.	Journal of the Japanese Society of Computational Statistics, in press.	—	平成 27 年	有

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411034

	著者名	論文表題	雑誌名(巻)	ページ	発行年	査読
118	<u>Kei Hirose</u> , Sunyong Kim, Yutaka Kano, Miyuki Imada, Manabu Yoshida, Masato Matsuo	Full information maximum likelihood estimation in factor analysis with a large number of missing values.	Journal of Statistical Computation and Simulation, in press. Vol. 86 (1)	91-104	平成 27 年	有
119	<u>Kei Hirose</u> , Michio Yamamoto	Sparse estimation via nonconcave penalized likelihood in a factor analysis model.	Statistics and Computing, 25(5)	863-875	平成 27 年	有
120	<u>Kei Hirose</u> , Michio Yamamoto	Estimation of an oblique structure via penalized likelihood factor analysis.	Computational Statistics & Data Analysis	79, 120-132	平成 26 年	有
121	<u>廣瀬慧</u>	Lasso タイプの正 則化法に基づくス パース推定法を 用いた超高次元 データ解析	京都大学 数理解析研 究所講究録	—	平成 26 年	無

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411034

市川 昊平

著者名	論文表題	雑誌名(巻)	ページ	発行年	査読
122 <u>Kohei</u> <u>Ichikawa</u> , Pongsakorn U-chupala, Che Huang, Chawanat Nakasan, Te-Lung Liu, Jo-Yu Chang, Li-Chi Ku, Whey-Fone Tsai, Jason Haga, Hiroaki Yamanaka, Eiji Kawai, Yoshiyuki Kido, Susumu Date, Shinji Shimojo, Philip Papadopoulos, Mauricio Tsugawa, Matthew Collins, Kyuho Jeong, Renato Figueiredo, Jose Fortes	PRAGMA-ENT: An International SDN Testbed for a Cyberinfrastructur e in the Pacific Rim	Concurrency And Computation: Practice And Experience, Wiley InterScience	1-8	平成 28 年	有
123 Chawanat Nakasan, <u>Kohei</u> <u>Ichikawa</u> , Hajimu Iida, Putchong Uthayopas	A Simple Multipath OpenFlow Controller using topology-based algorithm for Multipath TCP	Concurrency And Computation: Practice And Experience, Wiley InterScience	1-8	平成 28 年	有

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411034

	著者名	論文表題	雑誌名(巻)	ページ	発行年	査読
124	柏崎礼生, 北口善明, <u>市川昊平</u> , 近堂徹, 中川郁夫, 菊池豊, 下條真司	広域分散仮想化環境の展開・運用・管理コストの定量的評価	インターネットと運用技術シンポジウム2016 論文集	18-25	平成 28 年	有
125	柏崎礼生, 西内一馬, 北口善明, <u>市川昊平</u> , 近堂徹, 中川郁夫, 菊池豊	ネットワーク災害訓練のシナリオ記述コストを低減するインターフェイスの設計と実装	インターネットと運用技術シンポジウム2016 論文集	33-40	平成 28 年	有
126	Kar-Long Chan, <u>Kohei Ichikawa</u> , Yasuhiro Watashiba, Putchong Uthayopas, Hajimu Iida	A Hybrid Game Contents Streaming Method: Improving Graphic Quality Delivered on Cloud Gaming	15th International Conference on Entertainment Computing	149-160	平成 28 年	有
127	Ikuo Nakagawa, Hiroki Kashiwazaki, Shinji Shimojo, <u>Kohei Ichikawa</u> , Tohru Kondo, Yoshiaki Kitaguchi, Yutaka Kikuchi, Shigetoshi Yokoyama, Shunji Abe	A design and implementation of global distributed POSIX file system on the top of multiple independent cloud services	5th IIAI International Congress on Advanced Applied Informatics (IIAI-AAI)	867-872	平成 28 年	有

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411034

著者名	論文表題	雑誌名(巻)	ページ	発行年	査読
128 Susumu Date, Hirotake Abe, Dashdavaa Khureltulga, Keichi Takahashi, Yoshiyuki Kido, Yasuhiro Watahisa, Pongsakorn U-chupala, <u>Kohei</u> <u>Ichikawa</u> , Hiroaki Yamanaka, Eiji Kawai, Shinji Shimojo	SDN-accelerated HPC Infrastructure for Scientific Research	International Journal of Information Technology, Vol. 22(1)	89-96	平成 28 年	有

首藤 昭信

著者名	論文表題	雑誌名(巻)	ページ	発行年	査読
129 <u>Shota Otomasa</u> , <u>Atsushi Shiiba</u> , <u>Akinobu</u> <u>Syutou</u>	Management earnings forecasts as a performance target in executive compensation contracts	Journal of Accounting Auditing and Finance	1-52	平成 29 年	有
130 Song Mingzi, Naoto Oshiro, <u>Akinobu</u> <u>Syutou</u>	Predicting accounting fraud: Evidence from Japan	The Japanese Accounting Review	—	平成 29 年	有
131 <u>Takuya</u> <u>Iwasaki</u> , <u>Shota Otomasa</u> , <u>Atsushi Shiiba</u> , <u>Akinobu Shuto</u>	The Role of Accounting Conservatism in Executive Compensation Contracts	Social Science Research Network	1-53	平成 27 年	有

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411034

	著者名	論文表題	雑誌名(巻)	ページ	発行年	査読
132	<u>Shota Otomasa,</u> <u>Atsushi Shiiba,</u> <u>Akinobu Shuto</u>	Management Earnings Forecasts as a Performance Target in Executive Compensation Contracts	Social Science Research Network	1-69	平成 27 年	有
133	<u>Akinobu Shuto,</u> <u>Takuya Iwasaki</u>	The Effect of Institutional Factors on Discontinuities in Earnings Distribution Public Versus Private Firms in Japan	Journal of Accounting, Auditing and Finance, Vol. 30 (3)	283-317	平成 27 年	有
134	首藤昭信, 北村敬子編著	公正価値情報の 実証的評価	財務報告における公 正価値測定	277-294	平成 26 年	無
135	<u>乙政正太,</u> <u>首藤昭信,</u> <u>椎葉 淳,</u> <u>岩崎拓也</u>	経営者報酬と利 益ベンチ マークの未達の 関係	国民経済雑誌 第 209 巻第 4 号	61-74	平成 26 年	有
136	<u>Akinobu Shuto,</u> <u>Takuya Iwasaki</u>	Stable Shareholdings, the Decision Horizon Problem and Earnings Smoothing	Journal of Business Finance and Accounting, Vol. 41 (9-10)	1212-1242	平成 26 年	有

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411034

左 毅

著者名	論文表題	雑誌名(巻)	ページ	発行年	査読
137 Hideyuki Sugiura, Masahiro Nagao, <u>Yi Zuo</u> , Eisuke Kita	Grammatical Evolution Using Two-dimensional Gene for Symbolic Regression: An Advanced Improvement with Conditional Statement Grammar	International Journal of Computational Intelligence Studies vol.5	103-119	平成 28 年	有
138 <u>Yi Zuo</u>	Prediction of Consumer Purchase Behavior Using Bayesian Network: An Operational Improvement and New Results Based on RFID Data	International Journal of Knowledge Engineering and Soft Data Paradigms	85-105	平成 28 年	有

李 振

著者名	論文表題	雑誌名(巻)	ページ	発行年	査読
139 <u>Zhen Li</u> , Ken Ishibashi, Yuta Kaneko, <u>Kei Miyazaki</u> , <u>Hiromi Shioji</u> , <u>Katsutoshi Yada</u>	Vehicle Ownership and Economic Development	Proc. of 3rd Asia-Pacific World Congress on Computer Science and Engineering	171-180	平成 28 年	有

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411034

著者名	論文表題	雑誌名(巻)	ページ	発行年	査読
140 <u>Zhen Li,</u> <u>Katsutoshi</u> <u>Yada</u>	Does the Existence of Private-Label Brands Really Impede National Brands Sales? Empirical Evidence Based on POS Data	Proc. of 3rd International Conference of Asian Marketing Associations	1-17	平成 28 年	有

猪狩 良介

著者名	論文表題	雑誌名(巻)	ページ	発行年	査読
141 片柳伊佐, <u>猪狩良介</u>	テレビ CM クリエイティブの分類と広告効果の関係性～ブランド浸透度別の比較～	日経広告研究所報 Vol.276	18-25	平成 26 年	無

<学会発表>

矢田 勝俊

発表者名	発表標題	学会名	開催地	発表
142 Yuta Kaneko, <u>Katsutoshi</u> <u>Yada</u>	A Deep Learning Approach for the Prediction of Retail Store Sales	2016 IEEE 16th International Conference on Data Mining Workshops	World Trade Center Barcelona, Spain	平成 28 年 12 月
143 <u>Zhen Li,</u> Ken Ishibashi, Yuta Kaneko, <u>Ken Miyazaki,</u> <u>Hiromi Shioji,</u> <u>Katsutoshi</u> <u>Yada</u>	Vehicle Ownership and Economic Development	2016 3rd Asia-Pacific World Congress on Computer Science and Engineering (APWC on CSE 2016)	Sofitel Fiji Resort & Spa, Denarau Island, Fiji	平成 28 年 12 月

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411034

発表者名	発表標題	学会名	開催地	発表
144 <u>Yi Zuo,</u> <u>Katsutoshi</u> <u>Yada</u> <u>A B M Shawkat</u> <u>Ali</u>	Prediction of Consumer Purchasing in a Grocery Store Using Machine Learning Techniques	2016 3rd Asia-Pacific World Congress on Computer Science and Engineering (APWC on CSE 2016)	Sofitel Fiji Resort & Spa, Denarau Island, Fiji	平成 28 年 12 月
145 <u>Zhen Li,</u> <u>Katsutoshi</u> <u>Yada</u>	Does the Existence of Private-Label Brands Really Impede National Brands Sales? Empirical Evidence Based on POS Data	3rd International Conference of Asian Marketing Associations	Beijing, China	平成 28 年 10 月
146 Yuta Kaneko, <u>Katsutoshi</u> <u>Yada</u>	Fractal Dimension of Shopping Path: Influence on Purchase Behavior in a Supermarket	20th International Conference on Knowledge-Based and Intelligent Information & Engineering Systems, KES2016	York, United Kingdom	平成 28 年 9 月
147 <u>Yi Zuo</u> <u>Katsutoshi</u> <u>Yada</u> <u>Eisuke Kita</u>	Impact of Analog-to-digital Conversion on Predictive Performance: A Case Study of Bayesian Network vs. Support Vector Machine in Purchase Behavior Prediction	2016 World Congress on Computational Mechanics, Seoul Korea	Seoul, Korea	平成 28 年 7 月

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411034

	発表者名	発表標題	学会名	開催地	発表
148	<u>Zhen Li,</u> <u>Katsutoshi</u> <u>Yada</u>	Complementary Relationship between Private Brands and National Brands: Empirical Evidence Based on POS Data	38th ISMS Marketing Science Conference	Shanghai, China	平成 28 年 6 月
149	Suguru Shibasaki, <u>keiji Takai,</u> <u>Katsutoshi</u> <u>Yada</u>	Self-control and consumer behavior	International Marketing Trends Conference	Venice, Italy	平成 28 年 1 月
150	<u>Zhen Li,</u> <u>Katsutoshi</u> <u>Yada</u>	Why Do Retailers End Price Promotions: A Study on Duration and Profit Effects of Promotion	2015 IEEE International Workshop on Data Mining for Service	Atlantic City, NJ, USA	平成 27 年 11 月
151	Ken Ishibashi, <u>Kei Miyazaki,</u> <u>Katsutoshi</u> <u>Yada</u>	Verification of effect on next purchase when many vice category products are brought	19th International Conference on Knowledge-Based and Intelligent Information & Engineering Systems - KES 2015	Marina Bay Sands Hotel, Singapore	平成 27 年 9 月
152	Yuta Kaneko, <u>Katsutoshi</u> <u>Yada</u>	Visualization System for Shopping Path	19th International Conference on Knowledge Based and Intelligent Information and Engineering Systems - KES 2015	Marina Bay Sands Hotel, Singapore	平成 27 年 9 月
153	<u>Katsutoshi</u> <u>Yada</u>	How Does Purchase of a Product Affect the Next Purchase?	14th International Marketing Trends Program Conference	Paris, France	平成 27 年 1 月
154	<u>矢田勝俊</u>	ビジネスにおけるビッグデータの利活用 —流通小売業の現場から—	CREST 戦略的創造研究推進事業	港区, 東京都	平成 26 年 11 月

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411034

	発表者名	発表標題	学会名	開催地	発表
155	<u>Katsutoshi</u> <u>Yada</u>	Big Data and Marketing	IEEE APWC on CSE 2014	Nadi, Fiji	平成 26 年 11 月
156	<u>Yi Zuo,</u> <u>Katsutoshi</u> <u>Yada</u>	Using Bayesian Network for Purchase Behavior Prediction from RFID Data	The 2014 IEEE International Conference on Systems, Man, and Cybernetics	San Diego, CA, USA	平成 26 年 10 月
157	<u>Yi Zuo,</u> A.B.M. Shawkat Ali, <u>Katsutoshi</u> <u>Yada</u>	Consumer Purchasing Behavior Extraction Using Statistical Learning Theory	18th International Conference on Knowledge-Based and Intelligent Information & Engineering Systems	Gdynia, Poland	平成 26 年 9 月
158	<u>Natsuki Sano,</u> <u>Katsutoshi</u> <u>Yada,</u> Tomomichi Suzuki	Category Evaluation Method for Business Intelligence Using a Hierarchical Bayes Model	13th IEEE International Conference on Cognitive Informatics & Cognitive Computing	Singapore	平成 26 年 8 月
* 159	<u>矢田勝俊</u>	購買行動研究の最前線	オギノ FSP 研究会	甲府市, 山梨県	平成 26 年 5 月

乙政 正太

	発表者名	発表標題	学会名	開催地	発表
160	Ken Ishibashi, <u>Takuya</u> <u>Iwasaki,</u> <u>Shota Otomasa,</u> <u>Katsutoshi</u> <u>Yada</u>	Model selection for financial statement analysis: Variable selection with data mining technique	20th International Conference on Knowledge-Based and Intelligent Information & Engineering Systems	York, UK	平成 28 年 9 月

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411034

	発表者名	発表タイトル	学会名	開催地	発表
161	<u>乙政正太</u>	最近の不正会計事件から学ぶべきことー指名委員会等設置会社である東芝を例としてー	日本会計研究学会 第63回関西部会	大阪市立大学	平成27年12月
162	<u>Shota Otomasa.</u> <u>Atsushi Shiiba.</u> <u>Akinobu Shuto</u>	The Sensitivity of Directors' Cash Compensation to the Performance Measures of Forecast-based Benchmark	Handai Accounting Research Seminar (HARS)	大阪大学	平成27年3月
163	<u>乙政正太</u>	現代会計研究会「経営者の利益予想に対する現金報酬の感応度」	現代会計フォーラム	東京大学	平成27年1月
164	<u>乙政正太</u>	特別プロジェクト報告「東日本大震災のディスクロージャー問題に関する実証研究」	日本ディスクロージャー研究学会 第9回研究大会	名古屋大学	平成26年5月

藤岡 里圭

	発表者名	発表タイトル	学会名	開催地	発表
165	<u>Pierre-Yves Donze</u> <u>Rika Fujioka</u>	The Globalization of the Luxury Industry (1970-2010)	XVIIth World Economic History Congress	国立京都国際会館	平成27年8月
166	<u>Rika Fujioka</u>	European Department Store's Response to the Fashion Globalization	Global Luxury and Fashion Business International Workshop	京都大学	平成27年2月

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411034

発表者名	発表標題	学会名	開催地	発表
167 <u>Rika Fujioka</u>	The Role of Japanese Department Stores in Introducing Affordable Luxury Goods into Japan	Global Luxury: Organizational change and emerging markets in the luxury industry since the 1970s	Neuchâtel, Switzerland.	平成 26 年 11 月

中 嶋 道 靖

発表者名	発表標題	学会名	開催地	発表
168 <u>中嶋道靖</u>	欧州の環境経営の最新動向	第 8 回 MFCA 大会 (日本 MFCA フォーラム)	東京ビックサイト	平成 28 年 12 月
169 <u>Asako Kimura,</u> <u>Michiyasu Nakajima</u>	The Development of Corporate Performance Information on Sustainability: Practice in Japanese Company	EcoBalance 2016	Kyoto Terssa Japan	平成 28 年 10 月
170 <u>Michiyasu Nakajima,</u> <u>Shoji Oka</u>	New Corporate Information on Sustainability Performance, especially on Natural Capital Accounting in Japanese Companies	EcoBalance 2016	Kyoto Terssa Japan	平成 28 年 10 月
171 Bernd Wagner, <u>Michiyasu Nakajima</u>	Future Potentials on Corporate Sustainability Performance Information to Financial Market	EcoBalance 2016	Kyoto Terssa Japan	平成 28 年 10 月

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411034

	発表者名	発表タイトル	学会名	開催地	発表
172	<u>Michiyasu Nakajima</u>	Resource Efficiency Management in Japanese Companies	Ringvorlesung: Ressourceneffizienz und Nachhaltigkeit	Hochschule Pforzheim, Germany	平成 28 年 4 月
173	<u>中嶋道靖</u>	環境経営における環境管理会計の意義	日本原価計算研究学会 2015 年度産学連携コストフォーラム	関西大学東京センター	平成 28 年 3 月
174	<u>Michiyasu Nakajima, Asako Kimura</u>	How will MFCA make Usefulness on Sustainable Engineering? : Based on practical experiences in Japanese and Southwestern Asian companies	The 2016 International Conference on Industrial Engineering and Operations Management	JW Marriott Hotel, Kuala Lumpur, Malaysia	平成 28 年 3 月
175	<u>Michiyasu Nakajima</u>	Material Flow Cost Accounting needs to collaborate with Data Science to establish Sustainable Management	APWC on CSE Paper ID # 44, Asia-Pacific World Congress on Computer Science and Engineering 2015	Shangri-La Fijian Resort, Fiji	平成 27 年 12 月
176	<u>Michiyasu Nakajima</u>	The Development of Environmental Management Accounting :Based on Material Flow Cost Accounting Practices	Management Accounting and Made in China 2025	hanghai national Accounting Institute, China	平成 27 年 11 月
177	<u>中嶋道靖, 木村麻子, 岡照二</u>	日本企業における環境経営の意義と課題: 東芝へのインタビューを通して	日本管理会計学会 2015 年度全国大会	近畿大学	平成 27 年 8 月

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411034

	発表者名	発表タイトル	学会名	開催地	発表
178	<u>岡照二</u> , <u>中嶋道靖</u>	自然資本情報の 企業経営におけ る意義と開示情 報としての可能性	日本社会関連会計学 会西日本部会	名城大学	平成 27 年 6 月

岡 照二

	発表者名	発表タイトル	学会名	開催地	発表
179	<u>Michiyasu</u> <u>Nakajima</u> , <u>Shoji Oka</u>	New Corporate Information on Sustainability Performance, especially on Natural Capital Accounting in Japanese Companies	EcoBalance2016	京都府	平成 28 年 10 月
180	<u>岡照二</u> , <u>中嶋道靖</u>	環境会計から自 然資本会計への 新たな展開: 新た な価値評価に向 けて	日本原価計算研究学 会第 42 回全国大会	東京都	平成 28 年 8 月
181	<u>中嶋道靖</u> , <u>木村麻子</u> , <u>岡照二</u>	日本企業におけ る環境経営の意 義と課題: 東芝へ のインタビューを 通して	日本管理会計学会 2015 年度全国大会	近畿大学	平成 27 年 8 月
182	<u>岡照二</u> , <u>中嶋道靖</u>	自然資本情報の 企業経営におけ る意義と開示情 報としての可能性	日本社会関連会計学 会西日本部会	名城大学	平成 27 年 6 月

岸谷 和広

	発表者名	発表タイトル	学会名	開催地	発表
183	<u>岸谷和広</u>	インターネット媒 体における広告 効果研究	多国籍企業学会 西部部会	関西大学	平成 28 年 12 月

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411034

	発表者名	発表標題	学会名	開催地	発表
184	<u>岸谷和広</u>	オンラインと消費者行動	日本商業学会関西部会	大阪文化交流センター	平成 27 年 9 月
185	<u>Kazuhiro Kishiya,</u> Gordon E. Miracle	Examining the Relationships Among National Culture, Individual-Level Cultural Variable and Consumer Attitudes	Knowledge-Based and Intelligent Information & Engineering Systems 19th Annual Conference, KES-2015,	Singapore, Singapore	平成 27 年 9 月
186	<u>岸谷和広</u>	ソーシャルメディア研究の新視点	日本商業学会 全国研究報告会	和歌山大学	平成 26 年 12 月

木村 麻子

	発表者名	発表標題	学会名	開催地	発表
187	<u>Asako Kimura,</u> <u>Michiyasu Nakajima</u>	The Development of Corporate Performance Information on Sustainability: Practice in Japanese Company	EcoBalance 2016	Kyoto Terssa Japan	平成 28 年 10 月
188	<u>Asako Kimura</u>	The Inter-Organizational Cultivation and Penetration of Sustainability Management: The case of Japanese manufacturing company	Centre for Social and Environmental Accounting Research, 28th International Congress	St. Andrews	平成 28 年 8 月
189	<u>木村麻子,</u> <u>小林由典</u>	東芝グループにおける環境経営の構築と実践	日本原価計算研究学会 2015 年度コストフォーラム	関西大学	平成 28 年 3 月

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411034

	発表者名	発表タイトル	学会名	開催地	発表
190	堺昌彦, 木村麻子	制度論的視点からのマネジメントコントロールシステム:ブランドマネジャー制に対応する マネジメントコントロールシステムの設計に向けて	日本会計研究学会 第74回全国大会	神戸大学	平成27年9月
191	木村麻子, 挽文子, 田中優希, 西村三保子, 宮本京子	わが国における女性会計学者の現状と課題(中間報告)	日本会計研究学会 第74回全国大会	神戸大学	平成27年9月
192	中嶋道靖, 木村麻子, 岡照二	日本企業における環境経営の意義と課題:東芝へのインタビューを通して	日本管理会計学会 2015年度全国大会	近畿大学	平成27年8月
193	木村麻子	MFCA分析による環境意識の醸成:サプライチェーンへの拡張を含めて	DBS 会計研究会	同志社大学ビジネススクール	平成27年7月

高井 啓二

	発表者名	発表タイトル	学会名	開催地	発表
194	林賢一, 高井啓二	MAR データにおける変数の部分集合に対する情報量規準	統計関連学会連合大会 2016	金沢大学, 石川県	平成28年9月
195	高井啓二	非単調欠測データに対する正規分布モデルの最尤推定量について	日本行動計量学会 第43回大会	首都大学東京	平成27年9月
196	高井啓二	欠測データ解析入門	日本行動計量学会 第17回春の合宿セミナー	東京大学	平成27年3月

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411034

	発表者名	発表標題	学会名	開催地	発表
197	<u>高井啓二</u>	MAR と独立性の 関係	2014 年度統計関連学 会連合大会	東京大学	平成 26 年 9 月

宮崎 慧

	発表者名	発表標題	学会名	開催地	発表
198	<u>宮崎慧</u> , <u>猪狩良介</u> , <u>星野崇宏</u>	直接効用関数に よる購買選択行 動モデルの新しい 推定法の提案	日本マーケティング・サ イエンス学会 第 100 回研究大会	ホテル阪急エキ スポパーク	平成 28 年 11 月
199	<u>宮崎慧</u>	段階推定のマー ケティングへの応 用について	日本行動計量学会 第 44 回大会	札幌学院大学	平成 28 年 8 月
200	<u>Ken Ishibashi</u> , <u>Kei Miyazaki</u> , <u>Katsutoshi</u> <u>Yada</u>	Verification of effect on next purchase when many vice category products are brought	19th International Conference on Knowledge-Based and Intellegent Information & Engineering Systems - KES 2015	Marina Bay Sands Hotel, Singapore	平成 27 年 9 月

岩崎 拓也

	発表者名	発表標題	学会名	開催地	発表
201	<u>Ken Ishibashi</u> , <u>Takuya</u> <u>Iwasaki</u> , <u>Shota Otomasa</u> , <u>Katsutoshi</u> <u>Yada</u>	Model selection for financial statement analysis: Variable selection with data mining technique	20th International Conference on Knowledge-Based and Intelligent Information & Engineering Systems	York, UK	平成 28 年 9 月
202	<u>Takuya</u> <u>Iwasaki</u> , <u>Norio Kitagawa</u> <u>Akinobu Shuto</u>	The effect of product market competition on discretionary management forecasts	The International Accounting Section of the American Accounting Association	California, USA	平成 27 年 1 月

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411034

千葉 貴宏

発表者名	発表タイトル	学会名	開催地	発表
203 <u>千葉貴宏</u>	サービスの再購買意図形成における諸概念の検討と新モデルの開発	日本商業学会 (関西西部会報告会)	神戸大学学友会大阪クラブ 大阪凌霜クラブ セミナールーム	平成 28 年 10 月

村上 啓介

発表者名	発表タイトル	学会名	開催地	発表
204 <u>村上啓介</u>	時間制約付きハブ配置配送計画問題に対するアプローチ	計測自動制御学会システム・情報部門学術講演会 2016	滋賀県	平成 28 年 12 月

里村 卓也

発表者名	発表タイトル	学会名	開催地	発表
205 <u>里村卓也</u>	行動・心理データの融合による顧客行動分析	日本商業学会関東部会研究会	専修大学	平成 29 年 3 月
206 <u>里村卓也</u>	行動・心理データの融合による顧客行動分析	南山大学経営研究センターワークショップ「消費者行動」	南山大学	平成 29 年 3 月
207 <u>Takuya Satomura</u>	Evaluation of Topic Quality for Shopper Insights	International Workshop on Marketing Science and Service Research	Tokyo University	平成 28 年 12 月
208 河塚 悠, 河股 久司, <u>里村 卓也</u> , 守口 剛, 白井 康之	リンク分析アルゴリズムを応用した”早慶らしさ”の数量化	日本マーケティングサイエンス学会 第 100 会研究大会	大阪大学	平成 28 年 11 月

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411034

	発表者名	発表標題	学会名	開催地	発表
209	<u>Takuya</u> <u>Satomura</u> ,Daisuke Nogiwa,Eisaku Sato,Hiroshi Nakamura,Tsuyoshi Moriguchi_	消費者選択行動モデルを利用した購買トピックの分析	2016 年度統計関連学会連合大会	金沢大学	平成 28 年 9 月
210	<u>Takuya</u> <u>Satomura</u> , Daisuke Nogiwa, Eisaku Sato, Hiroshi Nakamura, Tsuyoshi Moriguchi_	Latent Purchase Topic Models For Turning Purchase Data Into Shopper Insights	ISMS Marketing Science Conference	Fudan University, Shanghi, China	平成 28 年 6 月
211	<u>里村卓也</u> , 野際大介, 佐藤栄作, 中村博, 守口剛	Latent Purchase Topic Models For Turning Purchase Data Into Shopper Insights	第 99 回日本マーケティングサイエンス学会 第 99 回研究大会	東北大学	平成 28 年 6 月
212	<u>里村卓也</u> , 野際大介, 佐藤栄作, 中村博	購買履歴データを用いた顧客別購買トピックの分析	第 50 回消費者行動研究コンファレンス	神戸大学	平成 27 年 6 月
213	<u>里村卓也</u>	消費者の離散・連続選択モデルの研究	南山大学経営研究センター消費者行動ワークショップ	南山大学,名古屋市	平成 27 年 3 月
214	<u>里村卓也</u> , 野際大介, 佐藤栄作, 中村博	チャネル別の特性を考慮した カテゴリ購買経験分析とトピックモデルによる購買テーマ分析	経営科学系研究部会 連合協議会主催平成 26 年度データ解析コン ペティション成果報告 会	リクルート GINZA8ビル, 中央区,東京都	平成 27 年 3 月

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411034

岡田 謙介

	発表者名	発表標題	学会名	開催地	発表
215	<u>岡田謙介</u>	心理学・行動科学におけるベイジアンモデリング	日本行動計量学会第44回大会チュートリアルセミナー	札幌学院大学	平成28年8月
216	<u>Kensuke Okada</u> , Michael D. Lee, Joachim Vandekerckhove	Modeling number of answered items in Large-scale online surveys	Abstract Booklet of the 49th Annual Meeting of the Society for Mathematical Psychology, 42-43	New Jersey, USA	平成28年
217	T. Tanaka, Machia Okubo, Yoshihiko Kunisato, <u>Kensuke Okada</u>	A hierarchical diffusion model account of the gaze cueing paradigm	Abstract Booklet of the 49th Annual Meeting of the Society for Mathematical Psychology, 63	New Jersey, USA	平成28年
218	Daiki Hojo, <u>Kensuke Okada</u>	Bayesian multidimensional item response models for measuring response styles using anchoring vignettes	Abstract Booklet of the 49th Annual Meeting of the Society for Mathematical Psychology, 65	New Jersey, USA	平成28年
219	北條大樹・ <u>岡田謙介</u>	反応傾向バイアスに対処するための新たな係留寸描法データ分析モデル	日本計算機統計学会第30回シンポジウム講演論文集, 11-14	静岡県	平成28年
220	<u>岡田謙介</u> ・星野崇宏	実験条件を増やすと効果量は小さくなる—「効果量ハッキング」の危険性とその対処法について—	日本教育心理学会第58回総会発表論文集, 564	香川大学	平成28年

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411034

	発表者名	発表標題	学会名	開催地	発表
221	北條大樹・岡田謙介	係留寸描法データのベイズ多次元 IRT モデル	日本行動計量学会第44回大会発表論文抄録集, CA1-10	札幌学院大学	平成 28 年
222	高橋雄介・岡田謙介	調査データの回答バイアスの補正方法としての係留寸描法の有効性	2016 年度人工知能学会全国大会論文集, 3B3-NFC-05a-2	北九州国際会議場	平成 28 年

佐野 夏樹

	発表者名	発表標題	学会名	開催地	発表
223	Yue Li, Natsuki Sano, Mirai Tanaka, Tomomichi Suzuki	A Study on the Measurement Precision of the Binary Data	Asian Network for Quality Congress 2016	Far East Federal University, Vladivostok, Russia	平成 28 年 9 月
224	Kenta Yoshida, Natsuki Sano, Mirai Tanaka, Tomomichi Suzuki	Defect Detection for Image Data Using Machine Learning and Image Processing	Asian Network for Quality Congress 2016	Far East Federal University, Vladivostok, Russia	平成 28 年 9 月
225	Yuki Bando, Natsuki Sano, Mirai Tanaka, Tomomichi Suzuki	Evaluation of Relationship between Pairing and Number of Rounds in Swiss System Tournament	Asian Network for Quality Congress 2016	Far East Federal University, Vladivostok, Russia	平成 28 年 9 月
226	Tatsuya Iwasawa, Natsuki Sano, Mirai Tanaka, Tomomichi Suzuki	Defect Detection from Image Data with Feature Extraction using Orthogonal Array	Asian Network for Quality Congress 2016	Far East Federal University, Vladivostok, Russia	平成 28 年 9 月

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411034

	発表者名	発表標題	学会名	開催地	発表
227	Junya Ono, <u>Natsuki Sano</u> , Mirai Tanaka, Tomomichi Suzuki	Analysis of Winning Percentage in Sports Based on a Statistical Model	Asian Network for Quality Congress 2016	Far East Federal University, Vladivostok, Russia	平成 28 年 9 月
228	Ryo Suzuki, Yuzuru Hayashi, <u>Natsuki Sano</u> , Mirai Tanaka, Tomomichi Suzuki	Statistical Analysis of Influenza Spreading Pattern Using Pharmaceutical Data in Tochigi Prefecture, Japan	Asian Network for Quality Congress 2016	Far East Federal University, Vladivostok, Russia	平成 28 年 9 月
229	<u>Natsuki Sano</u> , Reo Tsutsui, <u>Katsutoshi Yada</u> , Tomomichi Suzuki	Clustering of Customer Shopping Paths in Japanese Grocery Stores	Proc. of 20th International Conference on Knowledge Based and Intelligent Information and Engineering Systems	Park Inn by Radisson, York, UK	平成 28 年 9 月
230	<u>Natsuki Sano</u> , Yuki Mori, Tomomichi Suzuki	Defect Detection Using Two-dimensional Moving Range Filter and Unanimous Vote among Color Component Classifiers	Proc. of the The 3rd Multidisciplinary International Social Networks Conference on SocialInformatics 2016	Kean University, New Jersey, USA	平成 28 年 8 月
231	Tomomichi Suzuki, Tatsuya Iwasawa, Kenta Yoshida, <u>Natsuki Sano</u> , Mirai Tanaka	Integrating Statistical and Machine Learning Approaches in Improving Inspection Process	Proc. of XIIth International Workshop on Intelligent Statistical Quality Control 2016	Helmut Schmidt University, Hamburg, Germany	平成 28 年 8 月

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411034

	発表者名	発表標題	学会名	開催地	発表
232	Wataru Hasegawa, <u>Natsuki</u> <u>Sano</u> ,Tomomichi Suzuki	Clarification of the Relationship between the State of Elderly and Provided Care to Assist Designing Care Plans	Proc. of Asian Network for Quality Congress 2015	Chientan Activity Center, Taipei, Taiwan	平成 27 年 9 月
233	<u>Natsuki Sano</u> , Natsumi Machino, <u>Katsutoshi Yada</u> , Tomomichi Suzuki	Recommendation system for grocery store considering data sparsity	19th International Conference on Knowledge-Based and Intelligent Information & Engineering Systems – KES 2015	Marina Bay Sands Hotel , Singapore	平成 27 年 9 月
234	鈴木知道, <u>佐野夏樹</u> , 片倉彰優, 宮沢麗	質的データの測定精度評価に関する研究	日本品質管理学会 第 107 回研究発表会	東京(杉並区), (社)日本科学技術連盟	平成 27 年 5 月
235	<u>佐野夏樹</u> , 東中薫, 鈴木知道	直交表を用いたサポートベクター回帰の効率的なハイパーパラメータ設定	日本品質管理学会 第 107 回研究発表会	東京(杉並区), (社)日本科学技術連盟	平成 27 年 5 月
236	池田亮介, <u>佐野夏樹</u> , 小谷明, 林譲, 鈴木知道	回帰 2 進木法を用いた学力と実験能力の関係性に関する研究	日本品質管理学会 第 44 回年次大会研究発表会	東京都市大学, 東京, 日本	平成 26 年 11 月
237	<u>佐野夏樹</u> , 山中正彦	製品カテゴリーの基盤分類と時系列動向	日本マーケティング・サイエンス学会 第 96 回研究大会	筑波大学, 東京, 日本	平成 26 年 11 月
238	<u>Natsuki Sano</u> , Kaori Higashinaka, Tomomichi Suzuki	Efficient Parameter Selection for Support Vector Regression Using Orthogonal Array	2014 IEEE International Conference on Systems, Man, and Cybernetics	San Diego, USA	平成 26 年 10 月

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411034

	発表者名	発表標題	学会名	開催地	発表
239	Tomomichi Suzuki, Yusuke Tsutsumi, <u>Natsuki Sano</u>	International Standardization in Capability of Detection	Advanced Mathematical and Computational Tools in Metrology and Testing 2014	St.Petersburg, Russia	平成 26 年 9 月
240	<u>Natsuki Sano</u> , Syusuke Tamura, <u>Katsutoshi Yada</u> , Tomomichi Suzuki	Evaluation of Price Elasticity and Brand Loyalty in Milk Products	18th International Conference on Knowledge-Based and Intelligent Information & Engineering Systems	Gdynia, Poland	平成 26 年 9 月
241	Ryosuke Ikeda, <u>Natsuki Sano</u> , Akira Kotani, Yuzuru Hayashi, Tomomichi Suzuki	The Relationship between Academic Achievement in the Chemistry and Experimental Ability	Asian Network for Quality Congress 2014	Singapore	平成 26 年 8 月
242	<u>Natsuki Sano</u> , <u>Katsutoshi Yada</u> , Tomomichi Suzuki	Category Evaluation Method for Business Intelligence Using a Hierarchical Bayes Model	13th IEEE International Conference on Cognitive Informatics & Cognitive Computing	Singapore	平成 26 年 8 月

塩地 洋

	発表者名	発表標題	学会名	開催地	発表
243	<u>塩地洋</u>	新興国におけるモータリゼーション	アジア経営学会全国大会	立命館大学,茨木市	平成 27 年 9 月
244	<u>Hiroshi Shioji</u>	Luxury Vehicle Market in Brazil: The Different Type of the Development	WORLD ECONOMIC HISTORY CONFERENCE	国立国際会議場,京都市	平成 27 年 8 月

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411034

発表者名	発表タイトル	学会名	開催地	発表
245 Eiko Tomiyama, <u>Hiroshi Shioji</u>	Hyundai Motor's "Selective Focused Local Adaptation Strategy" and the Product Planning and Development Process	23rd Gerpisa International Colloquium	Ecole Normale Supérieure de Cachan, パリ, フランス:	平成 27 年 6 月
246 <u>Hiroshi Shioji</u>	Competitiveness of the Japanese, Korean, and Chinese Automobile Industries	INNOVATION IN THE EAST ASIAN AUTOMOTIVE INDUSTRY	University of Duisburg-Essen デュースブルグ, ドイツ	平成 27 年 6 月
247 <u>塩地洋</u>	新興国におけるモータリゼーション	アジア経営学会中部部会	龍谷大学,京都市	平成 27 年 4 月

ピエール＝イブ、ドンゼ

発表者名	発表タイトル	学会名	開催地	発表
248 <u>Pierre-Yves Donzé</u>	Global value chains and fashion accessories: the case of the US watch company Fossil	First World Congress of Business History	Bergen, Norway	平成 28 年 8 月
249 <u>Pierre-Yves Donzé</u> , Ben Wubs	LVHM: Storytelling and Organizing Creativity in Luxury and Fashion	Joint conference of the Association of Business Historians (ABH) and the Gesellschaft für Unternehmensgeschichte (GUG)	Berlin, Germany	平成 28 年 5 月
250 <u>Pierre-Yves Donzé</u>	Introduction	Global Luxury: Organizational Change and Emerging Markets in the Luxury Industry since the 1970s	Neuchâtel, Switzerland	平成 26 年 11 月

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411034

鷲尾 隆

	発表者名	発表標題	学会名	開催地	発表
251	Hiroki Fukuda, <u>Takashi Washio</u> , Masafumi Kitakaze	How to mathematize the relationship between the clinical factors and outcomes in patients with heart failure – Proposal of precise medicine	第 81 回日本循環器学 会学術集会	石川県立音楽 堂	平成 29 年 3 月
252	Shigeki Takeuchi, <u>Takashi Washio</u>	Quantum state estimation and discrimination	SPIE Photonics West OPTO: Advances in Photonics of Quantum Computing, Memory, and Communication X	California, United States	平成 29 年 2 月
253	<u>Takashi Washio</u>	Potential Social Impact of Compact and Smart Sensors in IoT Era	Proc. of HICCS: The 50th Hawaii International Conference on System Sciences	Hawaii, United States	平成 29 年 1 月
254	<u>Takashi Washio</u>	Comparative Research on Social Risk Reduction by Smart Hazard Monitoring Sensors	Proc. of HICCS: The 50th Hawaii International Conference on System Sciences	Hawaii, United States	平成 29 年 1 月
255	<u>Takashi Washio</u>	Defying the Gravity of Learning Curves: Are More Samples Better for Nearest Neighbor Anomaly Detectors?	SISAP 2016: 9th International Conference on Similarity Search and Applications	National Institute of Informatics (NII), Tokyo	平成 28 年 10 月

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411034

	発表者名	発表標題	学会名	開催地	発表
256	安並一浩, 鷺尾 隆	太陽光発電出力 推定手法の精度 向上に向けた取 り組み	平成 28 年度電力技 術・電力系統技術合同 研究会, セッション名 称:【分散電源】再エネ 出力予測	福井大学	平成 28 年 9 月
257	<u>Takashi</u> <u>Washio</u>	NanoScale and Ultratrace Sensing for IoT using Machine Learning	KES2016: 20th Annual Conference on Knowledge Based and Intelligent Information & Engineering Systems	York, United Kingdom	平成 28 年 9 月
258	安並一浩, 鷺尾 隆	太陽光発電出力 のサンプル値を 用いた太陽光発 電出力推定手法	平成 28 年電気学会 電力・エネルギー部門 大会(第 27 回)	九州工業大学 戸畑キャンパス	平成 28 年 9 月
259	谷口正輝, 川合知二, 筒井真楠, 横田一道, 鷺尾隆	1分子DNAシー クエンサーが生 み出すビッグデ ータ	第 30 回人工知能学会 全国大会(2016)	北九州国際会 議場	平成 28 年 6 月
260	馬場祥人, 杉山麿人, 鷺尾隆	サンプリングを用 いた精度保証つ き頻出パターンマ イニング	第 30 回人工知能学会 全国大会(2016)	北九州国際会 議場	平成 28 年 6 月
261	原聡, 小野貴史, 岡本亮, 鷺尾隆, 竹内繁樹	機械学習を用い た量子状態異常 検知	第 30 回人工知能学会 全国大会(2016)	北九州国際会 議場	平成 28 年 6 月
262	岡滉, 河原吉伸, 鷺尾隆	大規模スイッチ ング線形動的シ ステムの確率的変 分推論	第 30 回人工知能学会 全国大会(2016)	北九州国際会 議場	平成 28 年 6 月

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411034

	発表者名	発表標題	学会名	開催地	発表
263	吉田剛, 鷺尾隆, 石井陽, 川合知二, 谷口正輝, 筒井真楠, 横田一道	機械学習を用いた ナノデバイス出力パルス 波形による生体識別技術 の開発	第 30 回人工知能学会 全国大会 (2016)	北九州国際会議場	平成 28 年 6 月
264	宮澤桂, 河原吉伸, 鷺尾隆	潜在グループ正則化学習 におけるグループ構造の 自動発見	第 30 回人工知能学会 全国大会 (2016)	北九州国際会議場	平成 28 年 6 月
265	鷺尾隆	機械学習による先端セン シングデバイスの実現	日本計算機統計学会 第 30 回大会	ハートピア京都	平成 28 年 5 月
266	Takeshi Yoshida, Takashi Washio, Akira Ishii, Tomoji Kawai, Masateru Taniguchi, Makusu Tsutsui, Kazumichi Yokota	Identification of Microorganisms Using Machine Learning Based on Nanopore Sensing Output	ImPACT Mitata PM International Symposium on InSECT 2016	名古屋大学	平成 28 年 4 月
267	谷口正輝, 横田一道, 筒井真楠, 鷺尾隆, 川合知二	ナノバイオデバイスと機 械学習の融合による細菌 ・ウイルス識別	日本化学会 第 96 春季年会 (2016)	同志社大学 京田辺キャンパス	平成 28 年 3 月
268	安並一浩, 鷺尾隆	PV 発電出力推定手法の 推定精度と時間分解能の 関係	平成 28 年電気学会 全国大会論文集	東北大学 川内北キャンパス	平成 28 年 3 月

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411034

発表者名	発表標題	学会名	開催地	発表
269 Sunil Aryal, Kai Ming Ting, Gholamreza Haffari, <u>Takashi</u> <u>Washio</u>	Beyond tf-idf and cosine distance in documents dissimilarity measure	In Information Retrieval Technology Volume 9460 of the series Lecture Notes in Computer Science: Proceedings of the 11th Asia Information Retrieval Societies Conference (AIRS 2015)	Queensland, Australia	平成 27 年 12 月
270 Kazuhiro Yasunami, <u>Takashi</u> <u>Washio</u>	Applicability of a PV Power Output Estimation Method using Low Sampling Rates	The Proceedings of International Workshop on Time Series Data Analysis and its Applications (TSDAA 2015)	Keio University, Kanagawa	平成 27 年 11 月
271 Kazuhiro Yasunami, <u>Takashi</u> <u>Washio</u>	An Accuracy Evaluation of PV Power Output Estimation Method Using Covariance between Solar Radiation Intensity and Power Flow	Proc. of IEEE Power and Energy Society ISGT (Innovative Smart Grid Technology) Asia 2015	Bangkok, Thailand	平成 27 年 11 月
272 Kazuhiro Yasunami, <u>Takashi</u> <u>Washio</u>	An Estimation Method of PV Power Output in Electric Power Systems by using Covariance between Solar Radiation Intensity and Power Flow	International Conference on Electrical Engineering (ICEE) 2015	The University of Hong Kong, Pokfulam, Hong Kong	平成 27 年 7 月
273 岡滉, 河原吉伸, <u>鷲尾隆</u>	市場機構の変化を考慮したポートフォリオ選択	第 9 回人工知能学会全国大会 (2015)	函館未来大学	平成 27 年 5 月

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411034

	発表者名	発表標題	学会名	開催地	発表
274	馬場祥人, 杉山鷹人, 鷲尾隆	サンプリングを用いた高速頻出パターンマイニング	第9回人工知能学会 全国大会(2015)	函館未来大学	平成27年5月
275	Sunil Aryal, Kai Ming Ting, Gholamreza Haffari, Takashi Washio	mp-dissimilarity: A data dependent dissimilarity measure	ICDM2014:IEEE International Conference on Data Mining, DM570 (2014)	Shenzhen, China	平成26年12月
276	Hideaki Suwa,Atsushi Nakano,Akira Hunada,Takahi ro Ohara,Yasuo Sugano,Takuya Hasegawa,Hide aki Kanzaki,Toshih isa Anzai,Takashi Washio,Masafu mi Kitakaze	The impact of the plasma BNP levels for the prediction of re-hospitalization in the management of patients with heart failure	心不全学会大会, O-108 (2014)	大阪府	平成26年10月
277	安並一浩, 鷲尾隆	太陽光発電出力 変動分析のため の相互相関係数 推定手法の検証	平成26年電気学会電 力・エネルギー部門大 会, Vol. 9 (6), pp.11-12 (2014)	京都府	平成26年9月
278	Demeshko Marina, Washio Takashi, Kawahara Yoshinobu, Pepyolyshev Yuriy	Application of a Continuous Time Structural ARMA Modeling to Stability Analysis of a Nuclear Reactor	第28回人工知能学会 全国大会, 2G1-4 (2014)	愛媛県	平成26年5月
279	掃部健, 河原吉伸, 鷲尾隆	構造正則化学習 を用いた混雑シ ーンにおける異 常検知	第28回人工知能学会 全国大会, 2F3-3 (2014)	愛媛県	平成26年5月

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411034

	発表者名	発表タイトル	学会名	開催地	発表
280	河原吉伸, 岡田省吾, 武田朗子, 鷲尾隆	Componentwise カーネル学習を 用いたポートフォ リオ選択	第 28 回人工知能学会 全国大会, 2F3-5 (2014)	愛媛県	平成 26 年 5 月
281	田中直樹, 清水昌平, 鷲尾隆	潜在クラスが存在 する場合のベイ ズ的アプローチ による非ガウス因 果構造推定法	第 28 回人工知能学会 全国大会, 2G1-3 (2014)	愛媛県	平成 26 年 5 月
282	Sunil Aryal, Kai Ming Ting, Jonathan Wells, <u>Takashi</u> <u>Washio</u>	Improving iForest with relative mass	PAKDD2014: The 18th Pacific-Asia Conference on Knowledge Discovery and Data Mining, pp.510-521 (2014)	Tainan, Taiwan	平成 26 年 5 月
283	Patrick Blöbaum, <u>Shohei</u> <u>Shimizu</u> , <u>Takashi</u> <u>Washio</u>	A performance comparison of generative and discriminative models in causal and anticausal problems	Seventeenth International Conference on Artificial Intelligence and Statistics, L008 (2014)	Reykjavik, Iceland	平成 26 年 4 月

清水 昌平

	発表者名	発表タイトル	学会名	開催地	発表
284	芳賀麻誉美, <u>清水昌平</u>	関係流動性と消 費者自民族中心 主義の因果構造 分析～非ガウス 性を使った因果 推論	日本マーケティング・サ イエンス学会 第 100 回研究大会	大阪府	平成 28 年 11 月
285	<u>Shohei Shimizu</u>	A non-Gaussian approach for causal structure learning in the presence of hidden common causes	CRM Workshop: Statistical Causal Inference and its Applications to Genetics	Montreal, Canada	平成 28 年 7 月

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411034

	発表者名	発表標題	学会名	開催地	発表
286	<u>Shohei Shimizu</u>	A non-Gaussian model for causal discovery in the presence of hidden common causes	Munich Workshop on Causal Inference and Information Theory	Munich, Germany	平成 28 年 5 月
287	<u>清水昌平</u>	因果探索: 基本から最近の発展までを概説	第 23 回情報論的学習理論と機械学習研究会 (IBISML)	東京都	平成 28 年 3 月
288	<u>Shohei Shimizu</u>	Non-Gaussian structural equation models for causal discovery	2016 Probabilistic Graphical Model Workshop: Sparsity, Structure and High-dimensionality, Institute of Statistical Mathematics	Tokyo, Japan	平成 28 年 3 月
289	<u>Shohei Shimizu</u>	因果探索: 観察データから因果仮説を探索する	日本社会心理学会第 3 回春の方法論セミナー	東京都	平成 28 年 3 月
290	<u>清水昌平</u>	因果探索と非ガウス性	第 11 回協定講座シンポジウム: 計算科学とビジュアル・アナリティクス	神戸市	平成 28 年 3 月
291	<u>Shohei Shimizu</u>	Statistical estimation of causal directions based on observational data	The 3rd CiNet Conference - Neural Mechanism of Decision Making: Achievements and New Directions	Osaka, Japan	平成 28 年 2 月
292	<u>Shohei Shimizu</u>	Non-Gaussian methods for causal discovery	International Workshop on Causal Inference	Tokyo, Japan	平成 28 年 1 月
293	<u>清水昌平</u>	因果探索: データから因果の方向性等を調べる	日本行動計量学会 第 43 回大会	東京都	平成 27 年 9 月

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411034

	発表者名	発表標題	学会名	開催地	発表
294	<u>清水昌平</u>	非ガウス性を利用した因果構造探索	2015年日本生態学会 関東地区会シンポジウム「非ガウス性／非線形性／非対称性からの因果推論手法:その使いどころ・原理・実装を学ぶ」	東京都	平成27年8月
295	田中直樹, <u>清水昌平</u> , <u>鷺尾隆</u>	潜在クラスが存在する場合のベイジック的アプローチによる非ガウス因果構造推定法	第28回人工知能学会 全国大会, 2G1-3 (2014)	愛媛県	平成26年5月
296	Patrick Blöbaum, <u>Shohei Shimizu</u> , <u>Takashi Washio</u>	A performance comparison of generative and discriminative models in causal and anticausal problems	Seventeenth International Conference on Artificial Intelligence and Statistics, L008 (2014)	Reykjavik, Iceland	平成26年4月

椎葉 淳

	発表者名	発表標題	学会名	開催地	発表
297	<u>Atsushi Shiiba</u>	A Theory of Tax Avoidance and Geographic Segment Disclosure	日本ディスクロージャー研究学会 第2回 JARDIS ワークショップ	北九州市立大学	平成29年3月
298	Ikuko Sasaki, Kunimaru Takahashi, <u>Atsushi Shiiba</u>	The Supplier-Customer Relationship and Cost Structure in Japan	25th Asian-Pacific Conference on International Accounting Issues	Maui, Hawaii	平成28年11月
299	Yoshikazu Ishinagi, <u>Atsushi Shiiba</u>	Manager's Forecasting Strategy and Project Complexity	Asia-Pacific Management Accounting Association, The 8th Annual Forum	Sherwood Taipei, Taipei, Taiwan	平成28年10月

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411034

	発表者名	発表標題	学会名	開催地	発表
300	Yutaro Murakami, <u>Atsushi Shiiba</u>	Voluntary Disclosure and Value Relevance of Segment Information	American Accounting Association, Annual Meeting	New York, U.S.A.	平成 28 年 8 月
301	村宮克彦, <u>椎葉淳</u>	What Moves Firm Values?	日本ディスクロージャー研究学会 第 1 回 JARDIS ワークショップ	県立広島大学	平成 28 年 3 月
302	<u>椎葉淳</u>	コスト構造と企業リスク:近年の理論・実証研究からの示唆	2015 年度管理会計学会 全国大会	近畿大学 東大阪キャンパス	平成 27 年 8 月
303	<u>椎葉淳</u>	コスト構造と企業リスク	管理会計学会	近畿大学 東大阪キャンパス	平成 27 年 8 月
304	<u>Shota Otomasa,</u> <u>Atsushi Shiiba,</u> <u>Akinobu Shuto</u>	The Sensitivity of Directors' Cash Compensation to the Performance Measures of Forecast-based Benchmark	Handai Accounting Research Seminar (HARS)	大阪大学	平成 27 年 3 月

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411034

廣瀬 慧

	発表者名	発表標題	学会名	開催地	発表
305	Sadanobu Mizusako, Hiromichi Nagao, <u>Kei Hirose</u> , Masayuki Kano, Muneo Hori, Shinichi Sakai, Shigeki Nakagawa, Ryou Honda, Hisanori Kimura, Naoshi Hirata	Data-driven imaging of seismic wave field in the Tokyo metropolitan area based on lasso.	AOGS (Asia Oceania Geosciences Society) 12th Annual Meeting	Suntec Singapore Convention and Exhibition Centre, Singapore	平成 27 年 8 月
306	Sadanobu Mizusako, Hiromichi Nagao, Masayuki Kano, <u>Kei Hirose</u> , Muneo Hori	Imaging ground motions in the Tokyo metropolitan area from MeSO-net seismograms based on LASSO.	The 4th International Symposium on Data Assimilation	RIKEN AICS, Kobe, Japan	平成 27 年 2 月
307	<u>Kei Hirose</u> , Michio Yamamoto	Estimation of factor correlation in penalized likelihood factor analysis.	The 7th International Conference of the ERCIM WG on COMPUTING & STATISTICS (ERCIM 2013)	University of Pisa, Italy	平成 26 年 12 月
308	Sadanobu Mizusako, Hiromichi Nagao, Masayuki Kano, <u>Kei Hirose</u> , Muneo Hori	Imaging ground motions in the Tokyo metropolitan area based on MeSO-net using lasso.	AGU (American Geophysical Union) Fall Meeting	Moscone Convention Center, San Francisco, USA	平成 26 年 12 月

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411034

	発表者名	発表標題	学会名	開催地	発表
309	<u>Kei Hirose</u> , Michio Yamamoto (招待講演)	Extension of Rotation Technique via Penalization in Factor Analysis Model.	International Conference on Advances in Interdisciplinary Statistics and Combinatorics (AISC 2014)	Greensboro, USA	平成 26 年 10 月
310	<u>Kei Hirose</u> , Michio Yamamoto	Lasso-type penalized maximum likelihood factor analysis via nonconvex penalties.	The 3rd Institute of Mathematical Statistics Asia Pacific Rim Meeting (APRM 2014)	Howard International House, Taipei	平成 26 年 7 月

市川 昊平

	発表者名	発表標題	学会名	開催地	発表
311	柏崎礼生, 北 口善明, <u>市川 昊平</u> , 近堂徹, 中川郁夫, 菊 池豊, 下條真司	広域分散仮想化 環境の展開・運 用・管理コストの 定量的評価	インターネットと運用技 術シンポジウム 2016	広島県	平成 28 年 12 月
312	柏崎礼生, 西 内一馬, 北口 善明, <u>市川昊 平</u> , 近堂徹, 中川郁夫, 菊池豊	ネットワーク災害 訓練のシナリオ記 述コストを低減す るインターフェイ スの設計と実装	インターネットと運用技 術シンポジウム 2016	広島県	平成 28 年 12 月
313	Kar-Long Chan, <u>Kohei Ichikawa</u> , Yasuhiro Watashiba, Putchong Uthayopas, Hajimu Iida	A Hybrid Game Contents Streaming Method: Improving Graphic Quality Delivered on Cloud Gaming	15th International Conference on Entertainment Computing	Vienna	平成 28 年 9 月

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411034

	発表者名	発表標題	学会名	開催地	発表
314	Wassapon Watanakesunt orn, <u>Kohei</u> <u>Ichikawa</u> , Putchong Uthayopass	An Implementation of OpenFlow Network Monitoring and Visualization Tools	PRAGMA31 Workshop	Bangkok	平成 28 年 9 月
315	Chawanat Nakasan, <u>Kohei</u> <u>Ichikawa</u> , Hajimu Iida	Implementing and Testing Ceph Distributed File System with Multipath TCP	PRAGMA31 Workshop	Bangkok	平成 28 年 9 月
316	Pongsakorn U-chupala, Yasuhiro Watashiba, <u>Kohei</u> <u>Ichikawa</u> , Susumu Date, Hajimu Iida	Container Rebalancing: Towards Proactive Linux Containers Placement Optimization in a Data Center	PRAGMA31 Workshop	Bangkok	平成 28 年 9 月
317	Ikuo Nakagawa, Hiroki Kashiwazaki, Shinji Shimojo, <u>Kohei</u> <u>Ichikawa</u> , Tohru Kondo, Yoshiaki Kitaguchi, Yutaka Kikuchi, Shigetoshi Yokoyama, Shunji Abe	A design and implementation of global distributed POSIX file system on the top of multiple independent cloud services	5th IIAI International Congress on Advanced Applied Informatics (IIAI-AAI)	Kumamoto	平成 28 年 7 月

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411034

首藤 昭信

	発表者名	発表標題	学会名	開催地	発表
318	<u>Akinobu Syutou</u>	Managerial discretion over their initial earnings forecasts	中央大学企業研究所 公開研究会	中央大学	平成 27 年 7 月
319	<u>Akinobu Syutou</u>	The role of accounting conservatism in executive compensation contracts	神戸大学経済経営研 究所セミナー (TJAR Workshop 共催)	神戸大学	平成 27 年 7 月
320	<u>Akinobu Syutou</u>	Managerial discretion over their initial earnings forecasts	早稲田大学プロジェク ト研究所会計研究所セ ミナー	早稲田大学 11 号館 703 号室	平成 27 年 7 月
321	<u>Akinobu Syutou</u>	The role of accounting conservatism in executive compensation contracts	東京大学現代会計フ ォーラム	東京大学	平成 27 年 6 月
322	<u>Akinobu Syutou</u>	Managerial discretion over their initial earnings forecasts	東京大学 現代会計フォーラム	東京大学	平成 27 年 5 月
323	<u>Shota Otomasa,</u> <u>Atsushi Shiiba,</u> <u>Akinobu Shuto</u>	The Sensitivity of Directors' Cash Compensation to the Performance Measures of Forecast-based Benchmark	Handai Accounting Research Seminar (HARS)	大阪大学	平成 27 年 3 月
324	<u>Takuya Iwasaki,</u> Norio Kitagawa, <u>Akinobu Shuto</u>	The effect of product market competition on discretionary management forecasts	The International Accounting Section of the American Accounting Association	California, USA	平成 27 年 1 月

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411034

発表者名	発表標題	学会名	開催地	発表
325 <u>Akinobu Syutou</u>	Credibility of management earnings forecasts and future returns	American Accounting Association Annual Meeting	Atlanta, Georgia, USA	平成 26 年 8 月

左 毅

発表者名	発表標題	学会名	開催地	発表
326 Eisuke Kita, <u>Yi Zuo</u> , Fumiya Saito, Xuanang Feng	Personal Authentication with Face and Voice Features Extracted Through Kinect Sensor	2016 IEEE International Conference on Data Mining (ICDM2016)	Barcelona, Spain	平成 28 年 12 月
327 <u>Yi Zuo</u> , Yuya Kajikawa	An Analysis of Hierarchical Clustering for Supply Network at Central Region in Japan	2016 IEEE International Conference on Data Mining (ICDM2016)	Barcelona, Spain	平成 28 年 12 月
328 <u>Yi Zuo</u> , <u>Katsutoshi Yada</u> , A. B. M. Shawkat Ali	Prediction of Consumer Purchasing in a Grocery Store Using Machine Learning Techniques	2016 3rd Asia-Pacific World Congress on Computer Science and Engineering (APWC on CSE 2016)	Nadi, Fiji	平成 28 年 12 月
329 Xuanang Feng, Yuina Yazawa, <u>Yi Zuo</u> , Eisuke Kita	Control of Automatic Door by Using Kinect Sensor	2016 The 4th International Symposium on Computing and Networking	Hiroshima, Japan	平成 28 年 11 月
330 <u>Yi Zuo</u> , Yuya Kajikawa	Application of Social Network Analysis Techniques for Japanese Industrial Structure	2016 World Congress on Computational Mechanics	Seoul, Korea	平成 28 年 7 月

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411034

発表者名	発表標題	学会名	開催地	発表
331 <u>Yi Zuo.</u> <u>Katsutoshi Yada.</u> Eisuke Kita	Impact of Analog-to-digital Conversion on Predictive Performance: A Case Study of Bayesian Network vs. Support Vector Machine in Purchase Behavior Prediction	2016 World Congress on Computational Mechanics	Seoul, Korea	平成 28 年 7 月

李 振

発表者名	発表標題	学会名	開催地	発表
332 <u>Zhen Li,</u> Ken Ishibashi, Yuta Kaneko, <u>Kei Miyazaki,</u> <u>Hiroshi Shioji,</u> <u>Katsutoshi Yada</u>	Vehicle Ownership and Economic Development	3rd Asia-Pacific World Congress on Computer Science and Engineering	Fiji	平成 28 年 12 月
333 <u>Zhen Li,</u> <u>Katsutoshi Yada</u>	Does the Existence of Private-Label Brands Really Impede National Brands Sales? Empirical Evidence Based on POS Data	2016 International Conference of Asian Marketing Associations	Beijing, China	平成 28 年 10 月

猪狩 良介

発表者名	発表標題	学会名	開催地	発表
334 猪狩良介, 河原達也	購買プロセスにおけるメディアミックス広告効果の推定	日本行動計量学会	東北大学	平成 26 年 9 月

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411034

< 図 書 >

矢田 勝俊

	著者名	書名	出版者	発行年	総ページ数
335	矢田 勝俊(分 担執筆)	岩波データサイ エンス vol.4	岩波書店	平成 28 年	144

岸谷 和広

	著者名	書名	出版者	発行年	総ページ数
336	岸谷和広(6章 担当) 編著 石井淳蔵 廣田章光 坂田隆文	1からのマーケテ ィングデザイン	中央経済社	平成 28 年	240

高井 啓二

	著者名	書名	出版者	発行年	総ページ数
337	高井啓二, 星野崇宏, 野間久史(著) 星野崇宏, 岡田謙介(編)	欠測データの統 計科学	岩波書店	平成 28 年	240

里村 卓也

	著者名	書名	出版者	発行年	総ページ数
338	里村卓也	マーケティング・ モデル 第2版	共立出版	平成 27 年	188
339	里村卓也	マーケティング・ データ分析の基 礎	共立出版	平成 26 年	183

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411034

岡田 謙介

	著者名	書名	出版者	発行年	総ページ数
340	高井啓二,星野 崇宏,野間久史 (著)星野崇宏, 岡田謙介(編)	欠測データの統 計科学	岩波書店	平成 28 年	231
341	永野裕之(著) 岡田謙介(監 修)	統計学のための 数学教室	ダイヤモンド社	平成 27 年	400

塩地 洋

	著者名	書名	出版者	発行年	総ページ数
342	塩地洋, 中山健一郎	委託生産・開発 のマネジメント	中央経済社	平成 28 年	266

鷲尾 隆

	著者名	書名	出版者	発行年	総ページ数
343	James Bailey, Latifur Khan, Takashi Washio, Gillian Dobbie, Joshua Zhexue Huang, Ruili Wang	Advances in Knowledge Discovery and Data Mining, vol 9652	Springer	平成 28 年	572

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411034

清水 昌平

著者名	書名	出版者	発行年	総ページ数
344 清水昌平 (共著: 鈴木譲, 植野真臣, 黒木学, 清水昌平, 湊真一, 石嶋正和, 樺島祥介, 田中和之, 本村陽一, 玉田嘉紀)	確率的グラフィカルモデル	共立出版	平成 28 年	292

2.PD の研究発表状況

< 雑誌論文 >

石橋 健(PD)

著者名	論文表題	雑誌名(巻)	ページ	発行年	査読
345 Ken Ishibashi, Kei Miyazaki, Katsutoshi Yada	Verification of effect on next purchase when many vice category products are brought	Procedia Computer Science	1780-1787	平成 27 年	有
346 石橋健, 古田均, 野村泰稔, 中津功一朗, 高橋亨輔	セルオートマトン PSO を用いた多重モード解析による構造物の信頼性解析	材料(64)	190-195	平成 27 年	有
347 石橋健, 古田均, 野村泰稔, 中津功一朗, 高橋亨輔	粒子の自律性と相互作用に基づくセルオートマトン PSO の提案	情報処理学会論文誌(55)	1378-1388	平成 26 年	有

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411034

金子 雄太(PD)

	著者名	論文表題	雑誌名(巻)	ページ	発行年	査読
348	<u>Zhen Li,</u> <u>Ken Ishibashi,</u> <u>Yuta Kaneko,</u> <u>Kei Miyazaki,</u> <u>Hiroshi Shioji,</u> <u>Katsutoshi</u> <u>Yada</u>	Vehicle Ownership and Economic Development	Proc. of the 3rd Asia-Pacific World Congress on Computer Science and Engineering 2016	171-180	平成 28 年	有
349	<u>Yuta Kaneko,</u> <u>Katsutoshi</u> <u>Yada</u>	A Deep Learning Approach for the Prediction of Retail Store Sales	Proc. of the 2016 IEEE 16th International Conference on Data Mining Workshops	531-537	平成 28 年	有
350	<u>Yuta Kaneko,</u> <u>Katsutoshi</u> <u>Yada</u>	Fractal Dimension of Shopping Path: Influence on Purchase Behavior in a Supermarket	Procedia Computer Science, vol.96	1764-1771	平成 28 年	有
* 351	<u>Yuta Kaneko</u>	Fractal analysis of a grocery store shopping path	Proceedings of 2015 2nd Asia-Pacific World Congress on Computer Science and Engineering (APWC on CSE 2015),	1-7	平成 27 年	有
352	<u>Yuta Kaneko,</u> <u>Katsutoshi</u> <u>Yada</u>	Visualization System for Shopping Path	Proc. of the 19th International Conference on Knowledge-Based and Intelligent Information & Engineering Systems	—	平成 27 年	有

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411034

李 振 (PD)

	著者名	論文表題	雑誌名(巻)	ページ	発行年	査読
353	<u>Zhen Li</u> , Lin Huang, Chao Fan	Does Increasing Volume of Online Reviews Really Help Sales? An In-depth Analysis Based on Web Crawling	Proc. of 38th ISMS Marketing Science Conference	1-15	平成 28 年	有
354	<u>Zhen Li</u> , <u>Katsutoshi</u> <u>Yada</u>	Complementary Relationship between Private Brands and National Brands: Empirical Evidence Based on POS Data	Proc. of 38th ISMS Marketing Science Conference	31-43	平成 28 年	有
355	<u>Zhen Li</u> , Ken Ishibashi, <u>Keiji Takai</u> , <u>Katsutoshi</u> <u>Yada</u>	Shop Area Visit Ratio, Stay Time, and Sales Outcomes: In-depth Analysis Based on RFID Data	Proc. of 2nd Asia-Pacific World Congress on Computer Science and Engineering	1-7	平成 27 年	有
* 356	<u>Zhen Li</u> , <u>Katsutoshi</u> <u>Yada</u>	Why Do Retailers End Price Promotions: A Study on Duration and Profit Effects of Promotion	Proc. of IEEE 15th International Conference on Data Mining Workshops	328-335	平成 27 年	有

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411034

<学会発表>

石橋 健(PD)

発表者名	発表標題	学会名	開催地	発表
357 <u>Ken Ishibashi, Kei Miyazaki, Katsutoshi Yada</u>	Verification of effect on next purchase when many vice category products are brought	19th International Conference on Knowledge-Based and Intelligent Information & Engineering Systems - KES 2015	Marina Bay Sands Hotel, Singapore	平成 27 年 9 月

金子 雄太(PD)

発表者名	発表標題	学会名	開催地	発表
358 <u>Yuta Kaneko, Katsutoshi Yada</u>	A Deep Learning Approach for the Prediction of Retail Store Sales	2016 IEEE 16th International Conference on Data Mining Workshops	World Trade Center Barcelona, Spain	平成 28 年 12 月
359 <u>Zhen Li, Ken Ishibashi, Yuta Kaneko, Kei Miyazaki, Hiromi Shioji, Katsutoshi Yada</u>	Vehicle Ownership and Economic Development	3rd Asia-Pacific World Congress on Computer Science and Engineering 2016	Sofitel Fiji Resort & Spa, Denarau Island, Fiji	平成 28 年 12 月
360 <u>Yuta Kaneko, Katsutoshi Yada</u>	Fractal Dimension of Shopping Path: Influence on Purchase Behavior in a Supermarket	20th International Conference on Knowledge-Based and Intelligent Information & Engineering Systems, KES2016	York, United Kingdom	平成 28 年 9 月
361 <u>Yuta Kaneko, Katsutoshi Yada</u>	Visualization System for Shopping Path	19th International Conference on Knowledge Based and Intelligent Information and Engineering Systems - KES 2015	Marina Bay Sands, Singapore	平成 27 年 9 月

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411034

李 振 (PD)

	発表者名	発表標題	学会名	開催地	発表
362	<u>Zhen Li,</u> <u>Katsutoshi</u> <u>Yada</u>	Complementary Relationship between Private Brands and National Brands: Empirical Evidence Based on POS Data	38th ISMS Marketing Science Conference 38th ISMS Marketing Science Conference	Shanghai, China	平成 28 年 6 月
363	<u>Zhen Li,</u> Lin Huang, Chao Fan	Does Increasing Volume of Online Reviews Really Help Sales? An In-depth Analysis Based on Web Crawling	38th ISMS Marketing Science Conference 38th ISMS Marketing Science Conference	Shanghai, China	平成 28 年 6 月
364	<u>Zhen Li,</u> Ken Ishibashi, <u>Keiji Takai,</u> <u>Katsutoshi</u> <u>Yada</u>	Shop Area Visit Ratio, Stay Time, and Sales Outcomes: In-depth Analysis Based on RFID Data	2nd Asia-Pacific World Congress on Computer Science and Engineering	Fiji	平成 27 年 12 月
365	<u>Zhen Li,</u> <u>Katsutoshi</u> <u>Yada</u>	Why Do Retailers End Price Promotions: A Study on Duration and Profit Effects of Promotion	15th International Conference on Data Mining Workshops - DMS 2015	Atlantic City, USA	平成 27 年 11 月
366	<u>Zhen Li,</u> <u>Katsutoshi</u> <u>Yada</u>	Why Do Retailers End Price Promotions: A Study on Duration and Profit Effects of Promotion	2015 IEEE International Workshop on Data Mining for Service	Atlantic City, NJ, USA	平成 27 年 11 月

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411034

発表者名	発表標題	学会名	開催地	発表
367 <u>Zhen Li</u>	A Study on the Simultaneous Relationship Between Sales Volume and Customer Reviews in China's B2C Online Markets	2nd International Conference of Asian Marketing Associations	Waseda University, Tokyo	平成 27 年 10 月

<研究成果の公開状況>(上記以外)

シンポジウム・学会等の実施状況、インターネットでの公開状況等ホームページで公開している場合には、URL を記載してください。

<既に実施しているもの>【別紙資料 P14~18、P26~31】

■平成 26 年度

●国際会議招待セッション

日程	平成 26 年 9 月 15 日-17 日
テーマ	Invited Session on “Data Science for Big Data” in KES2014
会場	Pomeranian Science and Technology Park in Gdynia, Poland
WEB サイト	http://www2.ipcku.kansai-u.ac.jp/~yada/conf/kes14/

日程	平成 26 年 10 月 5 日-8 日
テーマ	Special Session on “Data Science for Big Data” in IEEE SMC 2014
会場	Paradise Point Resort & Spa, San Diego, CA, USA
WEB サイト	http://www2.ipcku.kansai-u.ac.jp/~yada/conf/smc14/

●国際ワークショップ

日程	平成 26 年 12 月 14 日
テーマ	IEEE International Workshop on Data Mining for Service in ICDM2014
会場	InterContinental Hotel Shenzhen, Shenzhen, China
WEB サイト	http://www2.ipcku.kansai-u.ac.jp/~yada/conf/dms14/

日程	平成 27 年 3 月 14 日、17 日
テーマ	1st Data Science International Workshop on Data Science in Business
会場	関西大学東京センター (14 日)、千里山キャンパス (17 日)、日本
WEB サイト	http://www2.kansai-u.ac.jp/dslab/dslws2015.html

■平成 27 年度

●国際会議招待セッション

日程	平成 27 年 9 月 7 日-9 日
テーマ	Invited Session on “Data Science for Big Data” in KES2015
会場	Marina Bay Sands Expo & Convention Centre, Singapore
WEB サイト	http://www2.ipcku.kansai-u.ac.jp/~yada/conf/kes15/

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411034

●国際ワークショップ

日程	平成 27 年 6 月 30 日、7 月 4 日
テーマ	Data Science Workshop: "Frontiers of Digital Marketing"
会場	関西大学東京センター (30 日)、千里山キャンパス (4 日)、日本
WEB サイト	http://www2.kansai-u.ac.jp/dslab/notice/dsws201506presentation.html

日程	平成 27 年 11 月 14 日
テーマ	IEEE International Workshop on Data Mining for Service in ICDM2015
会場	Bally's Atlantic City Hotel, Atlantic City, NJ, USA
WEB サイト	http://www2.ipcku.kansai-u.ac.jp/~yada/conf/dms15/

日程	平成 28 年 3 月 15 日
テーマ	2nd Data Science International Workshop on Data Science in Business
会場	関西大学うめきたラボラトリ、大阪府、日本
WEB サイト	http://www2.kansai-u.ac.jp/dslab/workshop/2016/dsws2016/report.html

■平成 28 年度

●国際会議招待セッション

日程	平成 28 年 9 月 5 日-7 日
テーマ	Invited Session on "Data Science for Big Data" in KES2016
会場	Park Inn by Radisson, City Centre, York, UK
WEB サイト	http://www2.kansai-u.ac.jp/dslab/workshop/2016/KES2016/index.html

日程	平成 28 年 10 月 9 日-12 日
テーマ	Special Session on "Information Systems for Design and Marketing" in IEEE SMC 2016
会場	Intercontinental Budapest, Budapest, Hungary
WEB サイト	http://www2.kansai-u.ac.jp/dslab/category/workshop/conf/SMC2016/

●国際ワークショップ

日程	平成 28 年 10 月 29 日
テーマ	The 2nd International Workshop on Innovative Algorithms for Big Data
会場	関西大学梅田キャンパス、大阪府、日本
WEB サイト	http://www2.kansai-u.ac.jp/dslab/workshop/2016/crest-dsws2016/index.html

日程	平成 28 年 12 月 12 日
テーマ	IEEE International Workshop on Data Mining for Service in ICDM2016
会場	World Trade Center, Barcelona, Spain
WEB サイト	http://www2.kansai-u.ac.jp/dslab/workshop/2016/ICDM2016/index.html

日程	平成 29 年 3 月 6 日
テーマ	3rd Data Science International Workshop on Data Science in Business
会場	関西大学千里山キャンパス、大阪府、日本
WEB サイト	http://www2.kansai-u.ac.jp/dslab/workshop/2017/dsws2017/index.html

■本研究プロジェクトの研究成果等により依頼を受けた招待講演等

- K. Yada, "Human Behavior and Marketing", Keynote Session, The 2nd IEEE Asia-Pacific World Congress on Computer Science and Engineering 2015, Nadi, Fiji. (27/12/3)

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411034

- 矢田勝俊：「統計データ利活用に関する有識者会議」構成員、総務省主催・統計データ利活用に関する有識者会議、和歌山。(28/5/27)
- K. Yada, “Data Mining for Marketing in Real World”, Keynote Session, The 3rd Multidisciplinary International Social Networks Conference, New York, NJ, USA. (28/8/16)
- K. Yada, Conference General Chair, The 3rd IEEE Asia-Pacific World Congress on Computer Science and Engineering 2016, Denarau Island, Fiji. (28/12/4-6)
- 矢田勝俊：「データ利活用の魅力と落とし穴」、基調講演、ジャストシステム主催セミナー「データ活用で企業競争力を強化する」、大阪。(29/3/1)

＜これから実施する予定のもの＞

■インターネットでの公開状況

いずれの情報もホームページ (<http://www2.kansai-u.ac.jp/dslab/index.html>) にて公開している。

14 その他の研究成果等

「12 研究発表の状況」で記述した論文、学会発表等以外の研究成果及び企業との連携実績があれば具体的に記入してください。また、上記11(4)に記載した研究成果に対応するものには*を付してください。

14-1. メディアにおける紹介実績

本研究プロジェクトを取り上げた紹介記事

本研究プロジェクトのビジネス分野へのデータサイエンスの応用について紹介した記事。

- 「店舗における購買行動の可視化で購買意欲を向上させる店舗戦略を実現」、読売新聞、27/11/28。【別紙資料 P23】
- 「消費者の購入意欲をごく自然な形で促し、従来ほど景気に左右されることなく売上高を安定化する」、『ビジネス情報記事「デジタル 365」第4回』、Microsoft 中堅中小規模向けビジネス・IT 支援情報局、29/02/02。【別紙資料 P24～25】

14-2. 企業との連携状況

1) 食品日用雑貨業界における産学連携

食品日用雑貨業界における産学連携を推進するために、本研究プロジェクトでは様々な取組みを実施している。例えば、FSP (Frequent Shoppers Program) 研究会【*159】は顧客の購買履歴データを活用し販売促進と売上活性化の仕組みを構築するための研究会である。国内の大手流通企業とほとんどのメーカーのマーケティング担当者が参加しており、本研究プロジェクトが多くの企業の関心を集めていることがわかる。

2) その他の産学連携

その他にはプラスチック製造などの企業との共同研究のための研究打合せを重ねており、データ共有、企画立案の内容など詳細を検討中である。

15 「選定時」に付された留意事項とそれへの対応

＜「選定時」に付された留意事項＞

該当なし

＜「選定時」に付された留意事項への対応＞

該当なし

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411034

16 施設・装置・設備・研究費の支出状況(実績概要)

(千円)

年度・区分	支出額	内 訳						備考
		法人負担	私学助成	共同研究機関負担	受託研究等	寄付金	その他(科研費)	
平成26年度	施設	0						
	装置	0						
	設備	11,000	5,500	5,500				
	研究費	60,133	20,554	17,908		4,533	17,138	民間企業、財団法人等
平成27年度	施設	0						
	装置	0						
	設備	0						
	研究費	55,334	28,096	16,694		3,134	7,410	民間企業、財団法人等
平成28年度	施設	0						
	装置	0						
	設備	0						
	研究費	61,437	27,598	16,429		2,200	15,210	民間企業
総額	施設	0	0	0	0	0	0	
	装置	0	0	0	0	0	0	
	設備	11,000	5,500	5,500	0	0	0	
	研究費	176,904	76,248	51,031	0	9,867	39,758	
総計	187,904	81,748	56,531	0	9,867	39,758		

※平成28年度は予定額

17 施設・装置・設備の整備状況(私学助成を受けたものはすべて記載してください。)

《施設》(私学助成を受けていないものも含め、使用している施設をすべて記載してください。)(千円)

施設の名 称	整備年度	研究施設面積	研究室等数	使用者数	事業経費	補助金額	補助主体
経済・政治研究所 「ソシオネットワーク 戦略研究センター」 (改造工事)	14年度	1,509㎡	31室	35	241,992千円	120,235千円	私学助成

※ 私学助成による補助事業として行った新增築により、整備前と比較して増加した面積

0 m²

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411034

《装置・設備》(私学助成を受けていないものは、主なもののみを記載してください。)

(千円)

装置・設備の名称	整備年度	型番	台数	稼働時間数	事業経費	補助金額	補助主体
(研究装置) 該当なし				h h h h			
(研究設備) 該当なし				h h h h			
(情報処理関係設備) 多次元・時系列データ サイエンスクラウド システム	平成26年度	G6X03A 747090-291 SSG-140-SH他	1式	19,920	h h h h h	11,000	5,500 私学助成

18 研究費の支出状況

(千円)

年 度	平成 26 年度		
小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳	
		主 な 使 途	金 額
教 育 研 究 経 費 支 出			
消 耗 品 費	7,203	消耗品等	7,203
光 熱 水 費	0		0
通 信 運 搬 費	28	郵券等	28
印 刷 製 本 費	68	印刷費	68
旅 費 交 通 費	9,970	一般出張旅費等	9,970
賃 借 料	144	賃借料	144
報 酬 ・ 委 託 料	10,242	情報機器関係業務委託等	10,242
(雑 費)	477	雑費	477
(そ の 他)	315	会議会合費等	315
計	28,447		28,447
ア ル バ イ ト 関 係 支 出			
人 件 費 支 出 (兼 務 職 員)	871	事務補助	871
教育研究経費支出			
計	871		871
設 備 関 係 支 出 (1個又は1組の価格が500万円未満のもの)			
教育研究用機器備品	4,811	器具備品	4,811
図 書			
計	4,811		4,811
研 究 ス タ ッ プ 関 係 支 出			
リサーチ・アシスタント			学内0人、学外0人、外国0人
ポスト・ドクター	4,333	研究支援	4,333
研究支援推進経費			学内2人、学外0人、外国0人、学振0人
計	4,333		4,333
			学内0人、学外0人、外国0人
			学内2人、学外0人、外国0人、学振0人

		法人番号		271014
		プロジェクト番号		S1411034
年 度	平成 27 年度			
小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳		
		主 な 使 途	金 額	主 な 内 容
教 育 研 究 経 費 支 出				
消 耗 品 費	2,750	消耗品等	2,750	消耗品(777)、ソフトウェア(500)、消耗器具等(1,473)
光 熱 水 費	0		0	
通 信 運 搬 費	88	郵券等	88	郵券(52)、支払運搬費(36)
印 刷 製 本 費	15	印刷費	15	印刷費(15)
旅 費 交 通 費	15,702	一般出張旅費等	15,702	一般出張旅費(14,684)、交通費(1,018)
賃 借 料	193	賃借料	193	クラウドサービス利用料(193)
報 酬・委 託 料	10,031	情報機器関係業務委託等	10,031	情報機器関係業務委託(1,301)、人材派遣等(8,730)
(雑 費)	794	雑費	794	その他の雑費(794)
(その他)	54	会議会合費	54	会議会合費(54)
計	29,627		29,627	
ア ル パ イ ト 関 係 支 出				
人 件 費 支 出 (兼 務 職 員)	1,173	事務補助	1,173	時給 900円, 年間時間数 1,222時間 実人数 2人 超勤等あり
教 育 研 究 経 費 支 出 計	1,173		1,173	
設 備 関 係 支 出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの)				
教 育 研 究 用 機 器 備 品 図 書	346	器具備品	346	ノートパソコン(346)
計	346		346	
研 究 ス タ ッ フ 関 係 支 出				
リサーチ・アシスタント				学内0人、学外0人、外国0人
ポスト・ドクター	13,644	研究支援	13,644	学内3人、学外0人、外国0人、学振0人
研究支援推進経費				学内0人、学外0人、外国0人
計	13,644		13,644	学内3人、学外0人、外国0人、学振0人
年 度	平成 28 年度			
小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳		
		主 な 使 途	金 額	主 な 内 容
教 育 研 究 経 費 支 出				
消 耗 品 費	5,954	消耗品等	5,954	消耗品(1,060)、ソフトウェア(1,006)、消耗器具等(3,888)
光 熱 水 費	0		0	
通 信 運 搬 費	35	郵券等	35	郵券(19)、支払運搬費(16)
印 刷 製 本 費	0		0	
旅 費 交 通 費	15,127	一般出張旅費等	15,127	一般出張旅費(13,377)、交通費(1,750)
賃 借 料	268	賃借料	268	クラウドサービス利用料(193)、会議室利用料(75)
報 酬・委 託 料	8,888	情報機器関係業務委託等	8,888	情報機器関係業務委託(1,473)、人材派遣等(7,415)
(雑 費)	863	雑費	863	その他の雑費(863)
(その他)	272	会議会合費等	272	会議会合費(132)、設備修繕費等(140)
計	31,407		31,407	
ア ル パ イ ト 関 係 支 出				
人 件 費 支 出 (兼 務 職 員)	2,054	事務補助	2,054	時給 900円, 年間時間数 2,216時間 実人数 4人 超勤等あり
教 育 研 究 経 費 支 出 計	2,054		2,054	
設 備 関 係 支 出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの)				
教 育 研 究 用 機 器 備 品 図 書	649	器具備品	649	ノートパソコン(408)、プリンタ(241)
計	649		649	
研 究 ス タ ッ フ 関 係 支 出				
リサーチ・アシスタント				学内0人、学外0人、外国0人
ポスト・ドクター	9,917	研究支援	9,917	学内3人、学外0人、外国0人、学振0人
研究支援推進経費				学内0人、学外0人、外国0人
計	9,917		9,917	学内3人、学外0人、外国0人、学振0人

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411034

学校法人名	学校法人関西大学	大学名	関西大学
研究プロジェクト名	ビジネスにおけるデータサイエンスの深化を目指す総合的研究拠点の形成		

平成26年度選定「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」
研究進捗状況報告書

別紙資料

目 次

1. 関西大学データサイエンス研究センター運営内規	p.1
2. データサイエンス研究センター外部評価委員会による評価結果	p.4
3. 国際学術雑誌 特集号 I	p.11
4. 国際学術雑誌 特集号 II	p.12
5. 国際ワークショップ	p.14
6. 国際会議 KES2015 からの謝辞	p.19
7. 国際会議 ICDM2015 からの贈賞	p.20
8. 国際会議 APWC on CSE 2015 ベストペーパー賞	p.21
9. 国際会議 ICAMA in Beijing 2016 ベストペーパー賞	p.22
10. メディアにおける紹介実績 I	p.23
11. メディアにおける紹介実績 II	p.24
12. 研究会の開催状況	p.26
13. 海外での情報発信状況	p.31

関西大学データサイエンス研究センター運営内規

制定 平成26年7月28日

(趣 旨)

第1条 この内規は、関西大学ソシオネットワーク戦略研究機構（以下「研究機構」という。）規程第4条の規定に基づき、平成26年度文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業の選定を受けた研究組織であるデータサイエンス研究センター（以下「センター」という。）の運営に関して必要な事項を定める。

2 データサイエンス研究センターの英文表記は、Data Science Laboratoryとする。

(目 的)

第2条 センターは、多様なビジネス分野にデータサイエンスの様々な技術を応用し、基礎技術・アプリケーションの開発、消費者行動のモデル開発、実践による検証というデータサイエンスプロセスを実現する総合的研究拠点を形成することを目的とする。センターは消費者行動、環境マネジメント、金融・会計などの領域においてビッグデータ解析の産学連携拠点を構築し、卓越した国内外の研究機関との連携のもとで当該分野における世界トップレベルの研究拠点を形成する。

(事 業)

第3条 センターは、前条に規定する目的を達成するために次の事業を行う。

- (1) 共同研究プロジェクトの学術研究及び調査
- (2) 研究調査に必要な資料の収集整理
- (3) 学術研究に関する研究成果の発表
- (4) 研究発表会及び講演会の開催
- (5) その他センターが必要と認める事業

(構 成)

第4条 センターに、次の職員を置く。

- (1) センター長
- (2) 研究員

2 センターに前項のほか必要ある場合は、次に掲げる職員をそれぞれ置くことができる。

- (1) 副センター長
- (2) 特別任用研究員
- (3) ポスト・ドクトラル・フェロー
- (4) リサーチ・アシスタント
- (5) DSラボフェロー
- (6) 非常勤研究員
- (7) 外部評価委員

(センター長及び副センター長)

第5条 センター長はセンターを統括し、代表する。

- 2 センター長は研究プロジェクトの研究代表者とし、研究機構運営委員会の議を経て研究機構長が学長に推薦し、理事長が任命する。
- 3 副センター長は、センター長を補佐し、必要に応じて、その職務を代行する。
- 4 副センター長は、本学専任教育職員の研究員のうちから、センター推進委員会の議を経て選出し、研究機構長が任命する。
- 5 センター長及び副センター長の任期は研究プロジェクトの実施期間とする。

(研究員)

第6条 研究員は、第12条に規定するセンター推進委員会の議を経て研究機構長が学長に推薦し、理事長が任命する。

- 2 研究員の任期は、前条第5項に規定する研究期間とする。

(特別任用研究員、ポスト・ドクトラル・フェロー、リサーチ・アシスタント)

第7条 特別任用研究員、ポスト・ドクトラル・フェロー（以下「PD」という。）及びリサーチ・アシスタント（以下「RA」という。）の任用及びその他の事項は、別に定める。

- 2 センターにPD及びRAをとりまとめるPD長を置くことができる。
- 3 PD長は、PD及びRAのうちから、センター推進委員会の議を経て、センター長が任命する。

(DSラボフェロー)

第8条 DSラボフェローは、大学等の研究機関に所属する研究者又はそれに相当する研究実績を有すると認められる研究者のうちから、センター推進委員会が決定し、研究機構長が委嘱する。

- 2 DSラボフェローの任期は、第5条第5項に定める研究期間とする。

(非常勤研究員)

第9条 非常勤研究員は、前条に規定するDSラボフェロー以外で、センターの研究活動に関連する研究実績を有する研究者のうちから、センター推進委員会が決定し、研究機構長が委嘱する。

- 2 非常勤研究員の任期は、第5条第5項に定める研究期間とする。

(センター外部評価委員)

第10条 センター外部評価委員は、学外の有識者の中から、センター推進委員会の議を経て研究機構長が委嘱する。

- 2 センター外部評価委員は、センターに関する人事、組織、施設・設備、運営の状況等活動全般について評価を行い、評価結果をセンター長に報告する。
- 3 センター外部評価委員の任期は、第5条第5項に定める研究期間とする。

(センター推進委員会)

第11条 センターにセンター推進委員会を置く。

- 2 センター推進委員会は、センター長、本学専任教育職員の研究員、研究機構長または副機構長及び研究機構事務グループ長で構成する。
- 3 委員長は、センター長をもって充てる。
- 4 委員長は、必要に応じて、学外研究員及び学内外学識経験者の出席を求め意見を聴くことができる。

第12条 センター推進委員会は、センター長が招集し、議長となる。

- 2 センター推進委員会は、次の事項を審議決定する。
 - (1) センターの運営に関する事項
 - (2) 第3条各号に掲げる事業に関する事項
 - (3) 研究設備等の運用と管理に関する事項
 - (4) センターの人事に関する事項
 - (5) 特別任用研究員、PD、RAの人事に関する事項
 - (6) センターの自己点検・評価及び外部評価に関する事項
- 3 センター推進委員会は、委員の過半数の出席をもって成立し、議事は出席者の過半数をもって決する。

(センター外部評価委員会)

第13条 センターに外部評価委員会を置く。

- 2 センター外部評価委員会に関し必要な事項については、別に定める。

(事務)

第14条 センターに関する事務は、ソシオネットワーク戦略研究機構事務グループが行う。

(規程の改廃)

第15条 この内規の改廃は、センター推進委員会の議を経て、研究機構運営委員会の承認を得るものとする。

附 則

この内規は、平成26年7月28日から施行し、平成26年7月1日から適用する。

関西大学データサイエンス研究センター
外部評価委員一覧

氏名	役職・選定理由
原 正浩	<p>三菱食品株式会社（旧株式会社菱食） マーケティング本部長兼戦略研究所長</p> <p>日本の食品卸業界を牽引する三菱食品株式会社で、率先してデータマイニングを用いた商品管理を取り入れ、同社 R-プランニング部で部長を務めてきた。実践的経験から、学術的な分野の研究者には無い見識を具備しているため、当プロジェクトの店舗実験やデータマイニングのビジネス応用についての的確な助言、評価が可能である。</p>
元田 浩	<p>米国国防総省空軍科学技術局 アジア宇宙航空研究開発事務所科学顧問</p> <p>これまでに環アジアの知識発見、データマイニング分野の学術会議で数多くの委員を務め、本務の他に大阪大学名誉教授、大阪大学産業科学研究所招へい教授、タスマニア大学計算科学科非常勤教授の職を務める。国際的フィールドで活躍してきた経歴から、世界トップレベルの研究拠点形成において有用な助言と、的確な評価ができる研究者である。</p>
山口 高平	<p>慶應義塾大学理工学部管理工学科教授</p> <p>セマンティック Web、オントロジー、データマイニングが専門で、人工知能学会会長・編集委員長、情報システム学会理事・編集委員長、電子情報通信学会論文査読委員などの要職を歴任している。データサイエンスの深化を目指す世界トップレベルの研究拠点を形成するうえでの的確な助言、評価が可能である。</p>

外部評価チェックシート

私立大学戦略的研究基盤形成支援事業（平成 26 年度～30 年度）

平成 28 年 12 月 26 日

ご氏名： 原 正浩

研究組織名 データサイエンス研究センター

研究プロジェクト名 ビジネスにおけるデータサイエンスの深化を目指す総合的研究拠点の形成

研究代表者

研究代表者名	所 属 部 局 名	職 名
矢田 勝俊	ソシオネットワーク戦略研究機構・商学部	教 授

研究プロジェクトの進捗状況・研究成果等

1. 研究体制について

研究代表者のプロジェクト管理、役割、リーダーシップ

⑤ (特によい) 4 (よい) 3 (普通) 2 (要改善) 1 (特に要改善) 0 (評価保留)

研究員の活動状況

⑤ (特によい) 4 (よい) 3 (普通) 2 (要改善) 1 (特に要改善) 0 (評価保留)

共同研究機関との連携状況

⑤ (特によい) 4 (よい) 3 (普通) 2 (要改善) 1 (特に要改善) 0 (評価保留)

コメント

プロジェクトの管理、運営、リーダーシップは非常に組織的に行われている。活発な共同研究が行われており、素晴らしい研究成果が生まれている。

2. 研究進捗状況について

強みを活かした国際連携

5 (特によい) 4 (よい) 3 (普通) 2 (要改善) 1 (特に要改善) 0 (評価保留)

データマイニング応用に関する文理融合 NOE の構築

5 (特によい) 4 (よい) 3 (普通) 2 (要改善) 1 (特に要改善) 0 (評価保留)

産学連携による実践科学

5 (特によい) 4 (よい) 3 (普通) 2 (要改善) 1 (特に要改善) 0 (評価保留)

コメント

活発な研究活動のもと、国際的な情報発信が行われている。

<現在までの進捗状況及び達成度>

予定より前倒しで計画を達成している。

<問題点とその克服方法>

特になし。

<今後期待される研究成果>

企業との共同研究のさらなる発展を期待する。

外部評価チェックシート

私立大学戦略的研究基盤形成支援事業（平成 26 年度～30 年度）

平成 28 年 12 月 24 日

氏名： 元田 浩

研究組織名 データサイエンス研究センター

研究プロジェクト名 ビジネスにおけるデータサイエンスの深化を目指す総合的研究拠点の形成

研究代表者

研究代表者名	所 属 部 局 名	職 名
矢田 勝俊	ソシオネットワーク戦略研究機構・商学部	教授

研究プロジェクトの進捗状況・研究成果等

1. 研究体制について

研究代表者のプロジェクト管理、役割、リーダーシップ

5 (特によい) 4 (よい) 3 (普通) 2 (要改善) 1 (特に要改善) 0 (評価保留)

研究員の活動状況

5 (特によい) 4 (よい) 3 (普通) 2 (要改善) 1 (特に要改善) 0 (評価保留)

共同研究機関との連携状況

5 (特によい) 4 (よい) 3 (普通) 2 (要改善) 1 (特に要改善) 0 (評価保留)

コメント

3つの応用領域において多くの研究員を効果的に組織している。複数チーム間の共同研究が順調に進んでおり、研究プロジェクトのマネジメントがうまく機能していることが窺える。

2. 研究進捗状況について

強みを活かした国際連携

5 (特によい) 4 (よい) 3 (普通) 2 (要改善) 1 (特に要改善) 0 (評価保留)

データマイニング応用に関する文理融合 NOE の構築

5 (特によい) 4 (よい) 3 (普通) 2 (要改善) 1 (特に要改善) 0 (評価保留)

産学連携による実践科学

5 (特によい) 4 (よい) 3 (普通) 2 (要改善) 1 (特に要改善) 0 (評価保留)

コメント

国際会議を中心とする海外への研究成果の発信が積極的に行われ、顕著な研究成果がみられる。当該研究領域の国際研究ネットワークの中心的存在として学术界、実務界から関心を集めており、今後の展開が期待される。

<現在までの進捗状況及び達成度>

申請予定より早い進捗が見られ、予想以上の成果が出ている。

<問題点とその克服方法>

特になし。

<今後期待される研究成果>

計画調書に従い、着実に進めていくことを期待する。

外部評価チェックシート

私立大学戦略的研究基盤形成支援事業（平成 26 年度～30 年度）

平成 28 年 1 月 4 日

ご氏名： 山口 高平

研究組織名 データサイエンス研究センター

研究プロジェクト名 ビジネスにおけるデータサイエンスの深化を目指す総合的研究拠点の形成

研究代表者

研究代表者名	所 属 部 局 名	職 名
矢田 勝俊	ソシオネットワーク戦略研究機構・商学部	教 授

研究プロジェクトの進捗状況・研究成果等

1. 研究体制について

研究代表者のプロジェクト管理、役割、リーダーシップ

5 (特によい) 4 (よい) 3 (普通) 2 (要改善) 1 (特に要改善) 0 (評価保留)

研究員の活動状況

5 (特によい) 4 (よい) 3 (普通) 2 (要改善) 1 (特に要改善) 0 (評価保留)

共同研究機関との連携状況

5 (特によい) 4 (よい) 3 (普通) 2 (要改善) 1 (特に要改善) 0 (評価保留)

コメント

うまく組織された研究体制をとっていると認められる。顕著な研究成果もあがっており、効果的なマネジメントが行われているものと推察される。

2. 研究進捗状況について

強みを活かした国際連携

5 (特によい) 4 (よい) 3 (普通) 2 (要改善) 1 (特に要改善) 0 (評価保留)

データマイニング応用に関する文理融合 NOE の構築

5 (特によい) 4 (よい) 3 (普通) 2 (要改善) 1 (特に要改善) 0 (評価保留)

産学連携による実践科学

5 (特によい) 4 (よい) 3 (普通) 2 (要改善) 1 (特に要改善) 0 (評価保留)

コメント

着実な進捗が見られる。

<現在までの進捗状況及び達成度>

進捗は順調である。

<問題点とその克服方法>

特になし。

<今後期待される研究成果>

新しい研究領域における体系化に邁進してもらいたい。

LOG IN

For Authors, Editors, Board Members

Username

●●●●●●●●

Remember me



[Forgotten?](#)



- [Home](#)
- [For Authors](#)
- [For Librarians](#)
- [Orders](#)
- [News](#)

Article search

[Home](#) > [International Journal of Knowledge Engineering and Soft Data Paradigms](#) > 2016 Vol. 5 No. 2



[Browse issues](#)

- [Vol. 5](#)
- [Vol. 4](#)
- [Vol. 3](#)
- [Vol. 2](#)
- [Vol. 1](#)

International Journal of Knowledge Engineering and Soft Data Paradigms

2016 Vol. 5 No. 2

Special Issue on Data Mining and Service Science for Innovation

Guest Editor: Professor Katsutoshi Yada



Pages	Title and authors
68-84	Identifying behaviour objective from traffic behaviour log data by using facility ontology Yu Sugawara; Takeshi Morita; Hidenao Abe; Shuichi Matsumoto; Takahira Yamaguchi DOI: 10.1504/IJKESDP.2016.075975
85-105	Prediction of consumer purchase behaviour using Bayesian network: an operational improvement and new results based on RFID data Yi Zuo DOI: 10.1504/IJKESDP.2016.075976
106-122	Assessment of basic clustering techniques using teaching-learning-based optimisation Bikram Keshari Mishra; Nihar Ranjan Nayak; Amiya Kumar Rath DOI: 10.1504/IJKESDP.2016.075977
123-134	Using mixed integer optimisation to select variables for a store choice model Toshiki Sato; Yuichi Takano; Takanobu Nakahara DOI: 10.1504/IJKESDP.2016.075980
135-145	Estimation of customer behaviour in sales areas in a supermarket using a hidden Markov model Natsuki Sano DOI: 10.1504/IJKESDP.2016.075981
146-160	A two-nation experiment to investigate the relationships among national culture, individual-level cultural variables and consumer attitudes toward advertising websites and the brand Kazuhiro Kishiya; Gordon E. Miracle DOI: 10.1504/IJKESDP.2016.075984

- [Sign up for new issue alerts](#)
- [Subscribe/buy articles/issues](#)
- [View sample issue](#)
- [Latest issue contents](#)
- [Forthcoming articles](#)
- [Journal information in easy print format \(PDF\)](#)

- [Publishing with Inderscience: ethical guidelines \(pdf\)](#)
- [View all calls for papers](#)
- [Recommend to a librarian](#)
- [Feedback to Editor](#)

- [Find related journals](#)
- [Find articles and other searches](#)

Keep up-to-date

- [Our Blog](#)
- [Follow us on Twitter](#)
- [Visit us on Facebook](#)
- [Join us on Google+](#)
- [Our Newsletter \(subscribe for free\)](#)
- [RSS Feeds](#)
- [New issue alerts](#)



LOG IN

For Authors, Editors, Board Members

Username

●●●●●●



Remember me

[Forgotten?](#)



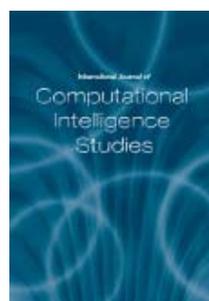
- [Home](#)
- [For Authors](#)
- [For Librarians](#)
- [Orders](#)
- [News](#)

Article search

Go

[For authors](#) > [Calls for papers](#) > [Special issue](#)

Call for papers



Int. J. of Computational Intelligence Studies

Special Issue on: "Data Science for Big Data"

Guest Editor:

Prof. Katsutoshi Yada, Kansai University, Japan

In recent years, due to the dramatic spread and progress of sensor networks, cloud computing and social services, varied and enormous quantities of data are being produced and accumulated on networks. Using big data, which is an aggregate of this varied and large quantity of data, and making innovative services and business models has gained a lot of interest from researchers and practitioners around the world. This big data involves numerous technological problems that should be resolved urgently.

Data science is a generic name for the theory of methods and technology for extracting useful knowledge from data, and is an interdisciplinary research field covering numerous fields such as statistics, computer science and machine learning. This study is considered to be an important key in unlocking value from big data. Applications of data science cover a wide range of fields from business and medicine through to agriculture and government, where real world practitioners have great expectations.

This special issue will focus on the methods, technologies and theories, as well as their applications, relating to data science that uses the value from big data. The issue aims to investigate how various approaches to data science obtain value from big data and whether new services can be developed. We expect submitted papers to stimulate new models, approaches and examples of applications, etc. in data science using big data.

Subject Coverage

Suitable topics include, but are not limited to, the following:



Techniques

For Authors

- [Registered authors: log in above](#)
- [Online submissions: new author registrati](#)
- [Preparing articles](#)
- [Submitting articles](#)
- [Copyright and author entitlement](#)
- [View all calls for papers](#)
- [Conferences/Events](#)

Keep up-to-date

- [Our Blog](#)
- [Follow us on Twitter](#)
- [Visit us on Facebook](#)
- [Join us on Google+](#)
- [Our Newsletter \(subscribe for free\)](#)
- [RSS Feeds](#)
- [New issue alerts](#)



- [Cloud/grid computing](#)
- [High-performance computing](#)
- [Machine learning](#)
- [Text and semi-structured data mining](#)
- [Knowledge representation](#)
- [Statistics and probability](#)
- [Service ontologies and modelling](#)
- [Applications](#)
 - [Engineering](#)
 - [Management](#)
 - [Marketing](#)
 - [Operations processes](#)
 - [Accounting and finance](#)
 - [Medicine and nursing care](#)
 - [Public administration](#)

[Contact us](#) | [About Inderscience](#) | [OAI Repository](#) | [Privacy and Cookies Statement](#) | [Terms and Conditions](#) | © 2017 Inderscience Enterprises Ltd.

Notes for Prospective Authors

Submitted papers should not have been previously published nor be currently under consideration for publication elsewhere. (N.B. Conference papers may only be submitted if the paper has been completely re-written and if appropriate written permissions have been obtained from any copyright holders of the original paper).

All papers are refereed through a peer review process.

All papers *must* be submitted online. To submit a paper, please read our [Submitting articles](#) page.

Important Dates

Submission of manuscripts: *14 September, 2015*

Notification to authors: *16 November, 2015*

Final versions due: *18 January, 2016*



DS ラボ国際ワークショップ 2015
 “Data Science in Business”

開催日：平成 27 年 3 月 14 日、17 日

場所：関西大学 14 日：東京センター、17 日：千里山キャンパス

第1回 DSラボ
 国際ワークショップ報告

DATA SCIENCE LABORATORY
 INTERNATIONAL WORKSHOP



所属	講演者	演題
The LifeCycle Group CyVi, University of Bordeaux (France)	Professor Guido Sonnemann	Life Cycle Assessment - LCA: What it is, why it needs big data and what are the possibilities of integrating LCA data with MFCA analysis
Oxford Institute of Retail Management, University of Oxford (United Kingdom)	Academic Director Jonathan Reynolds	Big data in UK retailing: issues and applications
HKUST Business School, Hong Kong University of Science and Technology (Hong Kong)	Associate Professor Yasutora Watanabe	Recommending (Un) popular Products: A Field Experiment Using Vending Machines
Yale School of Management, Yale University (USA)	Assistant Professor Kosuke Uetake	Signaling in Online Credit Markets
School of Management, University of Stirling (USA)	Dr. Colin Dey	Towards Integration: Progress and Prospects in Sustainability Reporting
Accounting and Finance, The University of Auckland (New Zealand)	Mr. David T. Y. Lau	The effect of audit quality on management earnings forecasts: Evidence from Japan

【Prof. Guido Sonnemann & Prof. Jonathan Reynolds】



【Assistant Prof. Kosuke Uetake & Dr. Colin Dey & Mr. David T. Y. Lau】



データサイエンス・ワークショップ 2015
 “Data Science Workshop : “Frontiers of Digital Marketing” ”
 開催日：平成 27 年 6 月 30 日、7 月 4 日
 場所：関西大学 6 月 30 日：東京センター、7 月 4 日：千里山キャンパス



【発表】

Prof. Jie Zhang

How Bad is Shopping Cart Abandonment? An Investigation across Multiple Shopping Sessions

Prof. Michel Wedel

Short-Term Effects of Online Advertising on Brand Search

Data Science Laboratory Member

Eye-tracking Research Program in DS Lab

【発表の様子 6 月 30 日 関西大学 東京センター】

【会場の様子】



【Prof. Jie Zhang & Prof. Michel Wedel】



【発表の様子 7 月 4 日 関西大学 千里山キャンパス】

【開会の挨拶】



【Prof. Michel Wedel & Jie Zhang】



【Eye-tracking Research Program in DS Lab】



DS ラボ国際ワークショップ 2016
“Data Science in Business”
開催日：平成 28 年 3 月 15 日
場所：うめきたラボ、グランフロント大阪



【招待講演】

Prof. Jay Junghun Lee

The Impact of International Takeover Laws on Corporate Resource Adjustments: Evidence from the Asymmetric Behavior of Selling, General, and Administrative Costs

Prof. C.L Philip Chen

Big Data challenges, techniques, and applications and how Deep Learning can be used

Prof. Latchezar Hristov

Innovation in Retailing; exploring meaning, practice and measurement through multiple case study analysis

【共同研究】

Accounting & Information team, Date Science Laboratory

Model selection for financial statement analysis

Distribution and Marketing & Information team, Date Science Laboratory

The Relationship between Automobile Density and GDP in Each Country

【発表の様子】



【Prof. Jay junghun Lee & Prof. C.L Philip Chen & Prof. Latchezar Hristov】



【Accounting & Information team】



【Distribution and Marketing & Information team】



JST-CREST と DS ラボ IABD2016

“Foundations of Innovative Algorithms for Big Data (IABD) 2016”

開催日：平成 28 年 10 月 29 日

場所：関西大学 梅田キャンパス



【会場の様子】



DS ラボ国際ワークショップ2017

開催日：平成29年3月6日

場所：関西大学 千里山キャンパス

3rd International Workshop
on Data Science in Business

About Speakers Program Profiles Register Access Contact

3rd International Workshop on Data Science in Business

06 MAR 2017
KANSAI UNIVERSITY, OSAKA, JAPAN



Introduction

We are pleased to invite participants to the 3rd International workshop on Data Science in Business.

The workshop is organised by Kansai University's Data Science Laboratory and will be held in Osaka on 06 March, 2017 from 10:00am to 5:00pm.

This workshop will consist of invited talks and presentations on current issues in accounting and data mining techniques for Big Data, the applications of data mining in service science, and related areas. It will provide excellent opportunities for the presentation and discussion of interesting new research results, leading to knowledge transfer and the generation of new ideas.

Participation in the workshop is free of charge. However due to limited seating, we ask that all participants officially register here before February 24, 2017.

[Register Now](#)



Organisers

Prof. Katsutoshi Yada

DS Lab Director
Kansai University

Prof. Shota Otomasa

DS Lab, Accounting Team
Kansai University

Prof. Takuya Iwasaki

DS Lab, Accounting Team
Kansai University

Invited Speakers



Prof. Steven Cahan
University of Auckland



Dr. David Lau
University of Auckland



Assoc. Prof. Wang Hao
Institute of Software, Chinese Academy of Sciences



Dr. Weiming Shen
University of Western Ontario

21/09/2015

**19th International Conference on
Knowledge-Based and Intelligent Information &
Engineering Systems
7th-9th September 2015, Singapore**

Dear Katsutoshi,

Re:

**IS11: Meta-Heuristics Optimization For Real World Applications In Engineering And
Technology**

IS12: Data Science for Big Data

On behalf of KES International, we would like to say how very grateful we are for the very significant contribution you made to the Knowledge-Based and Intelligent Information & Engineering Systems conference 2015 by organising & chairing an Invited Session.

We acknowledge that this requires a considerable amount of work and the possession of skills of leadership, organisation and wise guidance.

On behalf of everyone involved with the conference and KES International, I would like to thank you for this.

We thank you for your involvement with KES International and hope you will continue to give us your support.

Yours sincerely,



Professor R J Howlett
Executive Chair, KES International

From: Peng Cui [mailto:cuipeng@sem.ac.cn]
Sent: Friday, September 25, 2015 10:52 PM
To: tsumoto <tsumoto@sem.ac.cn> ; 'Katsutoshi Yada' <katsutoshi.yada@sem.ac.cn>
Cc: 'Liu ChuanRen' <liuchuanren@sem.ac.cn> ; 'Hui Xiong' <hui_xiong@sem.ac.cn>
<hui_xiong@sem.ac.cn> ; 'Xindong Wu' <xindongwu@sem.ac.cn>
Subject: ICDM 2015 Complementary Registration Awarded

Dear Dr. Tsumoto and Dr. Yada,

Thanks for your efforts in the workshop organization.

According to the ICDM policy: A workshop might get a complimentary conference registration for a main organizer who is not a presenting if the workshop has attracted a good number of registered authors. This good number is defined each year by the Conference Co-Chairs, the Workshops Chair and the Steering Committee Chair.

In this year, we plan to award two workshops among about 30 workshops. Congratulations that your workshop is selected, which means that one of you organizers can get a complementary registration.

Please inform Chuanren which of you will take the complementary registration.

Best,

Peng

=====
Peng Cui, PhD.
Assistant Professor
Department of Computer Science, Tsinghua University

Homepage: <<http://media.cs.tsinghua.edu.cn/~multimedia/cuipeng/>>
<http://media.cs.tsinghua.edu.cn/~multimedia/cuipeng/>

=====

2nd Asia-Pacific World Congress on Computer Science & Engineering
(APWC on CSE 2015)

BEST PAPER AWARD

to

Yuta Kaneko

Kansai University, Japan

“Fractal Analysis of a Grocery Store Shopping Path”



The University of Fiji

Technically Co-Sponsored by



i Lab
AUSTRALIA

.....
Professor A B M Shawkat Ali,
Conference General Co-chair
The University of Fiji, Fiji

2016 International Conference of Asian Marketing Associations

ICAMA in Beijing October 21, 2016

Marketing Innovation in Asian Markets: Challenges and Opportunities

Best paper for Japan Award

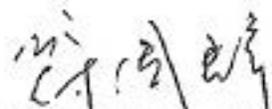
=====
THIS CERTIFICATE IS PRESENTED TO
=====



Zhen Li, Katsutoshi Yada

for the paper entitled:

“Does the Existence of Private-Label Brands Really Impede National Brands Sales? Empirical Evidence Based on POS Data”



China Marketing Association of University



Japan Society of Marketing and Distribution



Korea Marketing Association





店舗における購買行動の可視化で 購買意欲を向上させる店舗戦略を実現

関西大学商学部の矢田勝俊教授が中心的な研究課題としているのは「データマイニング」。ビッグデータから有用な情報や項目間の相関関係などを抽出する技術のこと。例えば、企業が収集した大量の顧客データから、今までは見出せなかった消費動向を把握し、それを購買意欲の向上につなげるなど、さまざまな面に応用が可能だといわれている。

店舗で買い物をする際に客ほどの商品棚の前に立ち止まり、どれくらい時間をかけて考え、購入を決めるのか。そうした購買行動を可視化する「顧客動線データ」に

矢田教授は着目する。日本国内はもとより、海外でもこうした研究はあまり進んでおらず、矢田教授がセンター長を務めるデータサイエンス研究センター(DSラボ)と米国コロロンビア大学が提携し、世界的に研究を牽引している。

先述の顧客動線データと、実際の売上を示すPOSデータを組み合わせたことで、例えば、デザートは悩む時間が長く、ビールはブランド品を即決するケースが多いといった特性が判明。それらを元に、カテゴリー別に購入へのアクションを導くための店頭戦略を立てることも可能になる。



顧客動線データの分析

矢田教授は、分析から得た理論モデルをネット上などでオープンソースとして社会にフィードバック。現在、そのソースを基に実証実験が行われ、さらに多様なビジネスシーンへと顧客動線データの活用分野は拡大しつつある。

中堅中小規模向けビジネス・IT 支援情報局

ニーズ 製品 購入方法 サポート お役立ち情報・資料

Office 365 Microsoft Azure Microsoft Dynamics 365 Windows 働き方改革 キャンペーン ビジネス情報記事 あしたへ導く世界の名言 目からウロコのココロ学

動画集

デジタル365 第4回 消費者の購入意欲をごく自然な形で促し、 従来ほど景気に左右されることなく売上高を安定化する

February 2, 2017 | Posted by SMB Blog



長年培ってきた勘と経験を頼りにしたり、同業他社の取り組みを参考にした施策で、思い通りの成果をあげている企業もあるだろう。しかし、なぜ上手くいったのか、あるいは上手くいかなかったのかを検証しきれないまま、「当たるも八卦、当たらぬも八卦」で施策を展開する例もビジネスの現場では意外と多く残っている。

POS(販売時点情報管理)システムを早くから導入しデータ分析に励んできた小売業も例外ではない。確かにPOSデータを見れば、何がいつ売れたかや一緒に購入された商品は確認できる。だが「売れた理由をきちんと説明するのは難しい」と、関西大学のデータサイエンス研究センター長を務める矢田勝俊教授は語る。「売り場の棚割りの工夫やマーケティング施策を同じように実行しても、結果は違ってくる。この差がどうして生まれるのか、POSデータを解析しただけでは詳しくは分からない」と続ける。

そんな中、今まで見えなかった現状を可視化できるとして、あらゆるモノがインターネットにつながるIoT(モノのインターネット化)や、IoTによって生み出される大量のビッグデータを活用する機運は日増しに高まっている。中でもマーケティングにおいては、これまで捕捉が難しかった売り場での消費者の動き(動線)を捉えることで、店舗内のマーケティング高度化を図りやすくなるとの期待がふくらむ。

プロセスの可視化で、商品を前に葛藤する消費者の姿が浮かび上がる

動線を店舗内マーケティングに活用する最大の利点は、消費者が商品を購入するまでのプロセスを正確に捉えられる点にある。販売の結果を示すPOSデータだけでなく「顧客が悩んだ末に商品を買ったのか即決したのか分からない」(矢田教授)が、動線とPOSデータを組み合わせて分析することで「ブラックボックスだったプロセスが見えるようになる」。

例えば、無線通信機器であるRFIDタグをショッピングカートに取り付け、店内に設置したリーダーでRFIDタグを持つ固有のIDを読み取る。すると、ショッピングカートが店内のどこをいつ通過したかはもちろん、多くのショッピングカートが通過する売り場や、特定の売り場での滞在時間まで手に取るように把握できる。

商品が売れるまでのこうしたプロセスからは、消費者の心の中が浮かび上がってくる。生鮮品や日用品を扱うスーパーは女性客の割合が多いこともあり、

Dynamics 365 オンライン個別デモ申し込み

専任の担当者がオンライン ミーティング ツールを使って、お客様のご関心の業務シナリオに沿ってご紹介いたします。無料ですのでお気軽にお申し込みください。



[詳細はこちら](#)

マイクロソフト ビジネスライブラリ

中堅中小企業のクラウド活用成功事例やビジネスに役立つOffice テンプレート、Tips集など公開中。クラウドを活用した新時代のビジネス情報サイト



[詳細はこちら](#)

起業する前に知っておきたかったこと

起業家のヒントをご紹介・重要なことを見極めて、自分の価値に忠実であり続ける
・成功の秘訣を見つける
・数字に注意してデータを分析する



ショッピングカートがデザート売り場で長く滞在する傾向がある。ところが、「売り場への訪問率や滞在時間の割に商品の購入率は低い」と矢田教授は説明する。食欲をそそる色々な商品を前に「甘いデザートを食べたい」との思いと「今日は我慢しよう」という思いが交錯するが、最終的に買うのをためらう顧客が多い様子がうかがえる。

一方で、「アルコール飲料コーナーの滞在時間は驚くほど短い購入率は高い。売り場を訪れた顧客の実に6〜7割が商品を買う」(矢田教授)そうだ。ビールや第3のビール、サワーなどさまざまな商品の中から、夫の晩酌用に「手ごろな値段」の商品をあまり迷わずショッピングカートに入れ、別の売り場に向かう主婦の姿が浮かんでくる。

当然だが、消費者が商品を購入するまでの行動と心の動きは異なるので、販促策の効果も売り場ごとに違ってくる。例えば、デザート売り場では、食べることで得られる満足感を訴求するポップ広告の設置が迷う顧客の背中を押し、販売に結びつく可能性がある。しかし、アルコール飲料コーナーに同種のポップ広告を設置したところで、売り場滞在時間の延長や購入率の一段の向上は見込みにくい。

見逃し続けてきた本質的な業務課題の存在も明らかに

商品購入プロセスを可視化し販売実績と組み合わせて分析した結果、見逃し続けてきた店舗内の非効率性が明らかになる例もある。

小売業者は買い得商品を紹介するチラシを作成するなど、消費者を自店に呼び込む努力を重ねている。特売品の売り場には目立つポップ広告を設置し、より多くの顧客に商品を購入してもらおう工夫にも余念がない。それにも関わらず、「売上高が思ったほど増えない」ことはないだろうか。

動線分析の結果、多くの集客と特売品売り場への誘導に成功していたのであれば、売り場の商品在庫が少なくなったために顧客の買う気を削いでしまい、販売機会を損失した可能性が考えられる。この場合、真っ先に改善すべきポイントは、チラシ/ポップ広告の内容や品ぞろえの見直しではない。むしろ、適切な在庫管理や販売状況に即応したバックヤードからの品出しといった基本的な店舗オペレーションを変えることである。矢田教授がかかわってきた数々の国内プロジェクトの中には、こういったオペレーションの課題が見つかるケースが少なからずあったという。

動線分析を実践する環境は格段に整いつつある。RFIDタグだけでなく、赤外線センサーや500円硬貨ほどの小型ビーコンを使い動線分析用のデータを収集する仕組みは、ひと昔前に比べれば容易に構成できる。加えて、安価なクラウドサービスの普及によって、動線を示す大量のセンサーデータを蓄積しやすくなった。自社の店舗を訪れる顧客の心をつかむために、そろそろ動線分析の導入を検討し始めても損はなからう。

矢田教授が率いるデータサイエンス研究センターは、すでに動線分析よりも一歩踏み込んだ研究に乗り出している。具体的には、視線の動きを捕捉したアイトラッキングデータを集め、棚の前に立った消費者がどのように商品へ関心を持ったかを分析。販売実績データや店舗内の動線データと合わせて活用することで、商品の配置にまで配慮した店舗内マーケティングのモデル確立を目指す。

Posted in [ビジネス情報記事](#) Tagged [ビジネス情報記事](#)

Join the conversation

0
comments

Add comment

[詳細はこちら](#)

キャンペーン情報

中堅中小企業のお客様にただいま実施中のキャンペーンをご紹介します。ぜひご覧ください。

[詳細はこちら](#)

イベント・セミナー情報

マイクロソフトおよびパートナー企業による中堅中小企業のお客様を対象とした各種イベント、セミナーの開催情報を掲載しております。毎週木曜日更新です。ぜひご覧ください。

[詳細はこちら](#)

Office Blog

3D プリントを用いた課題解決型学習に OneNote を活用

May 11, 2017

[Japan Office Official Blog](#)

Office 365 Education でクラスに最先端の共同作業を

May 11, 2017

[Japan Office Official Blog](#)

機能強化された Outlook Customer Manager を全世界に向けてロールアウト

May 10, 2017

[Japan Office Official Blog](#)

Excel データから Visio のプロセス図を自動的に作成

May 8, 2017

[Japan Office Official Blog](#)

OneNote Class Notebook の更新: 保護者の読み取り専用アクセスと共同作業スペースのアクセス許可が可能に

April 25, 2017

[Japan Office Official Blog](#)

フィードその他

[Subscribe to the SMB RSS Feed](#)

Archives

[May 2017](#)

[April 2017](#)

[March 2017](#)

[February 2017](#)

[January 2017](#)

[December 2016](#)

[November 2016](#)

[October 2016](#)

DSラボ研究会

研究会名	開催日	会場	テーマ	概要	参加者
共同研究会	平成26年11月17日 (3日間)	コロンビア大学	・消費者行動モデルの構築について ・顧客動線研究とアイトラッキングの類似性と応用可能性について	Rajeev Kohli氏、Oded Netzer氏（コロンビア大学）と研究テーマについて議論した	Rajeev Kohli氏、Oded Netzer氏、矢田勝俊（商学部・教授）
第1回研究会	平成26年10月15日	関西大学千里山キャンパス ソシオネットワーク戦略研究 機構・経商研究棟 4階 DSラボ共同研究室2	研究報告	始めに金子PDよりこれまでの研究についての発表があり、その後、消費者行動分析を中心とした周辺分野への応用を検討した。	矢田 勝俊（商学部・教授）、高井 啓二（商学部・准教授）、石橋 健（DSラボ・PD）、金子 雄太（DSラボ・PD）
第2回研究会	平成26年11月6日	関西大学千里山キャンパス ソシオネットワーク戦略研究 機構・経商研究棟 4階 DSラボ共同研究室2	研究報告	石橋PDよりこれまでに取り組んできた研究内容の紹介を行い、DSラボにおける今後の研究との関連や技術の応用について議論した。	矢田 勝俊（商学部・教授）、高井 啓二（商学部・准教授）、石橋 健（DSラボ・PD）、金子 雄太（DSラボ・PD）
第3回研究会	平成26年11月12日	関西大学千里山キャンパス ソシオネットワーク戦略研究 機構・経商研究棟 4階 DSラボ共同研究室2	研究報告	矢田教授より顧客動線データを用いたライセンシング・エフェクトに関する既存研究の紹介とDSラボにおけるライセンシング・エフェクトの検証について報告を行った。	矢田 勝俊（商学部・教授）、高井 啓二（商学部・准教授）、宮崎 慧（商学部・准教授）、石橋 健（DSラボ・PD）、金子 雄太（DSラボ・PD）、矢田ゼミ学生4名（3年次生3名、大学院生1名）
第4回研究会	平成26年11月13日	関西大学千里山キャンパス ソシオネットワーク戦略研究 機構・経商研究棟 4階 DSラボ共同研究室2	輪読会	石橋PDよりRFIDを用いた顧客動線の解析に関する文献2件の紹介、および解説を行い、それらの内容やDSラボの研究との関連について議論した。	矢田 勝俊（商学部・教授）、高井 啓二（商学部・准教授）、宮崎 慧（商学部・准教授）、石橋 健（DSラボ・PD）、金子 雄太（DSラボ・PD）、矢田ゼミ学生6名（3年次生5名、大学院生1名）
第5回研究会	平成26年11月22日	関西大学千里山キャンパス ソシオネットワーク戦略研究 機構・経商研究棟 4階 DSラボ共同研究室2	研究報告	日本のスーパーマーケットへの応用の可能性、日米比較などの方向性が議論された。日米比較では、店の大きさの違いによる影響が中心的に話し合われた	矢田 勝俊（商学部・教授）、高井 啓二（商学部・准教授）、宮崎 慧（商学部・准教授）、石橋 健（DSラボ・PD）、金子 雄太（DSラボ・PD）矢田ゼミ学生7名（3年次生6名、院生1名）
第6回研究会	平成26年11月26日	関西大学千里山キャンパス ソシオネットワーク戦略研究 機構・経商研究棟 4階 DSラボ共同研究室2	研究報告	モデルの詳細について解説がされた後、応用の方向性が議論された。	矢田 勝俊（商学部・教授）、高井 啓二（商学部・准教授）、宮崎 慧（商学部・准教授）、石橋 健（DSラボ・PD）、金子 雄太（DSラボ・PD）、矢田ゼミ学生4名（3年次生3名、大学院生1名）
第1回全体会議	平成26年12月6日	関西大学 ソシオネットワーク戦略研究 機構 マルチメディアラボ	研究報告	DSラボの目的や共同研究の可能性について議論した。また、流通チームの塩地教授より、中国の自動車市場予測について研究紹介を行い、共同研究でどのようなことができるのか議論した。	矢田勝俊・藤岡里圭・中寫道靖・木村麻子・乙政正太（商学部・教授）、塩地洋（京都大・教授）、里村卓也（慶應義塾大・教授）、椎葉淳（大阪大・准教授）、首藤昭信（神戸大・准教授）、高井啓二・宮崎慧（商学部・准教授）、石橋健・金子雄太（DSラボ・PD）、近藤康夫・雨森康倫（RISS事務）
第7回研究会	平成26年12月11日	関西大学千里山キャンパス ソシオネットワーク戦略研究 機構・経商研究棟 4階 DSラボ共同研究室2	輪読会	アイトラッキングに関する論文の輪読会として、石橋PDが調査した論文について発表し、DSラボにおける今後の研究も含めた議論を行った。	矢田 勝俊（商学部・教授）、高井 啓二（商学部・准教授）、宮崎 慧（商学部・准教授）、石橋 健（DSラボ・PD）、金子 雄太（DSラボ・PD）、矢田ゼミ学生3名（3年次生2名、大学院生1名）
第8回研究会	平成26年12月19日	関西大学千里山キャンパス ソシオネットワーク戦略研究 機構・経商研究棟 4階DSラ ボ共同研究室2	研究報告	厚みのある調査分析の結果について、活発に意見交換がなされた。金子PDによる紹介の後、他に考えるべき追加の項目や日本の食料品店への応用の可能性、日米比較などが議論	矢田 勝俊（商学部・教授）、高井 啓二（商学部・准教授）、宮崎 慧（商学部・准教授）、石橋 健（DSラボ・PD）、金子 雄太（DSラボ・PD）、矢田ゼミ学生3名（3年次生2名、院生1名）

研究会名	開催日	会場	テーマ	概要	参加者
第9回研究会	平成26年1月18日	関西大学千里山キャンパス ソシオネットワーク戦略研究 機構・経商研究棟 4階 DSラボ共同研究室2	研究報告	商品の棚への最適配置に関する論文について石橋PDが発表	矢田 勝俊 (商学部・教授)、高井 啓二 (商学部・准教授)、宮崎 慧 (商学部・准教授)、石橋 健 (DSラボ・PD)、金子 雄太 (DSラボ・PD)、矢田ゼミ学生3名 (3年次生2名、大学院生1名)
第10回研究会	平成26年2月23日	関西大学 ソシオネットワーク戦略研究 機構 マルチメディアラボ	流通業におけるビッグデータ活用への取り組み	これまでと今後の研究展望について紹介 DSラボで実際に扱っているデータやそのハンドリングについて現状や課題を紹介	矢田 勝俊 (商学部・教授)、鶴飼 康東 (政策創造学部・名誉教授)、土倉 莞爾 (RISS・非常勤研究員)、高井 啓二 (商学部・准教授)、宮崎 慧 (商学部・准教授)、石橋 健 (DSラボ・PD)、金子 雄太 (DSラボ・PD)、他DSラボ関係者7名 加藤 直樹 (京都大学・工学研究科・教授)、他CREST関係者9名
共同研究会	平成26年3月3日 (2日間)	コロンビア大学	・消費者行動モデルの構築について ・顧客動線研究とアイトラッキングの類似性と応用可能性について	Rajeev Kohli氏、Oded Netzer氏 (コロンビア大学) と研究テーマについて議論した	Rajeev Kohli氏、Oded Netzer氏、矢田 勝俊 (商学部・教授)
第11回研究会	平成27年4月8日	関西大学千里山キャンパス ソシオネットワーク戦略研究 機構・経商研究棟 4階 DSラボ共同研究室2	研究報告	オンラインショッピングにおける消費者間の相互作用が与える市場への影響について提案する理論やモデルの紹介し、それに対するDSラボのメンバーからの意見やアドバイスを含めた議論を行った。	矢田 勝俊 (商学部・教授)、高井 啓二 (商学部・准教授)、宮崎 慧 (商学部・准教授)、石橋 健 (DSラボ・PD)、金子 雄太 (DSラボ・PD)、李 振 (DSラボ・PD)、柴崎 英 (商学研究科・大学院生)
第12回研究会	平成27年4月22日	関西大学千里山キャンパス ソシオネットワーク戦略研究 機構・経商研究棟 4階 DSラボ共同研究室2	研究報告	ライセンスリング・エフェクトの逆ロジックの影響について研究報告を行った。	Michel Wedel (メリーランド大学・教授)、Jie Zhang (メリーランド大学・教授)、矢田 勝俊 (商学部・教授)、里村 卓也 (慶應義塾大学・教授)、中島 道靖 (商学部・教授)、木村 麻子 (商学部・教授)、藤岡 里主 (商学部・教授)、高井 啓二 (商学部・准教授)、宮崎 慧 (商学部・准教授)、中原 孝信 (専修大学・講師)、他7名
第13回研究会	平成27年6月15日	関西大学千里山キャンパス ソシオネットワーク戦略研究 機構・経商研究棟 4階 DS ラボ共同研究室2	研究打ち合わせ	6月末に開催予定のDSラボワークショップへ向けて、アイトラッキングに関する研究案についてサブ・ミーティングを行った。	矢田 勝俊 (商学部・教授)、高井 啓二 (商学部・准教授) 宮崎 慧 (商学部・准教授)、石橋 健 (DSラボ・PD)、金子 雄太 (DSラボ・PD)、李 振 (DSラボ・PD)、柴崎 英 (商学研究科・大学院生)
第14回研究会	平成27年6月19日	関西大学千里山キャンパス ソシオネットワーク戦略研究 機構・経商研究棟 4階 DSラボ共同研究室2	研究打ち合わせ	Skypeを通じて慶應義塾大学里村教授とアイトラッキングに関する研究の打ち合わせを行った。	矢田 勝俊 (商学部・教授)、里村 卓也 (慶應義塾大学・教授) 高井 啓二 (商学部・准教授)、宮崎 慧 (商学部・准教授)、石橋 健 (DSラボ・PD)、金子 雄太 (DSラボ・PD)、李 振 (DSラボ・PD)、柴崎 英 (商学研究科・大学院生)
第15回研究会	平成27年7月4日	関西大学千里山キャンパス ソシオネットワーク戦略研究 機構・経商研究棟 6階 マルチメディアラボ	研究報告および研究案の提案	メリーランド大学のWedel教授とZhang教授にご講演いただくとともに、DSラボよりアイトラッキングを用いた顧客行動分析に関する2つの研究案を提案した。	矢田 勝俊 (商学部・教授)、高井 啓二 (商学部・准教授) 宮崎 慧 (商学部・准教授)、石橋 健 (DSラボ・PD)、金子 雄太 (DSラボ・PD)、李 振 (DSラボ・PD)、柴崎 英 (商学研究科・大学院生)
第16回研究会	平成27年7月13日	関西大学千里山キャンパス ソシオネットワーク戦略研究 機構・経商研究棟 4階 DSラボ共同研究室2	研究計画	DSラボワークショップにてWedel先生、Zhang先生よりいただいた意見をまとめ、今後の研究計画について議論した。	矢田 勝俊 (商学部・教授)、高井 啓二 (商学部・准教授)、宮崎 慧 (商学部・准教授)、石橋 健 (DSラボ・PD)、金子 雄太 (DSラボ・PD)、李 振 (DSラボ・PD)
第17回研究会	平成27年7月22日	関西大学千里山キャンパス ソシオネットワーク戦略研究 機構・経商研究棟 4階 DSラボ共同研究室2	実験計画の経過報告	PD3名よりアイトラッキングの実験計画の経過報告が行われた (石橋より)	矢田 勝俊 (商学部・教授)、藤岡 里主 (商学部・教授)、白 寅秀 (株式会社ロッテショッピング諮問)、孫 一善 (東京大学大学院・特別研究員)、塩地 洋 (京都大学・教授)、加藤 司 (大阪市立大学・教授)、崔 相謙 (流通科学大学・教授)、李 在鎬 (京都橋大学・教授)、高井 啓二 (商学部・准教授)、宮崎 慧 (商学部・准教授)、他

研究会名	開催日	会場	テーマ	概要	参加者
第18回研究会	平成27年8月3日	東京大学 本郷キャンパス 首藤研究室	研究打ち合わせ	共同研究の進捗度合いのチェックと今後の課題について打ち合わせを行った。	乙政 正太(商学部・教授)、岩崎 拓也(商学部・准教授)、椎葉 淳(大阪大学、教授)、首藤 昭信(東京大学・准教授)、
第19回研究会	平成27年8月6日	関西大学千里山キャンパス 100周年記念会館 1階 「第1特別会議室」	韓国における流通、および小売業に関する講演	株式会社ロッテショッピング諮問・白氏と東京大学大学院薬学系研究科特別研究員・孫氏より、韓国における流通、および小売業に関する講演を行った。	
第20回研究会	平成27年10月16日	東京大学 本郷キャンパス 首藤研究室	研究打ち合わせ	共同研究の進捗度合いのチェックと今後の課題について打ち合わせを行った。	乙政 正太(商学部・教授)、岩崎 拓也(商学部・准教授)、椎葉 淳(大阪大学、教授)、首藤 昭信(東京大学・准教授)、
第21回研究会	平成27年10月28日	関西大学千里山キャンパス ソシオネットワーク戦略研究機構・経商研究棟 4階 DSラボ共同研究室2	研究報告	石橋PDよりアイトラッキングの実験計画の進捗状況報告、李PDよりICDM内ワークショップ(DMS)の論文発表事前報告を行った。	矢田 勝俊(商学部・教授)、高井 啓二(商学部・准教授)、宮崎 慧(商学部・准教授)、石橋 健(DSラボ・PD)、金子 雄太(DSラボ・PD)、李 振(DSラボ・PD)
第22回研究会	平成27年10月28日	関西大学千里山キャンパス ソシオネットワーク戦略研究機構・経商研究棟 4階 DSラボ共同研究室2	研究打ち合わせ	財務諸表において、次年度の株価や利益の上下に加えて、経営者の報酬の予測について、モデリングを行うことを提案した。	岩崎 拓也(商学部・准教授)、高井 啓二(商学部・准教授)、宮崎 慧(商学部・准教授)、石橋 健(DSラボ・PD)、金子 雄太(DSラボ・PD)、李 振(DSラボ・PD)
第23回研究会	平成27年11月26日	関西大学千里山キャンパス ソシオネットワーク戦略研究機構・経商研究棟 6階 マルチメディアラボ	研究打ち合わせ	情報チームと流通チームとの共同研究に関して、今後の方向性を決定するために双方のチームに対するヒアリングを行った。	藤岡里圭(商学部・教授)、高井 啓二(商学部・准教授)、宮崎 慧(商学部・准教授)、石橋 健(DSラボ・PD)、金子 雄太(DSラボ・PD)、李 振(DSラボ・PD)
第24回研究会	平成27年11月27日	関西大学千里山キャンパス ソシオネットワーク戦略研究機構・経商研究棟 6階 マルチメディアラボ	研究打ち合わせ	財務諸表を用いた株価や経営者報酬の予測について、どのように数理統計モデルを適用していくかが具体的に話し合われた。	矢田 勝俊(商学部・教授)、乙政 正太(商学部・教授)、岩崎 拓也(商学部・准教授)、椎葉 淳(大阪大学・教授)、高井 啓二(商学部・准教授)、宮崎 慧(商学部・准教授)、石橋 健(DSラボ・PD)、金子 雄太(DSラボ・PD)、李 振(DSラボ・PD)
第25回研究会	平成27年12月5日	Shangri-La's Fijian Resort, Fiji	研究打ち合わせ	環境チームが計画しているデータサイエンス(データマイニングなど)を活用した生産工程内での資源生産性向上研究について、情報共有するとともに、今後の進め方に関して議論した。	中島 道晴(商学部・教授)、岩崎 拓也(商学部・准教授)、高井 啓二(商学部・准教授)、金子 雄太(DSラボ・PD)、李 振(DSラボ・PD)
第26回研究会	平成27年12月22日	大阪・梅田	研究打ち合わせ	流通チームより、新興国におけるモータリゼーションの析出方法およびデータの構成について紹介し、情報共有するとともに、研究目標と今後の進め方に関して議論した。	藤岡 里圭(商学部・教授)、塩地 洋(京都大学・教授)、宮崎 慧(商学部・准教授)、李 振(DSラボ・PD)
第27回研究会	平成28年1月13日	関西大学千里山キャンパス ソシオネットワーク戦略研究機構・経商研究棟 6階 マルチメディアラボ	研究打ち合わせ	統計モデルの属性選択が専門の廣瀬助教を迎えて、岩崎准教授から提供された財務諸表データを用いた収益予測モデルの構築について議論した。	矢田 勝俊(商学部・教授)、乙政 正太(商学部・教授)、岩崎 拓也(商学部・准教授)、高井 啓二(商学部・准教授)、宮崎 慧(商学部・准教授)、廣瀬 慧(大阪大学・助教)、石橋 健(DSラボ・PD)、金子 雄太(DSラボ・PD)

研究会名	開催日	会場	テーマ	概要	参加者
第28回研究会	平成28年1月27日	関西大学千里山キャンパス ソシオネットワーク戦略研究 機構・経商研究棟 6階 マルチメディアラボ	研究報告	ライセンス・エフェク トの論文投稿に係る分析結 果の報告を行った。	矢田 勝俊(商学部・教授)、馬場一 (商学部・教授)宮崎 慧(商学部・准 教授)、石橋 健(DSラボ・PD)
第29回研究会	平成28年2月1日	関西大学千里山キャンパス ソシオネットワーク戦略研究 機構・経商研究棟 6階 マルチメディアラボ	研究打ち合わせ	藤岡教授より、日本のアパ レル産業における生産の現 状と統計データに関する紹 介を行い特定の衣料の生産 着数の推定の手法について 議論を行った。	藤岡 里圭(商学部・教授)、高井 啓 二(商学部・准教授)、宮崎 慧(商学 部・准教授)、李 振(DSラボ・PD)
第30回研究会	平成28年2月19日	関西大学千里山キャンパス ソシオネットワーク戦略研究 機構・経商研究棟 6階 マルチメディアラボ	研究報告	それぞれの変数選択を用い た、収益予測モデルの構築 について、その方法と試行 結果を紹介した。	矢田 勝俊(商学部・教授)、乙政 正 太(商学部・教授)、岩崎 拓也(商学 部・准教授)、宮崎 慧(商学部・准教 授)、廣瀬 慧(大阪大学・助教)、石 橋 健(DSラボ・PD)、金子 雄太(DS ラボ・PD)、李 振(DSラボ・PD)
第31回研究会	平成28年3月3日	関西大学千里山キャンパス ソシオネットワーク戦略研究 機構・経商研究棟 6階 マルチメディアラボ	研究打ち合わせ	様々な属性選択を用いたモ デル構築の結果を報告し、 今後の論文投稿について議 論を行った。	矢田 勝俊(商学部・教授)、乙政 正 太(商学部・教授)、岩崎 拓也(商学 部・准教授)、高井 啓二(商学部・准 教授)、石橋 健(DSラボ・PD)、金子 雄太(DSラボ・PD)、李 振(DSラボ・ PD)
第32回研究会	平成28年3月18日	関西大学千里山キャンパス 尚文館	講演会	グローバル・ファッショ ン・ビジネス・ワーク ショップと題して、藤岡教 授より、Ben准教授、 Hristov准教授、阿部教 授、大田教授を招へいし、 ファッションビジネスにつ いての講演を行った。	矢田 勝俊(商学部・教授)、藤岡 里 圭(商学部・教授)、石橋 健(DSラ ボ・PD)、金子 雄太(DSラボ・PD)、 李 振(DSラボ・PD)、他
第33回研究会	平成28年4月18日	関西大学千里山キャンパス ソシオネットワーク戦略研究 機構・経商研究棟 6階 マルチメディアラボ	研究打ち合わせ	流通チームと情報チームの 今後の共同研究の進め方 について話し合いが行われ た。	藤岡 里圭(商学部・教授)、塩地 洋 (京都大学・教授)、ピエール＝イブ、 ドンゼ(大阪大学・准教授)、高井 啓 二(商学部・准教授)、宮崎 慧(商学 部・准教授)、李 振(東洋大学・専任 講師)、金子 雄太(DSラボ・PD)、
第34回研究会	平成28年7月8日	関西大学千里山キャンパス ソシオネットワーク戦略研究 機構・経商研究棟 6階 マルチメディアラボ	研究打ち合わせ	会計チームと情報チームと の共同研究について、進捗 報告と今後の方向性につ いて打ち合わせを行った。	岩崎 拓也(商学部・准教授)、高井 啓二(商学部・准教授)、宮崎 慧(商 学部・准教授)、石橋 健(DSラボ・ PD)、金子 雄太(DSラボ・PD)
第35回研究会	平成28年7月20日	関西大学千里山キャンパス ソシオネットワーク戦略研究 機構・経商研究棟 4階	研究打ち合わせ	石橋PDより研究報告を し、論文構成や投稿までの プロセスについて議論し た。	馬場一(商学部・教授)、矢田 勝俊 (商学部・教授)、宮崎 慧(商学部・ 准教授)、石橋 健(DSラボ・PD)
第36回研究会	平成28年8月9日	関西大学千里山キャンパス ソシオネットワーク戦略研究 機構・経商研究棟 6階 マルチメディアラボ	研究打ち合わせ	塩地教授より世界各国の自 動車保有台数の統計デー タ作成に関する依頼内容の 説明と、 今後の研究計画について議 論を行った。	塩地 洋(京都大学・教授)、宮崎 慧 (商学部・准教授)、高井 啓二(商学 部・准教授)、石橋 健(DSラボ・ PD)、金子 雄太(DSラボ・PD)
第37回研究会	平成28年8月19日	関西大学千里山キャンパス ソシオネットワーク戦略研究 機構・経商研究棟 6階 マルチメディアラボ	研究報告	金子PDより百貨店の市場 規模と身の回り品との関係 性について調査結果報告を 行い、可処分所得と現在の 年報のデータを用いて、景 気が衣料や身の回り品など のカテゴリーへ与える影響 について分析することと なった。	藤岡里圭(商学部・教授)、宮崎 慧 (商学部・准教授)、石橋 健(DSラ ボ・PD)、金子 雄太(DSラボ・PD)、 李 振(東洋大学・専任講師)
第38回研究会	平成28年8月20日	関西大学千里山キャンパス ソシオネットワーク戦略研究 機構・経商研究棟 6階 マルチメディアラボ	研究打ち合わせ	塩地教授より、約50か国の 1950年代からの自動車保有 台数とGDPのデータと関連 する既存研究に基づいて、 今後の研究計画についての 提案と議論を行った。	塩地 洋(京都大学・教授)、矢田 勝 俊(商学部・教授)、石橋 健(DSラ ボ・PD)、金子 雄太(DSラボ・PD)、 李 振(東洋大学・専任講師)

研究会名	開催日	会場	テーマ	概要	参加者
第39回研究会	平成28年9月1日	関西大学千里山キャンパス ソシオネットワーク戦略研究 機構・経商研究棟 6階 マルチメディアラボ	研究打ち合わせ	李振先生、金子PDから分析結果の報告をし、今後の方向性について議論を行った。	藤岡里圭（商学部・教授）、石橋 健（DSラボ・PD）、金子 雄太（DSラボ・PD）、李 振（東洋大学・専任講師）
第40回研究会	平成28年9月30日	関西大学千里山キャンパス ソシオネットワーク戦略研究 機構・経商研究棟 6階 マルチメディアラボ	研究打ち合わせ	李先生よりAPWC on CSE 2016へ投稿した論文の報告を行い、それを踏まえて塩地教授との今後の共同研究について議論した。	塩地 洋（京都大学・教授）、宮崎 慧（商学部・准教授）、李 振（東洋大学・専任講師）、石橋 健（DSラボ・PD）、金子 雄太（DSラボ・PD）
第41回研究会	平成28年10月3日	京都テルサ	研究発表会	Bernd Wagner教授とRalph Thurm氏を招き、講演をしていただくとともに、今後の共同研究について議論した。	矢田 勝俊（商学部・教授）、中島 道靖（商学部・教授）、木村 麻子（商学部・教授）、宮崎 慧（商学部・准教授）、石橋 健（DSラボ・PD）、金子 雄太（DSラボ・PD）他
第42回研究会	平成28年10月19日	関西大学千里山キャンパス ソシオネットワーク戦略研究 機構・経商研究棟 4階	研究打ち合わせ	ライセンスリング・エフェクトに関する論文投稿に関して、馬場先生、宮崎先生、石橋PDの報告から現在の結果を整理するとともに、論文全体の構成や異なるモデリングの可能性について議論した。	矢田 勝俊（商学部・教授）、馬場一（商学部・教授）、宮崎 慧（商学部・准教授）、石橋 健（DSラボ・PD）
第43回研究会	平成28年11月2日	関西大学千里山キャンパス ソシオネットワーク戦略研究 機構・経商研究棟 6階 マルチメディアラボ	研究打ち合わせ	招へい研究者オレグ・デムチェンコ准教授へ石橋PD、金子PDより顧客動線分析に関する研究紹介をするとともに、共同研究の可能性について議論した。	オレグ・デムチェンコ（サンクトペテルブルク大学・准教授）、石橋 健（DSラボ・PD）、金子 雄太（DSラボ・PD）
第44回研究会	平成28年11月17日	関西大学千里山キャンパス ソシオネットワーク戦略研究 機構・経商研究棟 6階 マルチメディアラボ	講演会	Prof. Carstenから工業製品の性能分析について、データ収集から分析ノウハウまで幅広く講演していただいた。	Carsten Felden (University for Mining and Technology Freiberg)、中島 道靖（商学部・教授）、木村 麻子（商学部・教授）、岡 照二（商学部・准教授）、宮崎 慧（商学部・准教授）、金子 雄太（DSラボ・PD）
第45回研究会	平成28年11月26日	東京大学 本郷キャンパス 首藤研究室	研究打ち合わせ	共同研究の進捗度合いのチェックと今後の課題について打ち合わせを行った。	乙政 正太（商学部・教授）、岩崎 拓也（商学部・准教授）、椎葉 淳（大阪大学・教授）、首藤 昭信（東京大学・准教授）、
第46回研究会	平成29年1月26日	関西大学千里山キャンパス ソシオネットワーク戦略研究 機構・経商研究棟 6階 マルチメディアラボ	研究報告	中島教授よりDSラボ環境チームと情報チームとの共同研究に関する提案、および共同研究の準備状況の報告などを行った。	矢田 勝俊（商学部・教授）、中島 道靖（商学部・教授）、木村 麻子（商学部・教授）、宮崎 慧（商学部・准教授）、村上 啓介（商学部・助教）、千葉 貴宏（商学部・助教）、石橋 健（DSラボ・PD）、金子 雄太（DSラボ・PD）
第47回研究会	平成29年2月9日	関西大学千里山キャンパス ソシオネットワーク戦略研究 機構・経商研究棟 6階 マルチメディアラボ	研究打ち合わせ	蘇氏により顧客動線研究に関する研究発表、および武PDよりこれまでに取り組んできた研究内容の紹介を行い、大学院生と研究員との意見交換をするとともに、武PDのDSラボにおける今後の研究との関連や技術の応用について議論した。	矢田 勝俊（商学部・教授）、宮崎 慧（商学部・准教授）、村上 啓介（商学部・助教）、石橋 健（DSラボ・PD）、金子 雄太（DSラボ・PD）、武 博（DSラボ・PD）、蘇威迪（商学研究科・M2）
第48回研究会	平成29年2月13日	関西大学千里山キャンパス ソシオネットワーク戦略研究 機構・経商研究棟 6階 マルチメディアラボ	研究打ち合わせ	石橋PDと武PDより、アイトラッキングに関する研究を紹介し、会計チームにて実施予定のアイトラッキングを用いた実験に関する意見交換を行った。	岩崎 拓也（商学部・准教授）、石橋 健（DSラボ・PD）、金子 雄太（DSラボ・PD）、武 博（DSラボ・PD）

海外での情報発信状況 ～当研究プロジェクト主催の国際ワークショップ・国際会議招待セッションなど～

名称	開催日	会場	セッション名またはテーマ	発表者/発表テーマ
18th International Conference on Knowledge-Based and Intelligent Information & Engineering Systems	平成26年9月15日～17日	Gdynia, Poland.	Data Science for Big Data	<u>Natsuki Sano, Katsutoshi Yada.</u> "Evaluation of price elasticity and brand loyalty in milk products" <u>Katsutoshi Yada.</u> "Consumer purchasing behavior extraction using statistical learning theory"
The 2014 IEEE International Conference on Systems, Man, and Cybernetics (SMC2014)	平成26年10月5日～8日	San Diego, USA	Data Science for Big Data	<u>Natsuki Sano</u> "Efficient Parameter Selection for Support Vector Regression Using Orthogonal Array". <u>Katsutoshi Yada.</u> "Using Bayesian Network for Purchase Behavior Prediction from RFID Data".
IEEE International Workshop on Data Mining for Service (DMS2014)	平成26年12月14日	Shenzhen, China	Data Mining for Service	司会 <u>矢田勝俊</u>
19th International Conference on Knowledge-Based and Intelligent Information & Engineering Systems	平成27年9月7日～9日	Singapore, Singapore	Data Science for Big Data	<u>Natsuki Sano, Katsutoshi Yada.</u> "Recommendation system for grocery store considering data sparsity" <u>Ken Ishibashi</u> Verification of effect on next purchase when many vice category products are brought <u>Yuta Kaneko</u> Visualization System for Shopping Path
IEEE International Workshop on Data Mining for Service (DMS2015)	平成27年11月14日	Atlantic City, NJ, USA	Data Mining for Service	<u>Zhen Li and Katsutoshi Yada</u> "Why Do Retailers End Price Promotions: A Study on Duration and Profit Effects of Promotion"
MISNC 2016	平成28年8月15日～17日	Kean University Campus, New Jersey	Data Mining for Marketing in the Real World	<u>Katsutoshi Yada</u> "Data mining for marketing in the real world"
20th International Conference on Knowledge-Based and Intelligent Information & Engineering Systems	平成28年9月5日～7日	York, UK	Data Science for Big Data	<u>Natsuki Sano, Tomomichi Suzuki, Reo Tsutsui, Katsutoshi Yada</u> "Clustering of customer shopping paths in Japanese grocery stores" <u>Ken Ishibashi, Takuya Iwasaki, Shota Otomasa, Katsutoshi Yada</u> "Model selection for financial statement analysis: Variable selection with data mining technique" <u>Yuta Kaneko, Katsutoshi Yada</u> "Fractal Dimension of Shopping Path: Influence on Purchase Behavior in a Supermarket"
The 2016 IEEE International Conference on Systems, Man, and Cybernetics (SMC2016)	平成28年10月9日～12日	Budapest, Hungary	Data Mining for Service	<u>Katsutoshi Yada, Yi Zuo</u> "Information Systems for Design and Marketing"
APWC on CSE 2016	平成28年12月5日～6日	Denarau Island, Fiji	Computer Science and Engineering	<u>Zhen Li, Ken Ishibashi, Yuta Kaneko, Kei Miyazaki, Hiromi Shioji, Katsutoshi Yada</u> "Vehicle Ownership and Economic Development" <u>Yi Zuo, Katsutoshi Yada, A B M Shawkat Ali</u> "Prediction of Consumer Purchasing in a Grocery Store Using Machine Learning Techniques"
IEEE International Workshop on Data Mining for Service (DMS2016)	平成28年12月12日	Barcelona, Spain	Data Mining for Service	<u>Yuta Kaneko and Katsutoshi Yada</u> "A Deep Learning Approach for the Prediction of Retail Store Sales"

今後の予定

名称	開催日	会場	セッション名またはテーマ
21th International Conference on Knowledge-Based and Intelligent Information & Engineering Systems	平成29年9月6日～8日	Marseille, France	Data Science for Big Data